

一級河川天野川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

八ノ坪遺跡・田原城跡
発掘調査概要報告書



2001年2月

四條畷市教育委員会



1. 田原地区遠景（南西から）



2. 田原地区遠景（南東から）



1. 遠 景（北から）（中央の丘陵が田原城跡）



2. 遠 景（南西から）（左側中央の丘陵が田原城跡）



1. 遠 景（東から）（中央の丘陵が田原城跡）



2. 遠 景（北東から）（右側中央の丘陵が田原城跡）



1. 近 景（南西から）（左側の丘陵が田原城跡）



2. 近 景（南東から）（中央の丘陵が田原城跡）



1. 近 景（北東から）（右側の丘陵が田原城跡）



1. 近 景（北西から）（中央の丘陵が田原城跡）



1. 近 景（河川改修後南東から）



2. 近 景（河川改修後北東から）



青磁合子



青磁・白磁



国産陶磁器



国産陶器



土製馬形



土製馬形と共に伴遺物



土 鈴



石 器 類

一般河川天野川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

八ノ坪遺跡・田原城跡
発掘調査概要報告書

2001年2月

四條畷市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、平成10年度に実施した一級河川天野川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
- 2 発掘調査は、大阪府枚方土木事務所から委託を受け、四條畷市教育委員会が実施した。調査期間等は本文中に記載している。
- 3 発掘調査は、四條畷市教育委員会文化振興部生涯学習推進室 主任 野島 稔と技術職員 村上 始を担当者とし実施した。
- 4 発掘調査の実施および本書の作成にあたっては、大阪府枚方土木事務所・大阪府教育委員会文化財保護課・奈良県立橿原考古学研究所・財枚方市文化財研究調査会 櫻井 敬夫氏・地元自治会の御協力・御教示を得た。厚く感謝の意を表したい。
- 5 調査補助については谷本 由紀が、出土遺物の整理・実測については村上 始・佐野 喜美・駒田 佳子・出伏 美智代・斎藤 佐智子・北井 志穂が行なった。
- 6 本書の執筆は村上 始が行なった。
- 7 発掘調査において出土した遺物および写真・実測図面等は四條畷市教育委員会に保管している。

凡　　例

- 1 本書中のレベルは、T. P.（東京湾平均海面）を用いている。
- 2 本書中の座標は、kmを単位とする。
- 3 方位は国土平面直角座標第VI系の座標北を示す。
- 4 土色および遺物の色調は、1994年度版『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠した。

本文目次

卷頭図版

例 言・凡 例

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 調査に至る経過	3
第3章 調査の成果	7
第1節 基本層序	7
第2節 遺構	36
第3節 出土遺物	64
第4章 まとめ	94
遺物観察表	97

図 版

報告書抄録

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	5
第2図 位置図	6
第3図 配置図	6
第4図 調査地区壁断面図（1～4地区）	15～16
第5図 調査地区壁断面図（5・6地区）	17～18
第6図 調査地区壁断面図（7地区）	23～24
第7図 調査地区壁断面図（8・9地区）	27～28
第8図 調査地区壁断面図（10・11地区）	31～32
第9図 調査地区壁断面図（12・13地区）	33～34
第10図 遺構平面図（1～10地区）	37～38
第11図 遺構平面図（11～13地区）	61～62

第12図	1 地区出土遺物	65
第13図	2 地区出土遺物	67
第14図	3 地区出土遺物	69
第15図	4 地区出土遺物	71
第16図	5・6 地区出土遺物	74
第17図	7 地区出土遺物	76
第18図	8・9 地区出土遺物	80
第19図	10地区出土遺物	81
第20図	11・12地区出土遺物	83
第21図	13地区出土遺物	85
第22図	土製品・石製品	87
第23図	縄文土器・弥生土器	88
第24図	石器(1)	90
第25図	石器(2)	92
第26図	石器(3)	93

図版目次

卷頭図版 1	1 田原地区遠景（南西から）	2 田原地区遠景（南東から）
卷頭図版 2	1 遠景（北から）	2 遠景（南西から）
卷頭図版 3	1 遠景（東から）	2 遠景（北東から）
卷頭図版 4	1 近景（南西から）	2 近景（南東から）
卷頭図版 5	1 近景（北東から）	2 近景（北西から）
卷頭図版 6	1 近景（河川改修後南東から）	2 近景（河川改修後北東から）
卷頭図版 7	輸入陶磁器	
卷頭図版 8	国産陶磁器	
卷頭図版 9	祭祀遺物	
卷頭図版10	出土遺物	

図版 1	1	1・2地区現況	2	3・4地区現況	3	5・6地区現況
図版 2	1	7・8地区機械掘削状況	2	7・8地区機械掘削完了状況		
	3	12地区機械掘削状況				
図版 3	1	人力掘削状況	2	遺構検出状況	3	遺構掘り状況
図版 4	1	遺物1出土状況	2	遺物207出土状況	3	遺物214出土状況
図版 5	1	1～4地区遺構全景(北東から)	2	1～4地区遺構全景(南西から)		
図版 6	1	1地区遺構検出(北東から)	2	1地区遺物8出土状況(南西から)		
図版 7	1	1地区遺構全景(北東から)	2	1・2地区北壁断面(南西から)		
図版 8	1	2地区遺構検出(北東から)	2	2地区遺構全景(北東から)		
図版 9	1	3地区遺構検出(南西から)	2	3地区遺構全景(北東から)		
図版10	1	3地区遺構全景(南西から)	2	3・4地区北壁断面(北東から)		
図版11	1	4地区遺構検出(北東から)	2	4地区遺構全景(南西から)		
図版12	1	5・6地区遺構全景(北東から)	2	5・6地区遺構全景(西から)		
図版13	1	5・6地区遺構検出(南東から)	2	5・6地区遺構検出(北から)		
図版14	1	5・6地区遺構全景(南から)	2	5・6地区遺構全景(北から)		
図版15	1	5・6地区遺構全景(南東から)	2	5・6地区遺構全景(東から)		
図版16	1	5・6地区地山全景(南から)	2	5・6地区地山全景(北東から)		
図版17	1	7・8地区全景(北東から)	2	7・8地区全景(南西から)		
図版18	1	7地区第1遺構面検出(北東から)	2	7地区第1遺構面検出(南西から)		
図版19	1	7地区第1遺構面全景(北東から)	2	7地区第1遺構面全景(南西から)		
図版20	1	7地区第2遺構面検出(北東から)	2	7地区第2遺構面全景(北東から)		
図版21	1	7地区第2遺構面全景(南西から)	2	7地区地山全景(北東から)		
図版22	1	7地区東壁断面(南西から)	2	8地区遺構検出(南西から)		
図版23	1	8地区遺構全景(西から)	2	8地区地山全景(南西から)		
図版24	1	8地区南壁断面(西から)	2	8地区南壁断面(旧河川6)(北西から)		
図版25	1	9・10地区全景(南西から)	2	9・11地区全景(北西から)		
図版26	1	9地区遺構検出(北西から)	2	9地区遺構全景(北西から)		
図版27	1	9地区遺構全景(西から)	2	9地区地山全景(西から)		
	3	9地区南壁断面(北西から)				

- | | | |
|------|-------------------|------------------|
| 図版28 | 1 10地区遺構検出（南西から） | 2 10地区遺構検出（北東から） |
| 図版29 | 1 10地区遺構全景（西から） | 2 10地区地山全景（北東から） |
| 図版30 | 1 11～13地区全景（北東から） | 2 11地区遺構検出（北西から） |
| 図版31 | 1 11地区遺構全景（北西から） | 2 11地区遺構全景（南西から） |
| 図版32 | 1 12地区遺構検出（北東から） | 2 12地区遺構全景（北東から） |
| 図版33 | 1 11地区地山全景（南東から） | 2 12地区地山全景（北西から） |
| 図版34 | 1 13地区遺構検出（北西から） | 2 13地区遺構全景（北西から） |
| 図版35 | 1 13地区地山全景（南東から） | 2 13地区地山全景（南東から） |
| 図版36 | 1・2地区出土遺物 | |
| 図版37 | 2地区出土遺物 | |
| 図版38 | 2・3地区出土遺物 | |
| 図版39 | 3・4地区出土遺物 | |
| 図版40 | 4地区出土遺物 | |
| 図版41 | 4・5・6地区出土遺物 | |
| 図版42 | 5・6地区出土遺物 | |
| 図版43 | 7地区出土遺物 | |
| 図版44 | 7・8地区出土遺物 | |
| 図版45 | 8地区出土遺物 | |
| 図版46 | 8・9地区出土遺物 | |
| 図版47 | 10地区出土遺物 | |
| 図版48 | 10・11地区出土遺物 | |
| 図版49 | 11・12・13地区出土遺物 | |
| 図版50 | 13地区出土遺物 | |
| 図版51 | 土製品・石製品 | |
| 図版52 | 縄文土器 | |
| 図版53 | 縄文土器・弥生土器・石器 | |
| 図版54 | 石器 | |
| 図版55 | 石器 | |
| 図版56 | 石器 | |

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

四條畷市は大阪府の北東部に位置し、東は奈良県生駒市、西は大阪府寝屋川市、南は大阪府大東市、北は大阪府寝屋川市と交野市に接しており、南北に連なる生駒山系をはさんで西側の平野部と東側の田原盆地におおきく分けられる。市内には、ほぼ中央部を東西方向に清滝街道が、平野部には南北方向に西側から河内街道・東高野街道が通じている。田原地区には、一級河川天野川に沿って南北方向に磐船街道・ほぼ東西方向に古堤街道が通じている。今回報告する八ノ坪遺跡・田原城跡は、四條畷市の東部・生駒山系の北東部の山裾に広がる南北約2km・東西約0.8kmの範囲の田原地区の南東部、四條畷市上田原に所在し、その東端は北流する一級河川天野川を府県境として奈良県生駒市と接している。当遺跡は、東西300m・南北300mの範囲が南北朝時代から戦国時代にいたる集落跡・城館跡の複合遺跡として周知されている。

地勢は、東部が沖積層粘土及び砂礫質で西部の丘陵地は花崗岩及び大阪層群から形成されている。このうち今回報告する地区は、生駒山系から派生した丘陵の南東側を巡るように北東流する天野川両岸に立地している。付近の標高は150~155mを測り、南西から北東に向かって低くなっている。

以下四條畷市内の遺跡について時代をオット概観を述べる。

旧石器時代の遺跡としては、削器・彫器・ナイフ形石器・細石器・礫器などが出土した讚良川川床遺跡、木葉状尖頭器が出土した岡山南遺跡があげられる。縄文時代の遺跡としては、草創期の有舌尖頭器が出土した南山下遺跡と四條畷小学校内遺跡、早期の米粒文・山形文を施した押型文土器が出土した田原遺跡、中期~晚期の南山下遺跡・砂遺跡・讚良川遺跡・更良岡山遺跡がある。特に更良岡山遺跡からは、高环形土器・深鉢形土器・注口土器・土製勾玉・土偶・石器・石棒など多量の遺物が出土している。また岡山南遺跡・清滝古墳群・四條畷小学校内遺跡においても石鎧や深鉢形土器などが出土している。

弥生時代の遺跡としては、前期初頭の高さ約70cmの大壺が出土した雁屋遺跡・前期中段階の甕や壺が出土した四條畷小学校内遺跡・前期末の壺が出土した田原遺跡、中期~後期では雁屋遺跡において多くの方形周溝墓や竪穴住居跡を検出し、大量の土器や石器と共に木製四脚容器・鳥形木製品・舌状石製品などが出土している。特に竪穴住居跡の一軒は火災を受けたもので、炭化した建築部材とともに分銅形土製品が出土している。出土状況から当時の住居の規模を知る上で注目されるものである。

古墳時代前期の古墳としては、全長約90mの前方後円墳で長さ約6.3m・幅約1mの堅穴式石室から石剣・紡錘車・鉄形石・鉄劍・鉄鉢・鉄製斧・鉄製鎌・刀子・鉄鎌などが出土した忍岡古墳があげられる。中期～後期になると生駒西山麓に清滝古墳群・更良岡山遺跡・大上遺跡・城遺跡などで古墳が造営される。またこの時代は、市内をはじめ当時の河内湖縁辺部にあたるところに多くの集落が営まれるようになる。堅魚木を持つ切妻造りの家形埴輪とともに木製下駄が出土した岡山南遺跡・馬形・犬形・水鳥形・鶏形などの動物形埴輪や人物形埴輪・衣蓋形埴輪など大量の埴輪や土器類が集落内の遺構から出土した忍ヶ丘駅前遺跡・南山下遺跡、初期の須恵器や勾玉・白玉など大量の玉類・紡錘車・製塩土器が出土した中野遺跡、手捏ね土器・人形形土製品・動物形土製品・滑石製品が出土し、周溝内に小型馬が埋葬されていた方形周溝状の祭祀遺構や石敷製塩炉を検出した奈良井遺跡・水田跡や水口祭祀跡を検出した鎌田遺跡、木間池北方遺跡、四條畷小学校内遺跡、城遺跡などがある。

飛鳥・奈良時代の遺跡としては、7世紀後半の土器が一括で出土した土坑や多くの土器・陶硯と共に7体分の土製馬形が出土した河川や「…万呂」と墨書きされた土器が出土した井戸を検出した木間池北方遺跡、「大」と墨書きされた土師器坏が河川から出土した南野遺跡・素弁蓮華文軒丸瓦や土器類が出土した四條畷小学校内遺跡などがある。

寺院跡としては正法寺跡・讚良寺跡があげられる。特に正法寺跡は薬師寺式の伽藍配置であると推定されており、平成5年の大坂府教育委員会による調査で、奈良時代の掘立柱建物と平安時代の基壇建物などを検出し、創建時の素弁蓮華文軒丸瓦や重弧文軒平瓦、複弁蓮華文軒丸瓦や均整唐草文軒平瓦などが出土している。また基壇の北東角で検出した土坑内からは10世紀前半の土師器・黒色土器が多く出土し、そのうち底部外面に「正方寺」と墨書きされた土師器坏1点が含まれていた。

平安時代の遺跡としては、井戸内から底部外面に「高田宅」・「福万宅」と墨書きされている黒色土器碗や土師質皿・綠釉陶器皿などが出土した岡山南遺跡、黒色土器と甕を藏骨器に転用し納めていた土壤を検出した上清滝遺跡などがあげられる。

鎌倉時代から室町時代の遺跡は数多く存在している。四條畷市の清滝街道沿いに所在する上清滝遺跡では「塔の坊」という小字名が残っているところにおいて方形基壇を検出し、その付近の溝からは壽永三年（1184年）銘の題箋軸とともに金箔塗り光背・木製聖観音立像・漆器・箸・下駄・将棋の駒・瓦器碗・白磁・天目茶碗・茶臼・茶釜・砥石・硯などが出土している。また近くから瓦器碗を焼成した窯跡を検出している。坪井遺跡では、鎌倉

時代の鍛冶工房跡を検出している。

戦国時代では、三好長慶の居城であった飯盛山城跡があり、田原地区にはその支城であった田原城跡がある。田原城跡については、数次の発掘調査により堀や屋敷跡・深さ7.2mを測る石組みの井戸などを検出している。寺口遺跡では田原城主田原対馬守一族の墓地及び寺跡を検出した。墓地においては常滑の大甕を總供養塔の埋葬施設とした造構や古瀬戸の水注を蔵骨器に転用した墓などを検出し、副葬品として青磁袴腰香炉（大阪府指定文化財）や青白磁小壺が出土した。寺跡では、土塙跡などを検出し、多くの土器類や瓦類が出土した。また平瓦には『千光寺』と刻印されたものも出土している。

田原地区についてまとめると、文献における田原地区の初見は、保延5年（1139）の『小松寺奉加帳』で、それによると土豪が中心となって開発したことがわかる。その後開発領主としての権利を維持するために七条院に寄進して七条院領田原荘となり、修明門院・大覚寺統へと継承されていく。遺跡としては、昭和50年頃から始まった住宅公園の開発に伴う発掘調査により縄文時代・弥生時代・中世の集落跡であることが判明した田原遺跡、平安時代の社寺跡である森福寺、鎌倉時代の集落跡である的場遺跡、縄文時代・古墳時代・中世・近世の集落跡である森山遺跡、中世～近世の両墓制墓地である上田原墓地・照涌墓地、中世～近世の社寺跡・墓地である寺口遺跡、南北朝時代～戦国時代の集落跡・城館跡である八ノ坪・田原城跡があげられる。その他の文化財としては、大阪府の文化財に指定されている住吉神社の石槽や市内に7基現存している十三仏のうち2基があげられる。（第1図）

第2章 調査に至る経過

八ノ坪遺跡・田原城跡は、四條畷市上田原地内に所在する遺跡である。この遺跡は、生駒山系から派生した約30m程（標高175m）の丘陵上に築かれた田原城を中心に東西約300m・南北約300mが周知遺跡に指定されている。この田原城は上記の通り生駒山系から東へ派生した丘陵の一つを利用して築かれたものである。規模は東西約100m・南北約90mで、その構造は生駒山系に連なる西側に堀を築き、丘陵の北・東側と南側は、それぞれ丘陵の裾部を巡る北谷川と天野川をもって天然の堀をしている。また城の北側には古堤街道がはしり、飯盛山城の支城として重要な位置に築かれている。この城は本丸・二の丸・東

廊・西廊・水曲輪・西砦などから構成されている。

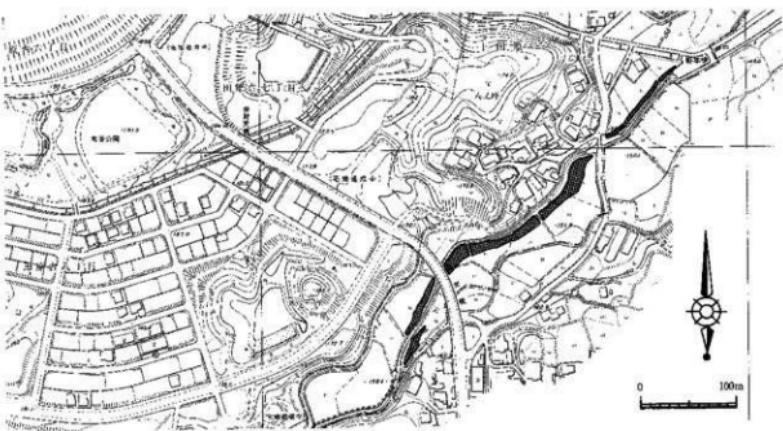
以上のような歴史環境の地域において、一級河川天野川の改修工事が計画され、平成9年10月28日付けで、大阪府枚方土木事務所から一級河川天野川の改修工事に伴う埋蔵文化財試掘調査について依頼があった。協議を行なった結果、工事の計画地域において埋蔵文化財の有無と基本層序を確認するために、平成9年11月12日に試掘調査を実施することとなり、改修工事予定地内に14ヵ所の試掘トレンチを設定して実施した。試掘調査の結果、掘立柱建物跡の柱穴や溝状遺構と共に瓦器碗・土師器皿を確認した。その後大阪府枚方土木事務所と協議を重ね、工事によって埋蔵文化財が破壊される部分について、その記録保存のために発掘調査を実施することとなった。平成10年4月27日付けで、大阪府教育委員会より当市教育委員会に一級河川天野川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査についての依頼があり、平成10年度の事業として四條畷市教育委員会が発掘調査を実施することとなつた。

調査面積は約3,359m²で、調査期間は平成10年（1998年）8月27日から平成11年3月10日までであった。

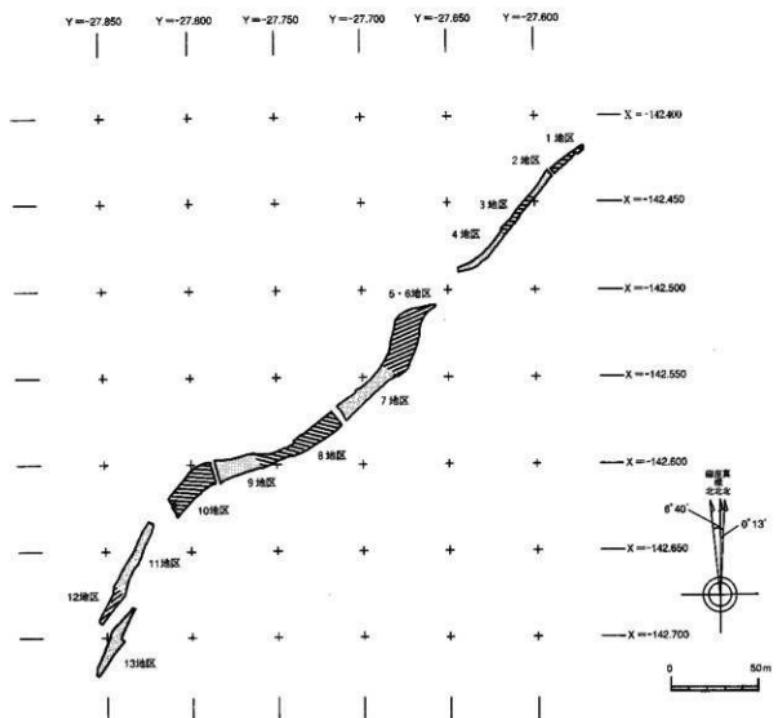
本書は、平成12年度事業として以上の発掘調査の概要報告を行なったものである。



第1図 周辺遺跡分布図



第2図 位置図



第3図 配置図

第3章 調査の成果

今回の発掘調査は、工事によって遺構の破壊が予測される部分の全面発掘調査であり、面積は約3,359m²である。なお調査地区内は、便宜上大きく1地区から13地区に分け、それぞれ国土平面直角座標値（第VI系）を用いて10m四方の区画設定を行なった。それぞれの区画は、その南西にあたる杭のX・Y値をもってその地区的名称とした。

発掘調査は、それぞれ重機で盛り土・耕土・床土を掘削した後、堆積土を層位ごとに掘り下げ、各面で遺構の有無を確認しながら進めていった。（第2・3図）

第1節 基本層序（第4～9図）

今回発掘調査の対象となった地域は、一級河川天野川沿いに広がった水田地帯に所在する。これらの水田は、地形に沿って東から西へ高くなる棚田を形成しており、発掘調査も天野川に沿った13枚の水田が対象となった。これらの調査地区は東西に細長く、総延長約400mである。発掘調査においては、便宜上それぞれの水田を1つの地区とし、下流より1・2・3…地区とした。なお1・2・3・4・11・12地区は、天野川左岸にあたり、他は右岸に位置する。

1地区の地表面の標高は東端でT.P.+149.500m、2地区の地表面の標高は東端でT.P.+149.100m、3地区の地表面の標高は東端でT.P.+149.000m、4地区の地表面の標高は東端でT.P.+149.800m、5地区の地表面の標高は東端でT.P.+151.100m、6地区の地表面の標高は東端でT.P.+151.200m、7地区の地表面の標高は東端でT.P.+151.600m、8地区的地表面の標高は東端でT.P.+152.300m、9地区的地表面の標高は東端でT.P.+153.100m、10地区的地表面の標高は東端でT.P.+153.900m、11地区的地表面の標高は東端でT.P.+155.200m、12地区的地表面の標高は東端でT.P.+155.700m、13地区的地表面の標高は東端でT.P.+155.500mであった。上記のように総延長約400mの調査地区付近は、最大標高差約7mの傾斜をもって西側へ向かって高くなっている。

以下、確認した各地区的基本層序を上層から記載する。

◎ 1 地区

- 第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+149.500m前後で、厚さは10cm～30cmである。現代の耕土。
- 第Ⅱ層 盛土 上面はT.P.+149.300m前後で、厚さは70cm～1mである。現代の盛土。
天野川の北側を流れる北谷川の工事残土を盛土としている。
- 第Ⅲ層 旧耕土 上面はT.P.+148.700m前後で、厚さは5～10cmである。
- 第Ⅳ層 旧床土 上面はT.P.+148.600m前後で、厚さは5～20cmである。
- 第Ⅴ層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+148.500m前後で、厚さは20～60cmである。
近世以降の包含層。
- 第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+148.100m前後で、厚さは40～80cmである。
旧河川による堆積土。巨石を含んでいる土層もある。

◎ 2 地区

- 第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+149.100m前後で、厚さは20～40cmである。現代の耕土。
- 第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+148.800m前後で、厚さは20～30cmである。現代の床土。
- 第Ⅲ層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+148.600m前後で、厚さは10～30cmである。
近世以降の包含層。
- 第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+148.300m前後で、厚さは1.4m前後である。旧河川による堆積土。

◎ 3 地区

- 第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+149.000m前後で、厚さは20～40cmである。現代の耕土。
- 第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+148.900m前後で、厚さは10cm前後である。現代の床土。
- 第Ⅲ層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+148.800m前後で、厚さは10～20cmである。
近世以降の包含層。
- 第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+148.700m前後で、厚さは1.2～1.9m前後である。旧河川による堆積土。

◎ 4 地区

- 第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+149.800m前後で、厚さは20cm前後である。現代の耕土。
- 第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+149.600m前後で、厚さは20cm前後である。現代の床土。

第Ⅲ層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+149.400m前後で、厚さは5~20cmである。

近世以降の包含層。

第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+149.300m前後で、厚さは1.6~1.8m前後である。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+148.000m前後である。西端部で確認できた。

◎ 5・6地区

第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+151.100m前後で、厚さは20cm前後である。現代の耕土。

第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+150.900m前後で、厚さは10cm前後である。現代の床土。

第Ⅲ層 灰色系の砂質土 上面はT.P.+150.800m前後で、厚さは20~50cmである。

中世以降の包含層。

第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+150.400m前後で、厚さは60~90cmである。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+149.200~149.700mである。

◎ 7地区

第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+151.600m前後で、厚さは20cm前後である。現代の耕土。

第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+151.400m前後で、厚さは5~20cmである。現代の床土。

第Ⅲ層 灰色系の砂質土 上面はT.P.+151.300m前後で、厚さは10~50cmである。

中世以降の包含層。

第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+151.400m前後で、厚さは80cm~1.7mである。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+149.500~150.300mである。

◎ 8地区

第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+152.300m前後で、厚さは20~30cmである。現代の耕土。

第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+152.100m前後で、厚さは5~20cmである。現代の床土。

第Ⅲ層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+151.700~152.200mで、厚さは40~60cmである。

近世以降の包含層。

第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+151.200~151.500m前後で、厚さは50cm~

1.2mである。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+149.600～150.600mである。

◎9地区

第I層 耕土 上面はT.P.+153.100m前後で、厚さは20～30cmである。現代の耕土。

第II層 床土 上面はT.P.+152.900m前後で、厚さは5～20cmである。現代の床土。

第III層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+152.700m前後で、厚さは10～30cmである。

近世以降の包含層。

第VI層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+152.300～152.600m前後で、厚さは1.2～1.7mである。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+150.800～151.200mである。

◎10地区

第I層 耕土 上面はT.P.+153.900m前後で、厚さは20～30cmである。現代の耕土。

第II層 床土 上面はT.P.+153.700m前後で、厚さは5～10cmである。現代の床土。

第III層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+152.600m前後で、厚さは50～90cmである。

近世以降の包含層。

第VI層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+152.700～153.400m前後で、厚さは1.3～2.1mである。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+151.200～151.800mである。

◎11地区

第I層 耕土 上面はT.P.+155.200m前後で、厚さは20cm前後である。現代の耕土。

第II層 床土 上面はT.P.+155.000m前後で、厚さは5～10cmである。現代の床土。

第III層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+154.900m前後で、厚さは20cm～1.1mである。

近世以降の包含層。

第VI層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+153.800～154.600m前後で、厚さは60cm～1.3mである。旧河川による堆積土。

第V層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+152.400～154.000mである。

◎12地区

- 第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+155.700m前後で、厚さは20cm前後である。現代の耕土。
- 第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+155.500m前後で、厚さは5~10cmである。現代の床土。
- 第Ⅲ層 黄色系の砂質土 上面はT.P.+155.400m前後で、厚さは10~60cmである。
近世以降の包含層。
- 第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+155.000~155.400m前後で、厚さは1.2~1.3mである。旧河川による堆積土。巨石を含んでいる土層もある。
- 第Ⅴ層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+153.400~154.300mである。

◎13地区

- 第Ⅰ層 耕土 上面はT.P.+155.500m前後で、厚さは20~30cmである。現代の耕土。
- 第Ⅱ層 床土 上面はT.P.+155.200m前後で、厚さは5cm前後である。現代の床土。
- 第Ⅲ層 褐色系の砂質土 上面はT.P.+155.100m前後で、厚さは10~20cmである。
- 第Ⅵ層 灰色系の砂礫及びシルト 上面はT.P.+155.000m前後で、厚さは20cm~1.8mである。旧河川による堆積土。巨石を含んでいる土層もある。
- 第Ⅴ層 花崗岩（地山） 上面はT.P.+152.800~154.900mである。

◎1地区（北壁） 土層説明

第1層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/3)	第11層	にぶい黄橙色シルト (10YR 7/2)
第2層	灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)	第12層	明オリーブ灰色砂 (2.5GY 7/1)
第3層	灰白色砂 (10YR 8/2)	第13層	灰白色シルト (2.5Y 8/1)
第4層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第14層	にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)
第5層	淡黄色砂質土 (2.5Y 8/4)	第15層	灰白色シルト (5Y 8/2)
第6層	灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)	第16層	灰白色砂礫 (5Y 8/1)
第7層	明褐色灰色砂質土 (5YR 7/1)	第17層	淡黄色シルト (2.5Y 8/3)
第8層	明褐色灰色砂 (5YR 7/1)	第18層	灰白色砂 (5GY 8/1)
第9層	淡黄色砂質土 (2.5Y 8/3)	第19層	灰黄色シルト (7.5Y 8/3)
第10層	淡黄色砂 (2.5Y 8/3)	第20層	灰白色砂礫 (10YR 8/2)

第21層	緑灰色砂質土 (10G 6/1)	第25層	明緑灰色砂 (7.5GY 8/1)
第22層	灰白色砂 (7.5Y 8/1)	第26層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第23層	灰白色シルト (N 7/)	第27層	灰白色細砂 (N 7/)
第24層	明緑灰色砂 (7.5GY 8/1)	第28層	明緑灰色シルト (7.5GY 8/1)
に第23層混入			

◎ 2 地区（北壁・東壁） 土層説明

第1層	暗灰黄色砂質土 (2.5Y 5/2)	第22層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)
第2層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 6/3)	第23層	淡黄色シルト (2.5Y 8/3)
第3層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第24層	灰黄色砂 (2.5Y 7/2)
第4層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/3)	第25層	灰白色砂質土 (5Y 7/1)
第5層	灰白色砂質土 (10YR 7/1)	第26層	灰白色シルト (10Y 8/1)
第6層	灰黄褐色砂質土 (10YR 6/2)	第27層	灰白色シルト (5Y 8/1)
第7層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 6/4)	第28層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第8層	にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/4)	第29層	灰白色砂 (5GY 8/1)
第9層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第30層	灰色砂 (7.5Y 6/1)
第10層	灰白色シルト (5Y 8/2)	第31層	灰白色シルト (5Y 8/2)
第11層	淡黄色シルト (7.5Y 8/3)	第32層	淡黄色シルト (5Y 8/3)
第12層	浅黄色シルト (7.5Y 7/3)	に灰白色砂 (10YR 8/2) 混入	
第13層	淡黄色シルト (5Y 8/3)	第33層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)
第14層	淡黄色シルト (5Y 8/4)	に粘土ブロック混入	
第15層	灰オリーブ色砂質土 (7.5Y 6/2)	第34層	灰白色砂 (N 8/)
第16層	灰白色シルト (7.5Y 8/2)	第35層	灰白色砂 (2.5GY 8/1)
第17層	淡黄色シルト (7.5Y 8/3)	第36層	灰白色シルト (5GY 8/1)
第18層	灰白色砂 (7.5Y 8/1)	第37層	灰白色砂 (2.5Y 8/1)
第19層	淡黄色シルト (2.5Y 8/3)	第38層	明緑灰色粘土 (10GY 8/1)
第20層	灰白色砂質土 (5Y 8/2)	第39層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)
第21層	浅黄橙色砂質土 (10YR 8/3)	第40層	灰白色砂 (5Y 8/1)

第41層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)	第56層	黒褐色砂質土 (2.5Y 3/1)
第42層	灰白色砂 (7.5Y 8/1)	第57層	灰白色砂 (5GY 8/1)
第43層	灰白色細砂 (7.5Y 8/1)	第58層	黄色砂礫 (2.5Y 8/6)
第44層	灰白色シルト (2.5Y 7/1)	第59層	淡黄色砂 (2.5Y 8/4)
第45層	明オリーブ灰色シルト (5GY 7/1)	第60層	灰白色シルト (2.5Y 8/2)
第46層	明緑灰色粘土 (10GY 8/1)	第61層	黄橙色砂 (10YR 8/6) に灰黃褐色砂 (10YR 6/2) 混入
第47層	灰白色砂 (N 8/)	第62層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)
第48層	明オリーブ灰色シルト (2.5GY 7/1)	第63層	明緑灰色砂 (10GY 8/1)
第49層	明緑灰色砂 (10GY 8/1)	第64層	明黄褐色砂礫 (10YR 7/6)
第50層	明緑灰色シルト (10GY 8/1) に腐植土混入	第65層	明緑灰色粘土 (10GY 8/1)
第51層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)	第66層	灰白色シルト (2.5Y 8/2)
第52層	明緑灰色砂 (10GY 8/1)	第67層	灰白色砂質土 (2.5Y 8/2)
第53層	灰白色砂 (10YR 8/2) に鉄分混入	第68層	灰白色砂 (5Y 8/2)
第54層	明緑灰色砂 (10GY 8/1) にシルト混入	第69層	明緑灰色シルト (7.5GY 8/1)
第55層	灰白色砂 (2.5GY 8/1)	第70層	灰白色砂礫 (5Y 7/2)

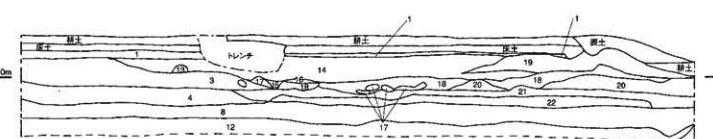
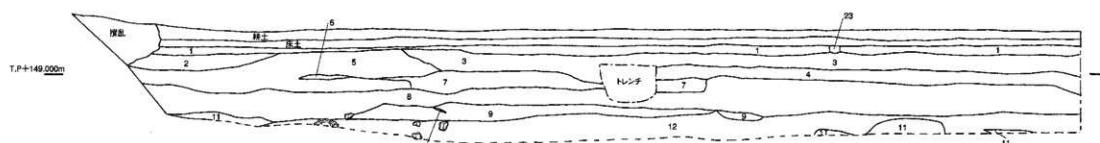
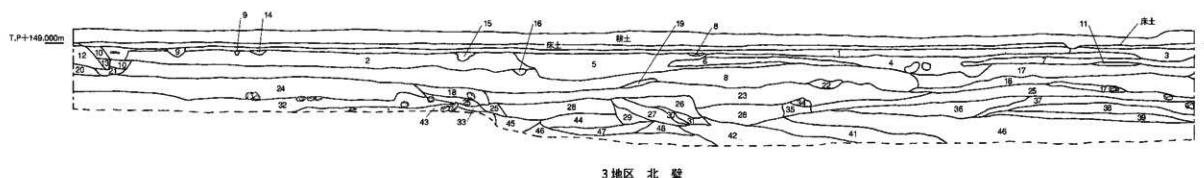
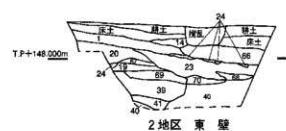
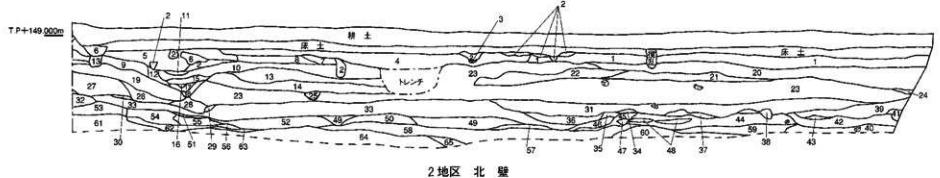
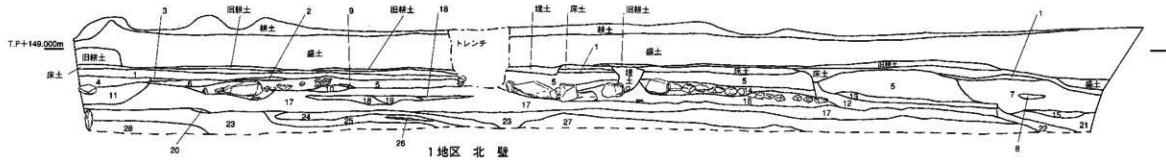
◎ 3 地区（北壁） 土層説明

第 1 層	浅黄橙色砂質土 (10YR 8/3)	第10層	灰白色砂 (2.5Y 7/1)
第 2 層	浅黄色シルト (2.5Y 7/3)	第11層	灰白色砂 (10YR 8/2) に粘土ブロック混入
第 3 層	灰白色砂質土 (10YR 8/2)	第12層	灰白色細砂 (5Y 8/1)
第 4 层	灰白色細砂 (2.5Y 8/2)	第13層	黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1)
第 5 层	灰白色シルト (2.5Y 8/2)	第14層	淡黄色砂 (2.5Y 8/3)
第 6 层	灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)	第15層	淡黄色細砂 (2.5Y 8/3)
第 7 层	灰黃褐色砂質土 (10YR 6/2)	第16層	灰白色シルト (5Y 8/2)
第 8 层	淡黄色シルト (2.5Y 8/3)	第17層	灰白色砂 (10YR 8/2)
第 9 层	明褐灰色砂質土 (7.5YR 7/1)		

第18層	灰白色シルト (5Y 8/1)	第35層	灰白色シルト (2.5Y 8/2)
第19層	灰白色砂 (5GY 8/1)	第36層	灰白色シルト (7.5Y 7/2)
第20層	灰白色シルト (5Y 7/2)	第37層	淡黄色シルト (5Y 8/3) に灰白色砂 (10YR 8/2) 混入
第21層	灰黄色シルト (2.5Y 7/2)	第38層	灰白色砂 (10YR 8/2) に鉄分混入
第22層	灰白色細砂 (2.5Y 8/1)	第39層	灰白色砂 (2.5GY 8/1)
第23層	灰白色シルト (2.5Y 8/2)	第40層	黄橙色砂 (10YR 8/6) に灰黄褐色砂 (10YR 6/2) 混入
第24層	淡黄色シルト (2.5Y 8/4)	第41層	灰白色シルト (N 8/) に黄橙色砂 (10YR 8/6) 混入
第25層	淡黄色シルト (5Y 8/3)	第42層	灰白色砂 (N 7/)
第26層	灰白色砂 (7.5Y 7/2)	第43層	灰白色砂 (N 8/)
第27層	灰白色砂 (10Y 7/1)	第44層	明青灰色粘質土 (10BG 7/1)
第28層	灰白色シルト (10Y 8/1)	第45層	明青灰色粘土 (10BG 7/1)
第29層	灰白色砂 (10Y 8/2)	第46層	明青灰色砂 (5B 7/1)
第30層	灰白色砂 (7.5Y 8/1)	第47層	にぶい黄橙色粘質土 (10YR 7/2)
第31層	灰白色シルト (2.5GY 8/1) に灰白色砂 (7.5Y 7/2) 混入	第48層	明青灰色シルト (10BG 7/1)
第32層	灰白色砂礫 (5Y 7/1) に灰褐色砂 (7.5YR 5/2) 混入	第49層	灰白色砂質土 (2.5Y 7/1)
第33層	淡黄色砂礫 (5Y 8/3)		
第34層	灰白色砂 (2.5Y 8/1)		

◎ 4 地区（北壁） 土層説明

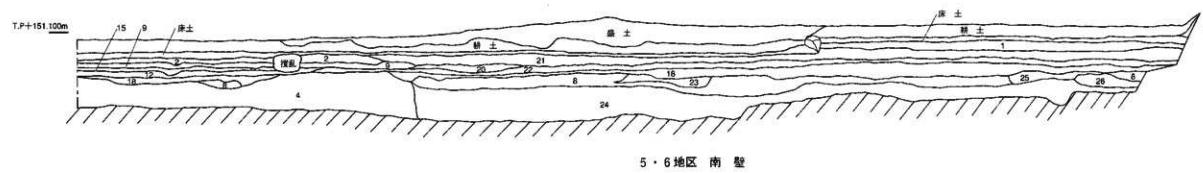
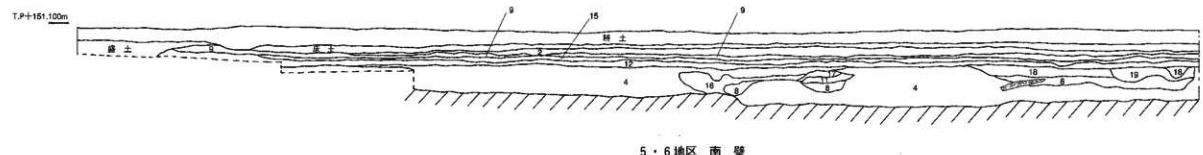
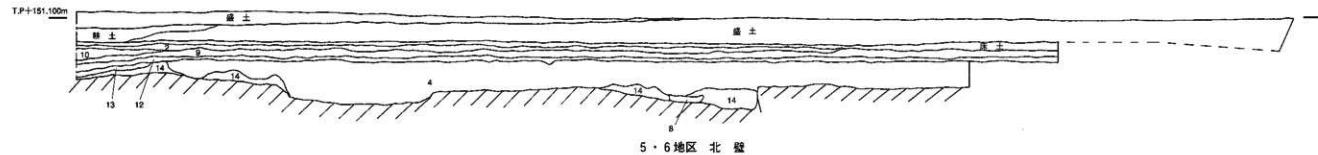
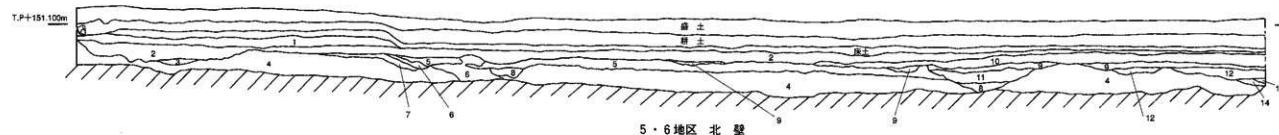
第1層	にぶい橙色砂質土 (7.5YR 7/4)	第8層	淡黄色シルト (2.5Y 8/3)
第2層	浅黄色シルト (2.5Y 7/4)	第9層	淡黄色砂 (2.5Y 8/3)
第3層	灰白色砂 (2.5Y 8/2)	第10層	灰白色砂 (2.5Y 8/2)
第4層	灰白色砂質土 (2.5Y 8/2)	第11層	明青灰色粘土 (5BG 7/1)
第5層	淡黄色シルト (2.5Y 8/4)	第12層	灰白色砂礫 (5Y 8/2)
第6層	にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)	第13層	灰色砂 (5Y 6/1)
第7層	灰白色砂 (2.5Y 8/1)	第14層	灰黄色シルト (2.5Y 6/2)



0 3m

4地区 北壁

第4図 1・2・3・4地区 壁断面図



第5図 5・6地区 壁断面図

第15層	褐灰色砂 (10YR 4/1)	第20層	灰白色細砂 (5Y 8/1)
第16層	黄灰色砂 (2.5Y 5/1)	第21層	灰白色シルト (5Y 7/2)
第17層	灰色砂 (N 5/)	第22層	灰白色砂 (5Y 8/1)
第18層	褐灰色砂質土 (7.5YR 4/1)	第23層	褐灰色砂質土 (7.5YR 6/1)
第19層	灰白色砂 (5Y 8/2)		

◎ 5・6地区（北壁・南壁） 土層説明

第1層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 6/3)	第14層	灰色粗砂 (7.5Y 6/1)
第2層	灰黄褐色砂質土 (10YR 4/2)	第15層	灰色砂質土 (5Y 6/1)
第3層	灰色砂質土 (5Y 5/1)	第16層	明オリーブ灰色細砂 (2.5GY 7/1)
第4層	褐灰白色砂礫 (10YR 6/1)	第17層	明緑灰色細砂 (7.5GY 7/1)
	鉄分により一部赤褐色に変色	第18層	明オリーブ灰色砂質土 (5GY 7/1)
第5層	明青灰色シルト (10BG 7/1)	第19層	浅黄橙色粗砂 (10YR 8/3)
第6層	灰白色粗砂 (5Y 8/1)	第20層	淡黄色粗砂 (5Y 8/3)
	鉄分により一部赤褐色に変色	第21層	灰黄褐色砂質土 (10YR 6/2)
第7層	灰白色細砂 (7.5Y 7/1)	第22層	灰白色砂質土 (7.5Y 7/2)
第8層	オリーブ黒色腐植土 (7.5Y 3/1)	第23層	灰色砂質土 (10Y 6/1)
第9層	褐灰色砂質土 (10YR 4/1)	第24層	灰白色礫 (2.5Y 8/2)
第10層	灰黄褐色砂質土 (10YR 5/2)	第25層	灰白色粗砂 (10YR 8/2)
第11層	灰白色細砂 (5Y 8/2)		に腐植土混入
第12層	灰色砂質土 (5Y 5/1)	第26層	灰色シルト (N 6/) に腐植土混入
第13層	明青灰色砂質土 (5B 7/1)		

◎ 7地区（東壁） 土層説明

第1層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第3層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)
第2層	灰白色砂質土 (7.5Y 7/1)	第4層	淡黄色砂質土 (5Y 8/3)

第 5 層	灰白色砂質土 (10YR 7/1)	第20層	灰色粘質土 (7.5Y 5/1)
第 6 層	淡黃色シルト (2.5Y 8/3)	第21層	灰白色砂 (7.5Y 7/1)
第 7 層	淡黃色シルト (5Y 8/3)	第22層	灰白色シルト (10Y 8/2)
第 8 層	灰白色砂質土 (5Y 7/2)	第23層	灰白色シルト (7.5Y 8/1)
第 9 層	灰白色砂 (5Y 8/1)	第24層	灰白色細砂 (7.5Y 7/1)
第10層	灰白色シルト (5Y 8/2)	第25層	灰白色砂礫 (7.5Y 8/1)
第11層	灰白色シルト (5Y 7/1)	第26層	灰色シルト (7.5Y 5/1)
第12層	灰白色シルト (2.5GY 8/1)	第27層	灰白色砂 (5Y 8/1)
第13層	灰白色砂 (2.5GY 8/1)	第28層	灰白色砂 (10Y 7/1)
第14層	明緑灰色シルト (10GY 7/1)	第29層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第15層	灰白色シルト (10Y 7/1)	第30層	灰色腐植土 (7.5Y 4/1)
第16層	灰白色砂礫 (5GY 8/1)	第31層	明緑灰色砂 (7.5GY 7/1)
第17層	灰白色砂礫 (7.5Y 8/1)	第32層	灰白色砂礫 (N 8/)
第18層	灰白色砂 (10Y 8/1)	第33層	明緑灰色砂 (10GY 8/1)
第19層	灰白色砂礫 (10Y 8/1)		

◎ 7 地区（北壁） 土層説明

第 1 层	灰白色砂質土 (2.5Y 8/2)	第12層	灰黃褐色砂質土 (10YR 6/2)
第 2 層	淡黃色砂質土 (5Y 8/3)	第13層	淡黃色砂質土 (2.5Y 8/4)
第 3 層	灰白色砂質土 (10YR 7/1)	第14層	灰白色砂質土 (5Y 7/2)
第 4 層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第15層	灰白色シルト (5GY 8/1)
第 5 層	淡黃色砂質土 (5Y 8/4)	第16層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第 6 層	浅黄色砂質土 (2.5Y 7/3)	第17層	灰白色細砂 (2.5Y 8/1)
第 7 層	灰白色砂質土 (5Y 8/2)	第18層	灰色砂質土 (7.5Y 6/1)
第 8 层	淡黄色砂質土 (2.5Y 8/3)	第19層	灰白色シルト (10Y 8/2)
第 9 层	灰白色砂質土 (10YR 8/2)	第20層	灰白色シルト (10Y 8/1)
第10層	灰白色砂質土 (2.5Y 7/1)	第21層	灰白色シルト (10YR 7/1)
第11層	灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)	第22層	灰白色砂礫 (2.5Y 8/1)

第23層	灰白色砂質土 (5Y 7/2)	第31層	灰白色粘質土 (2.5Y 7/1)
第24層	灰白色砂 (5Y 8/1)	第32層	青灰色粘質土 (5BG 6/1)
第25層	灰白色砂礫 (N 8/)	第33層	灰白色砂質土 (5Y 7/1)
第26層	灰白色粘質土 (2.5Y 7/1)	第34層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)
第27層	橙色砂礫 (7.5YR 7/6)	第35層	灰色粘質土 (N 5/)
第28層	灰白色シルト (5Y 8/2)	第36層	明緑灰色粘質土 (7.5GY 7/1)
第29層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)	第37層	明緑灰色砂礫 (7.5GY 8/1)
第30層	灰白色シルト (2.5GY 8/1)		

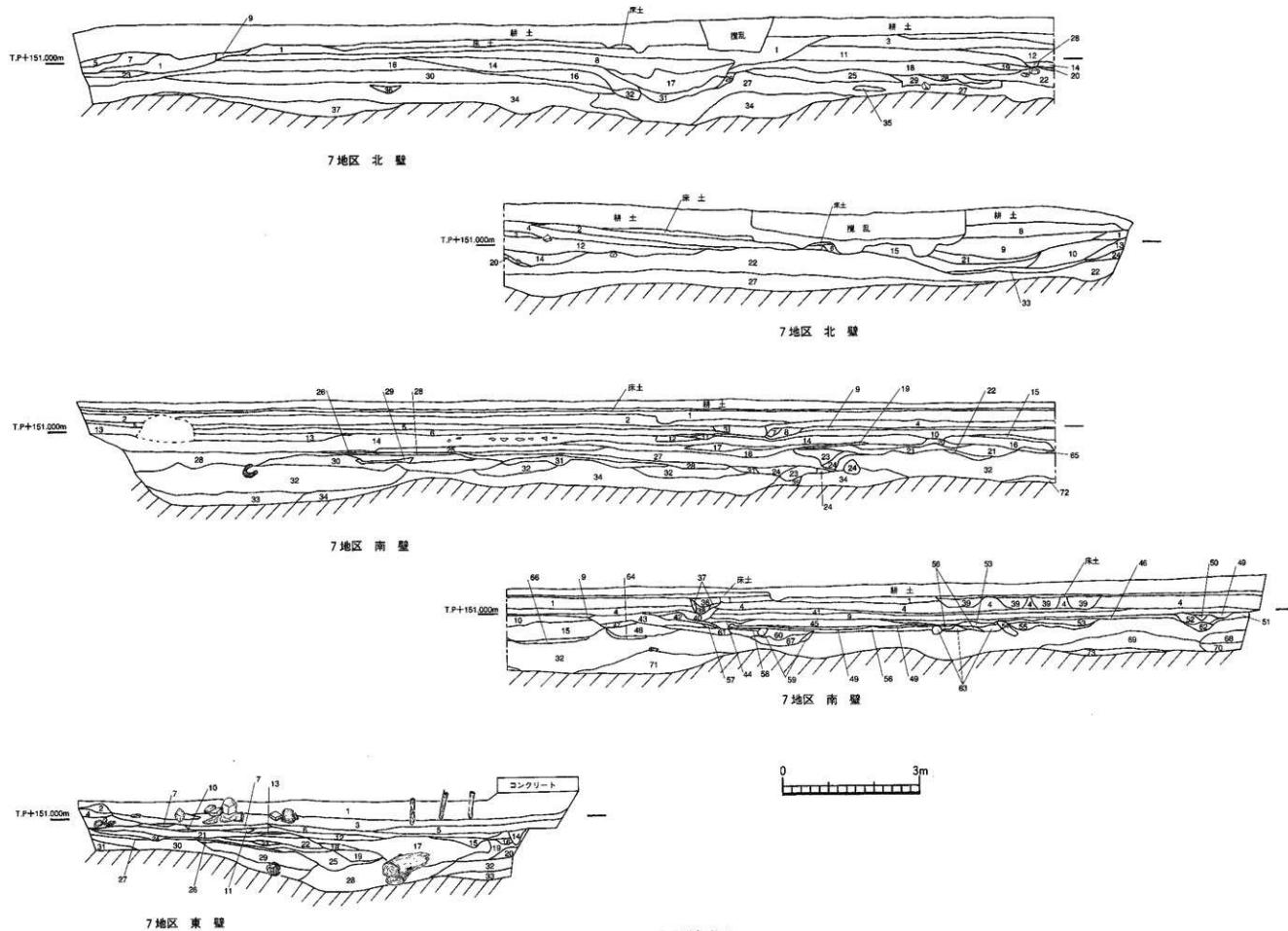
◎ 7 地区（南壁） 土層説明

第 1 层	灰黄褐色砂質土 (10YR 6/2)	第19層	灰白色細砂 (7.5Y 8/1)
第 2 层	褐灰色砂質土 (10YR 6/1)	第20層	灰白色シルト (10Y 7/1)
第 3 層	灰白色砂 (5Y 8/1)	第21層	灰色シルト (7.5Y 7/1)
第 4 层	黄褐色砂質土 (2.5Y 5/3)	第22層	灰色シルト (10Y 5/1)
第 5 层	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/3)	第23層	灰色粘土 (7.5Y 5/1)
第 6 層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 5/3)	第24層	灰白色粘土 (10YR 7/1)
第 7 層	灰黄色砂 (2.5Y 7/2)	第25層	灰白色砂 (5Y 8/1)
第 8 層	淡黄色砂 (2.5Y 8/3)	第26層	灰白色砂 (5Y 8/1)
第 9 層	灰白色砂 (2.5Y 8/2)	第27層	灰白色砂礫 (10Y 8/1)
第10層	灰白色シルト (2.5Y 7/1)	第28層	灰色粘質土 (5Y 5/1)
第11層	灰白色砂 (5Y 8/1)	第29層	第28層に灰色砂 (5Y 6/1) 混入
第12層	灰白色シルト (5Y 8/1)	第30層	灰色腐植土 (5Y 4/1)
第13層	灰白色砂 (5Y 8/2)	第31層	灰色粘質土 (7.5Y 4/1)
第14層	灰白色シルト (10YR 8/1)	第32層	灰白色砂礫 (5Y 8/1)
第15層	灰白色シルト (10YR 8/2)	第33層	灰白色砂 (5Y 8/1)
第16層	灰白色シルト (7.5Y 8/1)	第34層	明緑灰色砂 (7.5GY 8/1)
第17層	灰白色砂 (7.5Y 8/2)	第35層	明オリーブ灰色砂 (5GY 7/1)
第18層	灰白色シルト (10Y 7/1)	第36層	にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)

第37層	灰白色砂質土 (2.5Y 7/1)	第56層	明緑灰色シルト (7.5GY 7/1)
第38層	灰黃色砂質土 (2.5Y 7/2)	第57層	灰白色砂 (2.5Y 8/2)
第39層	明オリーブ灰色砂質土 (2.5GY 7/1)	第58層	灰白色細砂 (2.5GY 8/1)
第40層	灰黃色砂 (2.5Y 6/3)	第59層	オリーブ灰色砂質土 (2.5GY 5/1)
第41層	淡黃色砂質土 (2.5Y 8/3)	第60層	灰白色砂 (2.5GY 8/1)
第42層	灰黃色砂 (2.5Y 7/2)	第61層	灰白色シルト (2.5Y 8/2)
第43層	灰白色シルト (10Y 7/1)	第62層	暗灰色シルト (N 3/)
第44層	灰白色細砂 (5Y 8/1)	第63層	灰色砂質土 (7.5Y 5/1)
第45層	灰白色砂 (5Y 7/1)	第64層	灰褐色砂 (7.5YR 6/2)
第46層	淡黃色シルト (7.5Y 8/3)	第65層	灰白色砂 (7.5Y 7/1)
第47層	灰白色シルト (7.5Y 7/1)	第66層	橙色砂 (7.5YR 7/6)
第48層	灰白色砂礫 (7.5Y 7/2)	第67層	明緑灰色砂質土 (10GY 7/1)
第49層	灰白色シルト (2.5GY 8/1)	第68層	灰白色砂 (5Y 8/1)
第50層	灰白色シルト (5GY 8/1)	第69層	灰白色砂 (5GY 8/1)
第51層	明緑灰色シルト (7.5GY 8/1)	第70層	明青灰色砂 (5BG 7/1)
第52層	明オリーブ灰色シルト (2.5GY 7/1)	第71層	灰白色砂礫 (5Y 8/1)
第53層	灰白色シルト (10Y 8/1)	第72層	灰白色砂礫 (5Y 7/1)
第54層	灰色砂質土 (7.5Y 6/1)	第73層	明青灰色砂 (5BG 7/1)
第55層	明緑灰色シルト (7.5GY 8/1)		

◎ 8 地区（東壁） 土層説明

第1層	灰白色砂 (7.5Y 8/2)	第8層	灰色シルト (10Y 6/1)
第2層	灰黄褐色砂質土 (10YR 6/2)	第9層	灰色腐植土 (7.5Y 4/1)
第3層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第10層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第4層	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/3)	第11層	にぶい橙色砂 (7.5Y 7/4)
第5層	灰白色砂 (10YR 8/2)	第12層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)
第6層	灰白色シルト (10Y 8/1)	第13層	明緑灰色砂 (7.5GY 8/1)
第7層	灰白色砂 (7.5Y 8/1)		



第6図 7地区 壁断面図

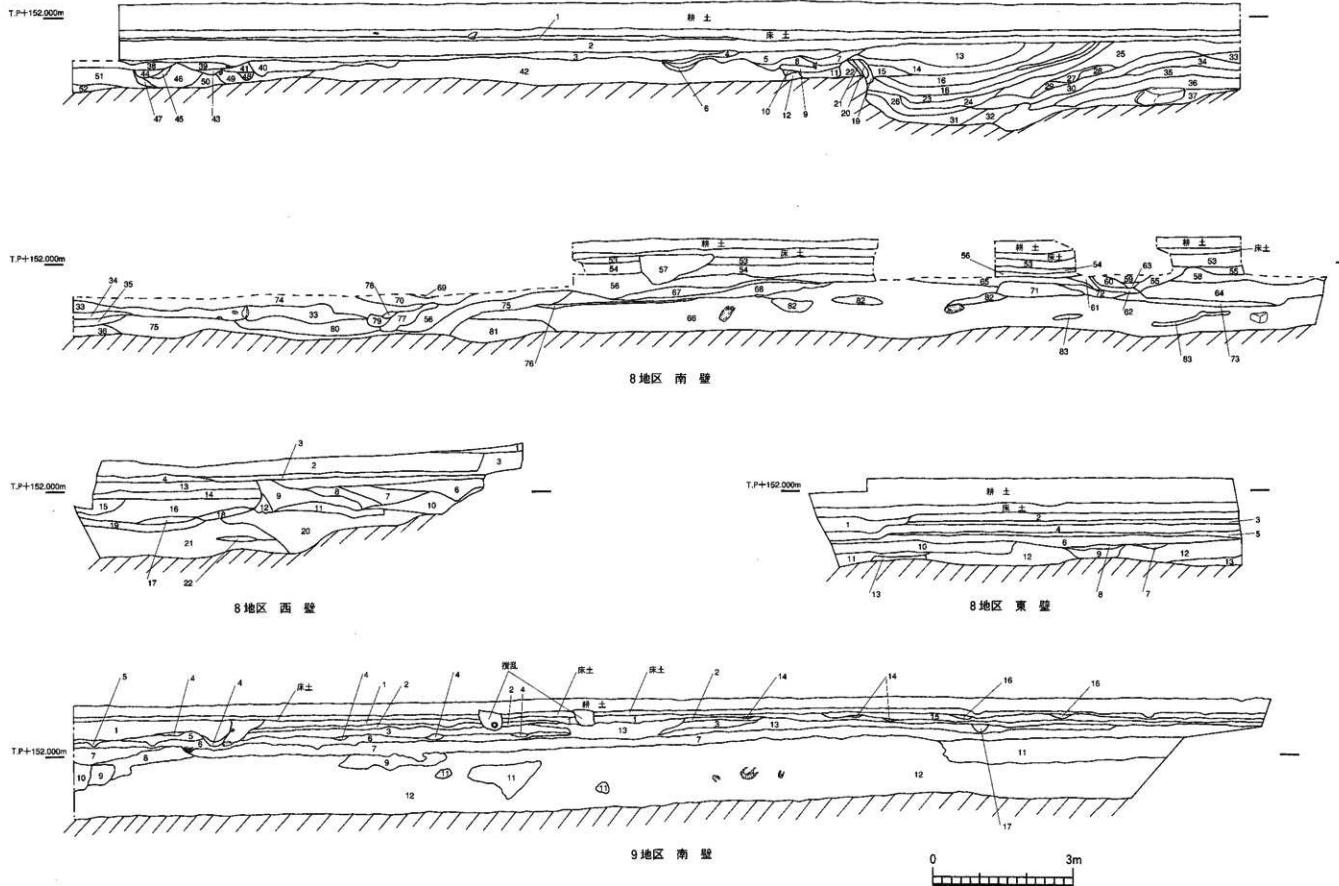
◎ 8 地区（西壁） 土層説明

第1層	明褐色灰色砂質土 (7.5YR 7/1)	第12層	明緑灰色シルト (10G 7/1)
第2層	灰白色砂質土 (2.5Y 8/2)	第13層	明緑灰色砂質土 (10GY 7/1)
第3層	黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1)	第14層	明緑灰色砂質土 (10GY 7/1)
第4層	褐灰色砂質土 (10YR 6/1)		暗渠の埋土
第5層	淡黄色砂 (2.5Y 8/3)	第15層	明緑灰色細砂 (10GY 7/1)
第6層	灰白色砂質土 (2.5Y 7/1)	第16層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第7層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)	第17層	灰白色シルト (10Y 7/1)
第8層	灰白色シルト (5Y 8/1)	第18層	灰白色砂 (10Y 8/1)
第9層	明オリーブ灰色砂礫 (2.5GY 7/1)	第19層	灰白色シルト (10Y 8/1)
第10層	灰白色砂礫 (5GY 8/1)	第20層	灰白色礫 (10Y 8/1)
第11層	浅黄橙色砂礫 (7.5YR 8/6)	第21層	淡黄色砂礫 (7.5Y 8/3)
		第22層	灰白色砂礫 (7.5Y 8/2)

◎ 8 地区（南壁） 土層説明

第1層	明青灰色砂質土 (10BG 7/1)	第12層	オリーブ黒色砂質土 (10Y 3/1)
第2層	灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)	第13層	灰白色砂 (10YR 8/1)
第3層	灰白色砂 (5Y 8/1)		に黄橙色砂 (10YR 8/6) 混入
第4層	橙色砂 (7.5YR 7/6)	第14層	灰白色砂 (10YR 8/1)
第5層	灰白色砂 (10Y 8/1)		に黄橙色粘土 (10YR 8/6) 混入
	に灰色砂質土 (10Y 6/1) 混入	第15層	明緑灰色砂 (10GY 8/1)
第6層	明緑灰色砂 (7.5GY 7/1)		に明青灰色粘土 (10BG 7/1) 混入
第7層	灰白色シルト (5GY 8/1)	第16層	明オリーブ灰色砂 (5GY 7/1)
第8層	黄色砂 (2.5Y 8/6)	第17層	浅黄色砂 (10YR 8/4)
第9層	灰白色砂 (10Y 8/1)	第18層	灰白色砂 (7.5Y 8/2)
第10層	灰色粘質土 (7.5Y 4/1)	第19層	灰色シルト (10Y 6/1)
第11層	灰白色砂 (10Y 7/1)	第20層	灰白色シルト (10Y 7/1)

第21層	灰白色砂質土 (10Y 8/1)	第50層 明緑灰色砂 (10GY 8/1)
第22層	灰白色シルト (10Y 8/1)	に明青灰色粘土 (10BG 7/1) 混入
第23層	明青灰色粘質土 (5B 7/1)	第51層 明オリーブ灰色砂 (5GY 7/1)
第24層	明青灰色砂 (10BG 7/1)	第52層 浅黄色砂 (10YR 8/4)
第25層	明緑灰色シルト (7.5GY 8/1)	第53層 にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)
第26層	灰白色細砂 (7.5Y 7/1)	第54層 灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)
第27層	明緑灰色砂 (7.5GY 8/1)	第55層 灰色砂質土 (5Y 4/1)
第28層	灰色粘質土 (N 4/)	第56層 緑灰色砂質土 (7.5GY 6/1)
第29層	灰色砂質土 (N 4/)	第57層 灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)
第30層	灰白色シルト (5GY 8/1)	第58層 灰白色粗砂 (5Y 8/2)
第31層	灰白色砂 (7.5Y 8/1)	第59層 灰色粗砂 (5Y 6/1)
第32層	明緑灰色砂 (5BG 7/1)	第60層 黄灰色細砂 (2.5Y 6/1)
第33層	明緑灰色砂 (7.5GY 7/1)	第61層 灰色砂質土 (5Y 4/1)
第34層	明オリーブ灰色シルト (5GY 7/1)	第62層 灰白色粗砂 (2.5Y 8/2)
第35層	灰白色シルト (2.5GY 8/1)	第63層 灰白色粗砂 (5Y 8/1)
第36層	明緑灰色シルト (10GY 8/1)	第64層 灰白色細砂 (5Y 8/1)
第37層	明緑灰色砂 (10GY 8/1)	第65層 灰白色シルト (7.5Y 8/2)
第38層	灰白色シルト (5Y 8/1)	第66層 褐灰色砂礫 (10YR 5/1)
第39層	灰白色砂 (2.5GY 8/1)	第67層 灰白色細砂 (5Y 8/1)
第40層	橙色砂 (7.5YR 7/6)	第68層 灰白色砂礫 (5Y 8/2)
第41層	灰白色シルト (5GY 8/1)	第69層 明緑灰色細砂 (7.5GY 7/1)
第42層	灰白色砂礫 (N 8/)	第70層 明緑灰色砂 (10GY 7/1)
第43層	灰白色砂 (5Y 7/1)	第71層 灰白色細砂 (5Y 8/1)
第44層	灰色シルト (N 5/)	第72層 灰色シルト (5Y 6/1)
第45層	灰白色砂礫 (2.5GY 8/1)	第73層 灰白色シルト (5Y 7/1)
第46層	灰白色砂礫 (5Y 8/2)	第74層 明緑灰色砂質土 (7.5GY 7/1)
第47層	灰白色シルト (5Y 7/1)	第75層 明緑灰色シルト (7.5GY 7/1)
第48層	灰白色砂 (5Y 8/1)	第76層 灰白色シルト (5Y 8/2)
第49層	灰白色砂 (10YR 8/1)	第77層 灰白色砂 (2.5GY 8/1)
に黄橙色粘土 (10YR 8/6) 混入		



第7図 8・9地区 壁断面図

第78層	暗灰色砂質土 (N 3/)	第80層	オリーブ灰色シルト (2.5GY 5/1)
	に腐植土混入	第81層	にぶい黄褐色砂礫 (10YR 5/3)
第79層	暗オリーブ灰色砂質土 (2.5GY 3/1) に腐植土混入	第82層	黒色粘土 (5Y 2/1)
		第83層	灰白色細砂 (N 7/)

◎ 9 地区（南壁） 土層説明

第 1 层	にぶい黄橙色砂質土 (10YR 7/2)	第10層	灰白色粗砂 (7.5YR 8/2)
第 2 層	灰白色砂質土 (2.5Y 8/2)	第11層	暗灰色腐植土 (N 3/)
第 3 層	灰白色砂質土 (2.5Y 8/1)	第12層	灰白色砂礫 (2.5Y 8/2)
第 4 层	灰白色細砂 (5Y 8/1)	第13層	灰白色粗砂 (7.5Y 8/1)
第 5 层	灰色砂質土 (N 5/)	第14層	黄色シルト (5Y 7/6)
第 6 层	黃灰色砂質土 (2.5Y 5/1)	第15層	黃灰色砂質土 (2.5Y 4/1)
第 7 层	灰白色砂質土 (5Y 7/1) 粗砂混入	第16層	灰白色シルト (2.5Y 8/1)
第 8 层	灰白色シルト (7.5Y 7/1)	第17層	灰色砂質土 (N 5/)
第 9 层	青灰色粘質土 (10BG 6/1) 腐植土混入		

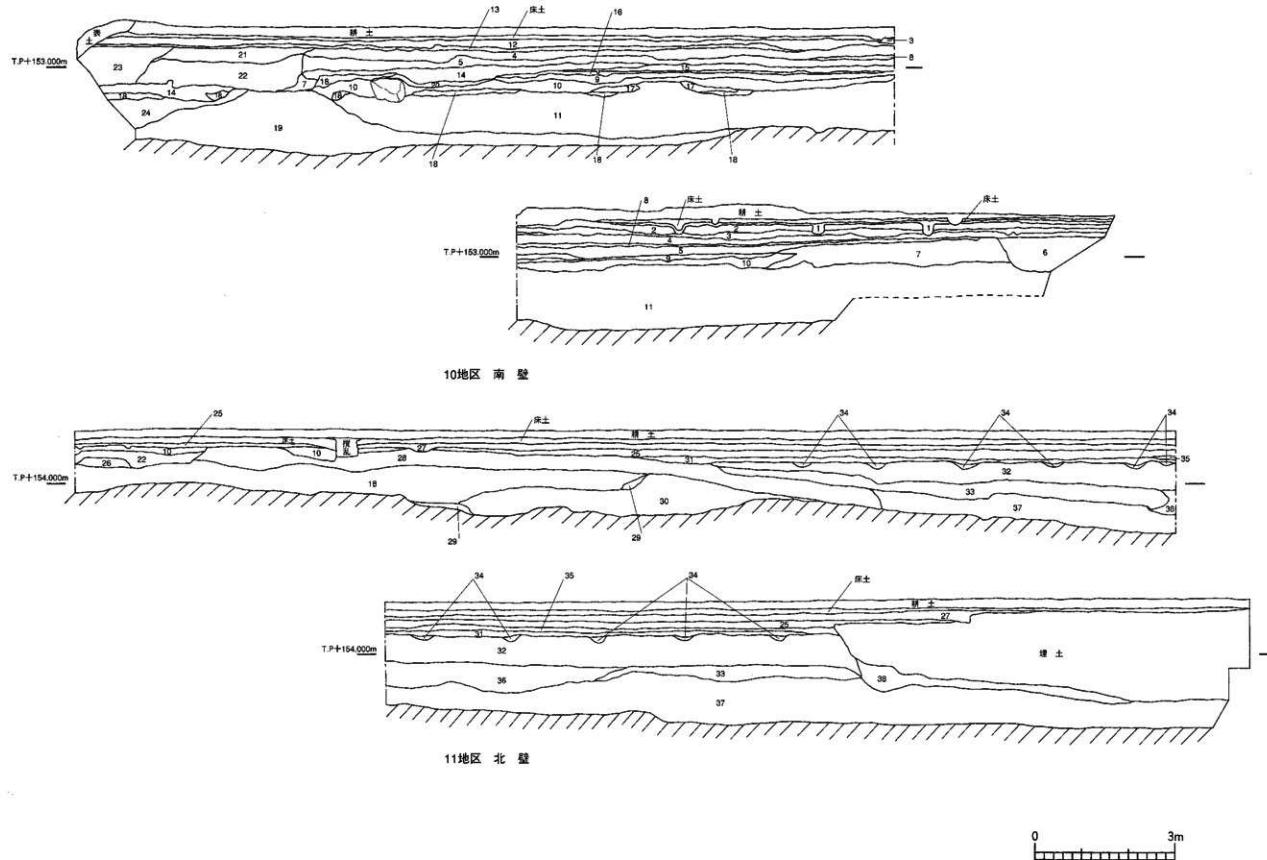
◎ 10 地区（南壁） 土層説明

第 1 层	灰白色砂質土 (5Y 8/2)	第 9 层	灰色砂質土 (5Y 6/1)
第 2 层	黃灰色砂質土 (2.5Y 6/1)	第10層	灰オリーブ色細砂 (7.5Y 6/1)
第 3 层	灰白色砂質土 (7.5Y 7/2)	第11層	灰白色砂礫 (2.5Y 8/2)
第 4 层	灰黃褐色砂質土 (10YR 5/2)	第12層	褐灰色砂質土 (10YR 6/1)
第 5 层	にぶい黄褐色砂質土 (10YR 5/3)	第13層	明黄橙色砂質土 (10YR 7/6)
第 6 层	灰白色砂礫 (7.5Y 7/1)	第14層	灰黃色砂質土 (2.5Y 7/2)
第 7 层	淡黄色シルト (7.5Y 8/3)	第15層	黃灰色砂質土 (2.5Y 4/1)
第 8 层	灰白色粗砂 (5Y 8/1)	第16層	灰白色砂質土 (2.5GY 8/1)

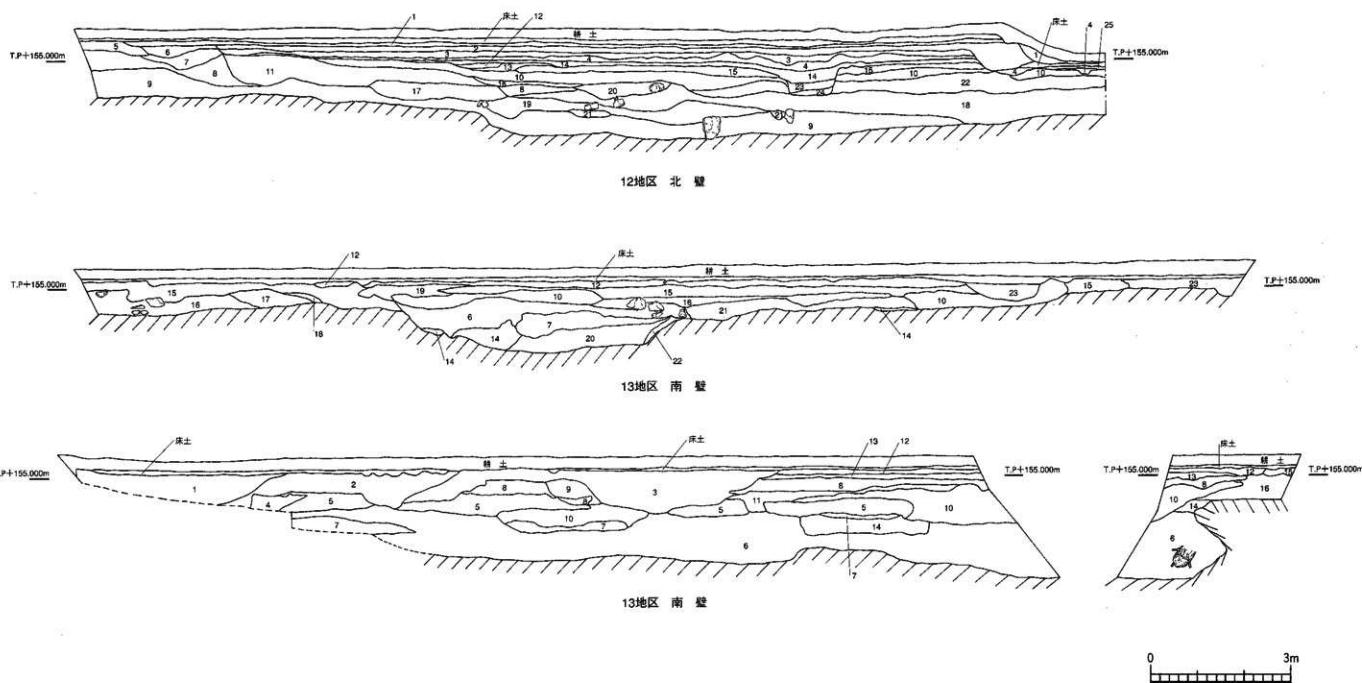
第17層	明オリーブ灰色シルト (5GY 7/1)	第21層	黄橙色粗砂 (7.5YR 7/8)
第18層	暗灰色腐植土 (N 3/)	第22層	灰白色粗砂 (10YR 8/1)
第19層	地山 (花崗岩) 崩落土	第23層	浅黄色砂質土 (5Y 7/3)
第20層	灰白色シルト (2.5GY 8/1)	第24層	灰白色砂礫 (5Y 8/1)

◎11地区（北壁） 土層説明

第1層	灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2) 鉄分により一部赤褐色に変色	第20層	緑灰色砂質土 (7.5GY 5/1)
第2層	灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)	第21層	青灰色シルト (5BG 6/1)
第3層	黄灰色砂質土 (2.5Y 5/1)	第22層	明オリーブ灰色シルト (2.5GY 7/1)
第4層	灰色砂質土 (5Y 4/1)	第23層	灰色粘質土 (5Y 6/1) 腐植土混入
第5層	灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)	第24層	浅黄色粘質土 (5Y 7/3)
第6層	にぶい黄橙色細砂 (10YR 7/2)	第25層	灰オリーブ色粘質土 (5Y 6/2)
第7層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)	第26層	淡黄色粗砂 (2.5Y 8/3)
第8層	赤褐色砂礫 (5YR 4/6)	第27層	灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)
第9層	灰白色粗砂 (N 7/) に花崗岩ブロック混入	第28層	淡黄色砂礫 (5Y 8/4)
第10層	明黄褐色砂質土 (2.5Y 7/6)	第29層	青灰色粘質土 (10BG 6/1)
第11層	第10層に礫多量混入	第30層	灰白色粗砂 (N 7/)
第12層	灰白色粗砂 (2.5Y 8/1)	第31層	にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)
第13層	灰色細砂 (7.5Y 6/1)	第32層	黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1)
第14層	灰色粘質土 (5Y 6/1)	第33層	浅黄色砂質土 (5Y 7/4) 粗砂混入
第15層	明黄褐色粘質土 (2.5Y 6/8)	第34層	灰白色シルト (2.5Y 8/2)
第16層	浅黄色細砂 (7.5Y 7/3)	第35層	黄灰色砂質土 (2.5Y 5/1)
第17層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)	第36層	灰白色シルト (5Y 7/2)
第18層	灰色砂礫 (5Y 4/1) 鉄分により一部赤褐色に変色	第37層	灰白色砂礫 (5Y 7/1) 鉄分により一部赤褐色に変色
第19層	明緑灰色砂礫 (5G 7/1)	第38層	青灰色シルト (10BG 6/1)



第8図 10・11地区 壁断面図



第9図 12・13地区 壁断面図

◎12地区（北壁） 土層説明

第1層	灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)
	鉄分により一部赤褐色に変色
第2層	灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)
第3層	黄灰色砂質土 (2.5Y 5/1)
第4層	灰色砂質土 (5Y 4/1)
第5層	灰黄色砂質土 (2.5Y 7/2)
第6層	にぶい黄橙色細砂 (10YR 7/2)
第7層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)
第8層	赤褐色砂礫 (5YR 4/6)
第9層	灰白色粗砂 (N 7/)
	に花崗岩ブロック混入
第10層	明黄褐色砂質土 (2.5Y 7/6)
第11層	第10層に礫多量混入
第12層	灰白色粗砂 (2.5Y 8/1)
第13層	灰色細砂 (7.5Y 6/1)
第14層	灰色粘質土 (5Y 6/1)
第15層	明黄褐色粘質土 (2.5Y 6/8)
第16層	浅黄色細砂 (7.5Y 7/3)
第17層	灰白色砂礫 (2.5Y 7/1)
第18層	灰色砂礫 (5Y 4/1)
	鉄分により一部赤褐色に変色
第19層	明緑灰色砂礫 (5G 7/1)
第20層	緑灰色砂質土 (7.5GY 5/1)
第21層	青灰色シルト (5BG 6/1)
第22層	明オリーブ灰色シルト (2.5GY 7/1)
第23層	灰色粘質土 (5Y 6/1) 腐植土混入
第24層	浅黄色粘質土 (5Y 7/3)
第25層	灰オリーブ色粘質土 (5Y 6/2)

◎13地区（南壁） 土層説明

第1層	灰黃褐色砂礫 (10YR 6/2) 埋土
第2層	にぶい黄橙色砂礫 (10YR 7/2) 埋土
第3層	灰白色粗砂 (10YR 8/2) に床土ブロック混入、埋土
第4層	灰白色粗砂 (2.5Y 8/2) 鉄分により一部赤褐色に変色
第5層	灰色砂質土 (N 6/) に灰白色細砂 (N 8/) 混入
第6層	褐色砂礫 (7.5YR 4/6) 鉄分により一部赤褐色に変色
第7層	暗灰色シルト (N 8/)
第8層	灰色砂質土 (N 5/)
第9層	灰色砂質土 (N 6/)
第10層	灰白色細砂 (7.5Y 8/1)
第11層	灰白色細砂 (5Y 8/2)
第12層	明褐色灰色砂質土 (7.5YR 7/2)
第13層	灰白色砂質土 (2.5Y 7/1)
第14層	黒色粘質土 (2.5Y 2/1) に灰白色 粗砂 (2.5Y 8/1) と腐植土混入
第15層	灰白色粗砂 (5Y 7/2)
第16層	明青灰色砂質土 (5B 7/1) 粗砂混入
第17層	灰黄色粗砂 (2.5Y 7/2)
第18層	灰白色シルト (N 7/)
第19層	灰白色細砂 (5Y 7/1)
第20層	灰色シルト (N 4/)
第21層	青灰色砂礫 (5B 5/1)
第22層	灰白色シルト (2.5GY 8/1)
第23層	青灰色砂質土 (5B 6/1)

第2節 遺構

◎ 1地区 (第10図-1・第12図・第22図・図版1・4~7・図版36)

この地区は今回の調査範囲の北東端にあたり、一級河川天野川の左岸に位置する。延長は約23mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約40cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものはすべて遺物包含層から出土したものである。(第12図-1~8・第22図-155、図版36)

●溝 1

この遺構は、X = -142.430・Y = -27.580地区において検出した。平面形態は北から南へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北側肩部で約T.P.+148.300m、南側肩部で約T.P.+148.200mを測った。規模は、長さ約4.5m・幅約55cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 2

この遺構は、X = -142.430~-142.440・Y = -27.590地区において検出した。平面形態は北から南へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北側肩部で約T.P.+148.300m、南側肩部で標高は約T.P.+148.250mを測った。規模は、長さ約14m・幅約55cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片・瓦器片・陶器片・磁器片などが出土している。

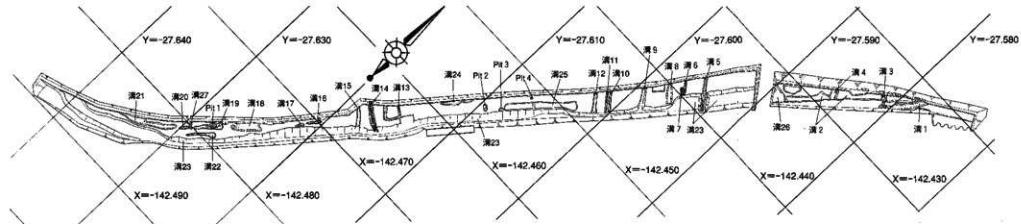
●溝 3

この遺構は、X = -142.430・Y = -27.590地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.300m、南東側肩部で約T.P.+148.200mを測った。規模は、長さ約1.4m・幅約30cm・深さ約10cmである。

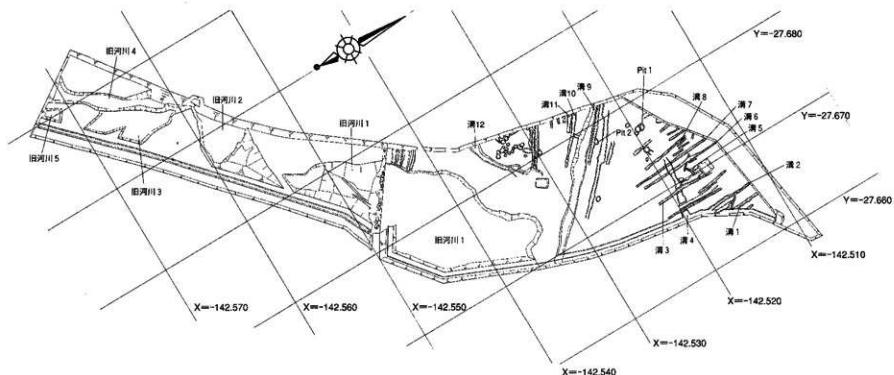
●溝 4

この遺構は、X = -142.430・Y = -27.590地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.200m、南東側肩部で約T.P.+148.200mを測った。規模は、長さ約1.15m・幅約60

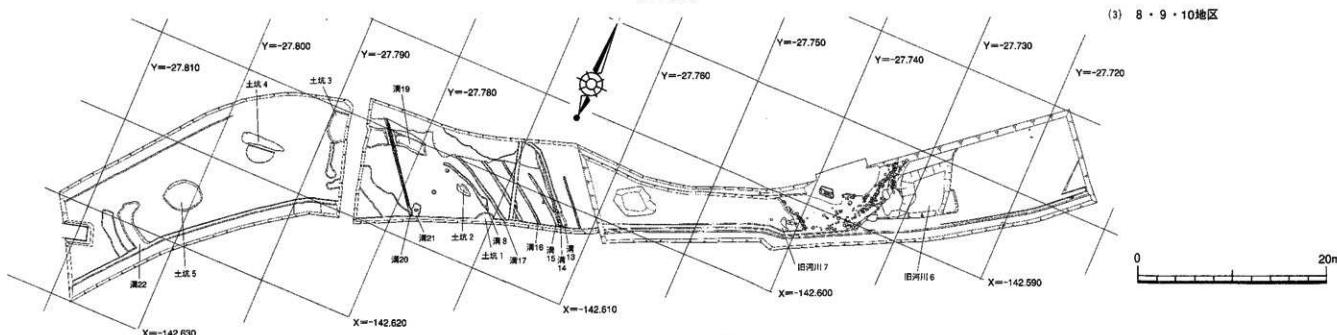
(1) 1・2・3・4地区



(2) 5・6・7地区



(3) 8・9・10地区



第10図 遺構平面図

cm・深さ約12cmである。

●溝 26

この遺構は、X = -142.440・Y = -27.590地区において検出した。1地区の南東端でその一部のみの検出であったため全容は不明であるが、位置関係から下記で述べる溝23につながるものと思われる。検出面の標高は、北側肩部で約T.P.+148.300mを測った。規模は、長さ約1.55m・幅約2.1m（最大）・深さ約10cmである。

以上、1地区の主な遺構について述べた。溝1・2については自然流路、溝3・4については、耕作に伴う溝であると考える。また溝26と呼称しているものについては、1～4地区での検出状況から、溝の形態を取るものではなく旧天野川の左岸にあたるものであると考える。

◎2地区（第10図-1・第13図・第23図・図版1・5・7・8・図版36～38）

この地区は安全のために残した東西断面を挟んで1地区の南西隣にあたり、一級河川天野川の左岸に位置する。延長は約17mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約5cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のもののほか遺物包含層出土のものである。（第13図-9～24・第23図-158、図版36～38）

●溝 5

この遺構は、X = -142.440・Y = -27.600地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約3.6m・幅約40cm・深さ約20cmである。

●溝 6

この遺構は、X = -142.440・Y = -27.600地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約1.55m・幅約20

cm・深さ約10cmである。

●溝 7

この遺構は、X = -142.440・Y = -27.600地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約60cm・幅約20cm・深さ約10cmである。

●溝 8

この遺構は、X = -142.450・Y = -27.600地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約2.25m・幅約65cm・深さ約20cmである。

遺物は、土師器皿（第13図-12・図版36-12）などが出土している。

●溝 9

この遺構は、X = -142.450・Y = -27.600地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約1.95m・幅約55cm・深さ約50cmである。

遺物は、土師器皿（第13図-13・図版37-13）・陶器片などが出土している。

●溝 10

この遺構は、X = -142.450・Y = -27.610地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約2.2m・幅約25cm・深さ約10cmである。

●溝 11

この遺構は、X = -142.450・Y = -27.610地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約2.25m・幅約20cm・深さ約10cmである。

●溝 23

この遺構は、X = -142.440～-142.450・Y = -27.590～-27.600地区において検出した。平

面形態は、2地区の南東側の壁とほぼ平行して北東から南西へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+148.600m、南西側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約16.6m・幅約1.65m（最大）約40cm（最小）・深さ約60cmである。なおこの遺構は、3・4地区へと続くものであり、その位置関係から1地区的溝26とつながるものと思われる。

遺物は、土師器皿（第13図-14・図版37-14）などが出土している。

以上、2地区の主な遺構について述べた。溝5～11については、耕作に伴う溝であると考える。また溝23と呼称しているものについては、1～4地区での検出状況から、溝の形態を取るものではなく旧天野川の左岸にあたるものであると考える。

◎3地区（第10図-（1）・第14図・図版1・5・9・10・図版38・39）

この地区は2地区の南西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一級河川天野川の左岸に位置する。延長は約23.4mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約5～30cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のものほか遺物包含層出土のものである。（第14図-25～36、図版38・39）

●溝 12

この遺構は、X=-142.450・Y=-27.610地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.600m、南東側肩部で約T.P.+148.600mを測った。規模は、長さ約2.2m・幅約40cm・深さ約30cmである。

●溝 13

この遺構は、X=-142.470・Y=-27.620地区において検出した。平面形態は北西から南西に向かってU字状に曲がっており、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.800m、南西側肩部で約T.P.+148.800mを測った。規模は、一辺の長さが約1.2～1.8m・幅約30cm・深さ約10cmである。

●溝 23

この遺構は、X = -142.450～-142.470・Y = -27.610～-27.620地区において検出した。平面形態は、3地区の南東側の壁とほぼ平行して北東から南西へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部でT.P.+148.600m、南西側肩部でT.P.+148.900mを測った。規模は、長さ約23.6m・幅約1.2m（最大）約40cm（最小）・深さ約50cmである。なおこの遺構は、2地区の溝23の続きであり4地区へと続くものである。

遺物は、肥前磁器盃（第14図-31・図版38-31）・土師器皿片・陶器片などが出土している。

●溝 24

この遺構は、X = -142.460・Y = -27.620地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+148.800m、南西側肩部で約T.P.+148.800mを測った。規模は、長さ約3.65m・幅約40cm・深さ約5cmである。

●溝 25

この遺構は、X = -142.450～-142.460・Y = -27.610地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+148.700m、南西側肩部で約T.P.+148.700mを測った。規模は、長さ約7.8m・幅約1m・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片・磁器片などが出土している。

●Pit 2

この遺構は、X = -142.460・Y = -27.610地区において検出した。平面形態は、橢円形を呈している。検出面の標高は、約T.P.+148.750mを測った。規模は、長さ約65cm（長軸）約40cm（短軸）・深さ約10cmである。

●Pit 3

この遺構は、X = -142.460・Y = -27.610地区において検出した。平面形態は、ほぼ円形を呈しているものと思われる。検出面の標高は、約T.P.+148.750mを測った。規模は、直径約58cm・深さ約15cmである。なおこの遺構は、溝23によってその半分が削平されている。

●Pit 4

この遺構は、X = -142.460・Y = -27.610地区において検出した。平面形態は、ほぼ円形を呈している。検出面の標高は、約T.P.+148.700mを測った。規模は、直径約25cm・深さ

約15cmである。

以上、3地区の主な遺構について述べた。溝12・13については耕作に伴う溝、溝24・25については、自然流路であると考える。また2地区と同じく溝23と呼称しているものについては、1～4地区での検出状況から、溝の形態を取るものではなく旧天野川の左岸にあたるものであると考える。また天野川が旧の流路であった時期については、出土遺物から近世（18世紀後半）であると考える。

◎4地区（第10図-1・第15図・図版1・5・10・11・図版39～41）

この地区は3地区的南西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一般河川天野川の左岸に位置する。延長は約36mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約20～40cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のものほか遺物包含層出土のものである。（第15図-37～60、図版39～41）

●溝 14

この遺構は、X=-142.470・Y=-27.620地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+148.900m、南東側肩部で約T.P.+148.900mを測った。規模は、長さ約3.4m・幅約50cm・深さ約10cmである。溝内には平瓦を敷き詰めている。近代の暗渠である。

●溝 15

この遺構は、X=-142.470・Y=-27.620地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+149.000m、南東側肩部で約T.P.+149.000mを測った。規模は、長さ約2m・幅約40cm・深さ約15cmである。

●溝 16

この遺構は、X=-142.480・Y=-27.630地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約

T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約1.65m・幅約25cm・深さ約15cmである。

●溝 17

この遺構は、X = -142.480・Y = -27.630地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約1m・幅約25cm・深さ約20cmである。

●溝 18

この遺構は、X = -142.480・Y = -27.630地区において検出した。平面形態は不整形、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+149.400m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約3.25m・幅約80cm（最大）・深さ約20cmである。

●溝 19

この遺構は、X = -142.480・Y = -27.630地区において検出した。平面形態は北西から南西へ延びるJ字状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部で約T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約3m・幅約45cm・深さ約10cmである。

●溝 20

この遺構は、X = -142.490・Y = -27.630地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約1.4m・幅約30cm・深さ約15cmである。

●溝 21

この遺構は、X = -142.490・Y = -27.640地区において検出した。平面形態は北東から西へ延びるJ字状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約6.2m・幅約60cm・深さ約10cmである。

●溝 22

この遺構は、X = -142.480～-142.490・Y = -27.630地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北

東側肩部で約T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約3m・幅約25cm・深さ約10cmである。

●溝 23

この遺構は、 $X = -142.470 \sim -142.490$ ・ $Y = -27.620 \sim -27.650$ 地区において検出した。平面形態は、4地区の南東側の壁とほぼ平行して北東から南西へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部でT.P.+148.900m、南西側肩部で標高はT.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約32.8m・幅約2m（最大）約40cm（最小）・深さ約70cmである。なおこの遺構は、3地区の溝23の続きである。

遺物は、土師器皿（第15図-45・図版39-45）、肥前陶器碗（第15-50・図版40-50）、肥前磁器仏飯器（第15図-52・図版40-52）・青磁染付深皿片などが出土している。

●溝 27

この遺構は、 $X = -142.480$ ・ $Y = -27.630$ 地区において検出した。平面形態は北東から南西へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北東側肩部で約T.P.+149.500m、南西側肩部で約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約40cm・幅約30cm・深さ約10cmである。遺構はそのほとんどが調査地区外に存在する。

●Pit 1

この遺構は、 $X = -142.480$ ・ $Y = -27.630$ 地区において検出した。平面形態は、橢円形を呈している。検出面の標高は、約T.P.+149.500mを測った。規模は、長さ約70cm（長軸）約45cm（短軸）・深さ約10cmである。

以上、4地区の主な遺構について述べた。溝14・15については耕作に伴う溝、溝16~21については、自然流路であると考える。また3地区と同じく溝23と呼称しているものについては、1~4地区での検出状況から、溝の形態を取るものではなく旧天野川の左岸にあたるものであると考える。また天野川が旧の流路であった時期については、出土遺物から近世（18世紀後半）であると考える。

◎5・6地区（第10図-2・第16図・第23~26図・図版1・12~16・図版41・42）

この地区は4地区の南西側に位置するが、間に市道があるため約28m離れている。一級河川天野川の右岸に位置する。延長は約50.6mである。基本層序の項でも述べたとおり、

調査前は水田であった。機械掘削の後、約20~30cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のもののはか遺物包含層出土のものである。(第16図-61~72、第23図-159・160・164、第24図-167・168、第25図-208、第26図-221、図版41・42)

●溝 1

この遺構は、 $X = -142.520 \cdot Y = -27.670$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+150.200m、南側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約3.15m・幅約30cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 2

この遺構は、 $X = -142.520 \cdot Y = -27.670$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+150.200m、南側肩部でT.P.+150.300mを測った。規模は、長さ約5.2m・幅約40cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 3

この遺構は、 $X = -142.520 \sim -142.530 \cdot Y = -27.670$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+150.300m、南側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約6.6m・幅約28cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 4

この遺構は、 $X = -142.520 \cdot Y = -27.670 \sim -27.680$ 地区において検出した。平面形態は西から東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、西側肩部でT.P.+150.300m、東側肩部でT.P.+150.300mを測った。規模は、長さ約6.5m・幅約70cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 5

この遺構は、 $X = -142.520 \sim -142.530$ ・ $Y = -27.670 \sim -27.680$ 地区において検出した。平面形態は南西から北東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+150.300m、北東側肩部でT.P.+150.300mを測った。規模は、長さ約1.9m・幅約20cm・深さ約5cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 6

この遺構は、 $X = -142.520 \sim -142.530$ ・ $Y = -27.680$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+150.200m、南側肩部でT.P.+150.100mを測った。規模は、長さ約9.1m・幅約30cm・深さ約10cmである。

遺物は、須恵器壺片が出土している。

●溝 7

この遺構は、 $X = -142.520 \sim -142.530$ ・ $Y = -27.680$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+150.300m、南側肩部でT.P.+150.100mを測った。規模は、長さ約8.9m・幅約25cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器片が出土している。

●溝 8

この遺構は、 $X = -142.520 \sim -142.530$ ・ $Y = -27.680$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+150.300m、南側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約5.7m・幅約25cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 9

この遺構は、 $X = -142.530 \sim -142.540$ ・ $Y = -27.670 \sim -27.690$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+150.200m、南東側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約17m・幅約1.55m（最大）70cm（最小）・深さ約10～20cmである。

遺物は、土師器皿片・土師器片・陶器片が出土している。

●溝 10

この遺構は、 $X = -142.530$ ・ $Y = -27.680 \sim -27.690$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+150.200m、南東側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約5.9m・幅約30cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片・土師器片が出土している。

●溝 11

この遺構は、 $X = -142.530$ ・ $Y = -27.690$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+150.200m、南東側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約1.9m・幅約45cm・深さ約5cmである。

遺物は、瓦器片が出土している。

●溝 12

この遺構は、 $X = -142.540$ ・ $Y = -27.680 \sim -27.690$ 地区において検出した。平面形態は南西から北東へ延びるやや弧を描く直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+150.300m、北東側肩部でT.P.+150.300mを測った。規模は、長さ約6.25m・幅約50cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●Pit 1

この遺構は、 $X = -142.520$ ・ $Y = -27.680$ 地区において検出した。平面形態は、ほぼ円形を呈しているものと思われる。検出面の標高は、約T.P.+150.100mを測った。規模は、直径約70cm・深さ約10cmである。なおこの遺構は、ほかのPitによってその半分が削平されている。

遺物は、黒色土器A類片が出土している。

●Pit 2

この遺構は、 $X = -142.530$ ・ $Y = -27.680$ 地区において検出した。平面形態は、ほぼ円形を呈しているものと思われる。検出面の標高は、約T.P.+150.200mを測った。規模は、直径約65cm・深さ約10cmである。なおこの遺構は、溝によってその半分が削平されている。

遺物は、打製石器（第24図-167・図版53-167）のほか瓦器片・土師器片・土師器皿片が出土している。

●旧河川1

この遺構は、X = -142.540～-142.550・Y = -27.680～-27.690地区において検出した。平面形態は不整形で、肩部は南西から北東へ向かって曲折しながら伸びている。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+150.400m、北東側肩部でT.P.+150.300mを測った。規模は、長さ約24m・幅約10m（最大）・深さ約1.3m（最大）である。

遺物は、旧河川の肩部付近の中層から須恵器坏（第16図-67・図版42-67）、ミニチュア竈（第16図-68・図版42-68）、ミニチュア土器碗（第16図-69・図版42-69）、ミニチュア土器碗（第16図-70・図版42-70）、ミニチュア土器碗（第16図-71・図版42-71）が土製馬形（第16図-72・図版42-72）と共に出土している。そのほか、打製石鎌（第24図-168・図版53-168）・土師器甕片・黒色土器B類片などが出土している。

以上、5・6地区の主な遺構について述べた。これら以外にも溝30本・Pit31個などを検出している。

5地区においては、溝9を境にして南西側には溝12に開まれたような状況でPitを20個、北東側には溝1～8を含め南北方向に同じような規模の耕作に伴う溝を40本検出している。これらはすべて中世の遺構である。このような平面形態から溝9を境にして居住空間と耕作地を分けた中世の集落の一部ではないかと考える。また溝9の南西側と6地区の南端で検出した北西-南東方向の溝については、その一部が前述のPitを削平していることから、集落が埋まった段階で掘られた耕作に伴う溝であると考える。

旧河川1については、下記に述べる7地区の旧河川1とつながるものである。流路の形態から旧天野川の一部にあたるものであると考える。

◎7地区(第10図-2)・第11図-2)・第17図・第22～26図・図版2・17～22・図版43・44)

この地区は5・6地区の南西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一級河川天野川の右岸に位置する。延長は約38mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約20～30cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで第1遺構面を検出し、第1遺構面下、約60cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで第2遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のもの

のほか遺物包含層出土のものである。(第17図-73~86、第22図-153・156、第23図-162・163・165、第24図-169~175、第25図-209・210、第26図-215・217、図版43~44)

★第1遺構面(第11図-(2)・第17図・第22図・図版18・19)

●溝 1

この遺構は、 $X = -142.550 \cdot Y = -27.690$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+151.100m、南東側肩部でT.P.+150.200mを測った。規模は、長さ約8.5m・幅約80cm・深さ約30cmである。

●溝 2

この遺構は、 $X = -142.550 \cdot Y = -27.690$ 地区において検出した。平面形態は南西から北東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+151.100m、北東側肩部でT.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約1.7m・幅約30cm・深さ約5cmである。

●溝 3

この遺構は、 $X = -142.550 \sim -142.560 \cdot Y = -27.700$ 地区において検出した。平面形態は北から南西へ弧を描く様にして延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+151.100m、南西側肩部でT.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約8m・幅約50cm・深さ約5cmである。

遺物は、土師質摺り鉢片などが出土している。

●溝 4

この遺構は、 $X = -142.550 \sim -142.560 \cdot Y = -27.700$ 地区において検出した。平面形態は、北から南へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+151.000m、南側肩部でT.P.+151.000mを測った。規模は、長さ約7m・幅約2m・深さ約10cmである。溝の西側肩部は調査区外に存在すると思われる。

遺物は、土師器皿片・瓦器碗片・陶器摺り鉢片などが出土している。

●溝 5

この遺構は、 $X = -142.560 \cdot Y = -27.700$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+151.000m、南東側肩部でT.P.+151.000mを測った。規模は、長さ約6.8m・幅約1.4

m・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●溝 6

この遺構は、X = -142.560・Y = -27.700地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+151.000m、南東側肩部でT.P.+151.000mを測った。規模は、長さ約5m・幅約80cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●溝 7

この遺構は、X = -142.570・Y = -27.710地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+151.000m、南東側肩部でT.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約7.4m・幅約50cm・深さ約20cmである。遺構内の南東側には20cm大の自然石が並べられている。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●溝 8

この遺構は、X = -142.560・Y = -27.700地区において検出した。平面形態は、北から南へ延びる不整形な直線状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+151.000m、南側肩部でT.P.+151.000mを測った。規模は、長さ約4m・幅約50cm・深さ約10cmである。溝4の底部に掘られている。

●土坑 1

この遺構は、X = -142.570～-142.580・Y = -27.710地区において検出した。平面形態は、不整形である。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約6m・幅約1m・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片・瓦質摺り鉢片などが出土している。

●土坑 2

この遺構は、X = -142.570～-142.580・Y = -27.710～-27.720地区において検出した。平面形態は、不整形である。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約4.5m・幅約1m・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●土坑 3

この遺構は、 $X = -142.570 \sim -142.580$ ・ $Y = -27.710$ 地区において検出した。平面形態は、不整形である。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約2m・幅約50cm・深さ約10cmである。

●土坑 4

この遺構は、 $X = -142.580$ ・ $Y = -27.710$ 地区において検出した。平面形態は、不整形である。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約1m・幅約30cm・深さ約10cmである。

●土坑 5

この遺構は、 $X = -142.580$ ・ $Y = -27.710$ 地区において検出した。平面形態は、不整形であると思われる。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約20cm・幅約30cm・深さ約10cmである。遺構の大半は調査区外に存在すると思われる。

●土坑 6

この遺構は、 $X = -142.560 \sim -142.570$ ・ $Y = -27.710$ 地区において検出した。平面形態は、不整形な楕円形を呈している。検出面の標高は、約T.P.+151.000mを測った。規模は、長さ約1.5m（長軸）約3.5m（短軸）・深さ約20cmである。遺構の大半は調査区外に存在すると思われる。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●土坑 7

この遺構は、 $X = -142.550 \sim -142.560$ ・ $Y = -27.690 \sim -27.700$ 地区において検出した。平面形態は、不整形な楕円形を呈している。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約3m（長軸）約2.5m（短軸）・深さ約30cmである。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●土坑 8

この遺構は、 $X = -142.550$ ・ $Y = -27.700$ 地区において検出した。平面形態は、不整形な円形を呈している。検出面の標高は、約T.P.+151.100mを測った。規模は、長さ約5m（長軸）約2.5m（短軸）・深さ約70cmである。遺構の大半は調査区外に存在すると思われる。

遺物は、瓦質奈良火鉢片・土師器皿片・須恵器壺片などが出土している。

以上、7地区の第1遺構面の遺構について述べた。すべて中世に属する遺構であり、特に土坑8から出土した奈良火鉢片については15世紀前半の深鉢Iに分類されているものもあると考える。溝8と土坑1~5については自然流路と考える。

★第2遺構面（第10図-2・第17図・第23図・第26図・図版20・21）

●旧河川1

この遺構は、 $X = -142.550 \sim -142.560$ ・ $Y = -27.690 \sim -27.700$ 地区において検出した。平面形態は南西から北東へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+150.500m、北東側肩部でT.P.+150.500mを測った。規模は、長さ約11m・幅約6.4m（最大）・深さ約1m（最大）である。

遺物は、須恵器壺（第17図-78・図版43-78）、須恵器壺（第17図-79・図版43-79）、須恵器壺（第17図-81・図版43-81）などが出土している。

●旧河川2

この遺構は、 $X = -142.560$ ・ $Y = -27.700 \sim -27.710$ 地区において検出した。平面形態は西から東へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、西側肩部でT.P.+150.500m、東側肩部でT.P.+150.500mを測った。規模は、長さ約6m・幅約5m（最大）・深さ約70cm（最大）である。

遺物は、須恵器壺（第17図-80・図版43-80）などが出土している。

●旧河川3

この遺構は、 $X = -142.570$ ・ $Y = -27.710$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+150.600m、南東側肩部でT.P.+150.600mを測った。規模は、長さ約5m・幅約6m（最大）・深さ約30cm（最大）である。

●旧河川4

この遺構は、 $X = -142.570 \sim -142.580$ ・ $Y = -27.710 \sim -27.720$ 地区において検出した。平面形態は南西から北東へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+150.600m、北東側肩部でT.P.+150.600mを測った。規模は、長さ約12m・幅約2m（最大）・深さ約90cm（最大）である。

●旧河川5

この遺構は、 $X = -142.580$ ・ $Y = -27.710 \sim -27.720$ 地区において検出した。平面形態は

南西から北東へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+150.600m、北東側肩部でT.P.+150.600mを測った。規模は、長さ約2m・幅約1.4m（最大）・深さ約40cmである。

遺物は、須恵器壺（第17図-82・図版44-82）などが出土している。

以上、7地区の第2遺構面の遺構について述べた。すべて奈良時代～平安時代に属する遺構であると考える。旧河川1については、上記に述べた5・6地区の旧河川1とつながるものである。それぞれの旧河川は、流路の形態から旧天野川の一部にあたるものであると考える。

◎8地区（第10図-（3）・第18図・第22～26図・図版2・4・22～24・図版44～46）

この地区は安全のために残した東西断面を挟んで7地区の南西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一級河川天野川の右岸に位置する。延長は約53mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は2枚の水田であった。機械掘削の後、約60～80cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。この遺構面を検出するにあたって掘り下げていったところ、地区のほぼ中央にあたるX=-142.590～-142.600・Y=-27.740～-27.750地区において、北西の丘陵部からU字状に大きく張り出した花崗岩の地山を検出している。またこの地山の裾部を取り巻く様な形で、多数の10～50cm大の花崗岩の自然石がみられた。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のものほか遺物包含層出土のものである。（第18図-87～104、第22図-157、第23図-166、第24図-176～181、第25図-205～207、第26図-218・219・222・223、図版44～46）

●旧河川6

この遺構は、X=-142.590・Y=-27.730～-27.740地区において検出した。平面形態は北から南へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+151.000m、南側肩部でT.P.+150.500mを測った。規模は、長さ約6.4m・幅約5.4m（最大）・深さ約1.2m（最大）である。前述した北西の丘陵部からU字状に大きく張り出した花崗岩の地山の北東側が、この河川の右岸になっている。

遺物は、肥前磁器碗（第17図-101・図版45-101）・肥前磁器碗（第17図-102・図版46-102）などが出土している。

●旧河川7

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.750$ 地区において検出した。この面で検出できたのは、前述した北西の丘陵部からU字状に大きく張り出した花崗岩の地山の南西側に当たるラインで、これが旧天野川の左岸に当たる部分であると考える。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+151.500m、南東側肩部でT.P.+151.300mを測った。規模は、長さ約5mである。

以上、8地区の遺構について述べた。上記したとおり、この地区のほぼ中央において、北西の丘陵部からU字状に大きく張り出した花崗岩の地山を検出している。今回検出した旧河川6・7については南東側の調査地区外で1本につながっており、この地山に沿って大きく蛇行した旧天野川の一部ではないかと考える。旧河川6から出土している遺物から判断すると、この天野川は遅くとも近世（18世紀後半）の段階では現在とは違う流路形態を取っていたものと考える。

◎9地区（第10図-（3）・第18図・第23図・第24図・図版25～27・図版46）

この地区は8地区の西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一級河川天野川の右岸に位置する。延長は約26mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約30cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のものほか遺物包含層出土のものである。（第18図-105～111、第23図-161、第24図-182、図版46）

●溝 13

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.770$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約10m・幅約35cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 14

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.770$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約8.4m・幅約35cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 15

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.770$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約6.6m・幅約30cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器皿片・土師器甕片が出土している。

●溝 16

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.770 \sim -27.780$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約8m・幅約30cm・深さ約5cmである。

遺物は、土師器皿片が出土している。

●溝 17

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.770 \sim -27.780$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約8.6m・幅約35cm・深さ約10cmである。

●溝 18

この遺構は、 $X = -142.610$ ・ $Y = -27.780$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約7m・幅約35cm・深さ約10cmである。

遺物は、土師器甕片が出土している。

●溝 19

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.780 \sim -27.790$ 地区において検出した。平面形態は西から東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約7m・幅約1.6m・深さ約70cmである。

遺物は、土師器皿片・土師器壺片・須恵器壺片などが出土している。

●溝 20

この遺構は、 $X = -142.600 \sim -142.610$ ・ $Y = -27.780 \sim -27.790$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.400m、南東側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約11m・幅約40cm・深さ約10cmである。溝内には平瓦が敷き詰められている。近代の暗渠である。

●溝 21

この遺構は、 $X = -142.610$ ・ $Y = -27.780$ 地区において検出した。平面形態は北から南へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、西側肩部でT.P.+152.400m、南側肩部でT.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約1.6m・幅約60cm・深さ約5cmである。

遺物は、土師器皿（第18図-105・図版46-105）などが出土している。

●土坑1

この遺構は、 $X = -142.610$ ・ $Y = -27.780$ 地区において検出した。平面形態は、ほぼ円形を呈すると思われる。検出面の標高は、約T.P.+152.400mを測った。規模は、直径約2m・深さ約20cmである。遺構の大半は調査区外に存在すると思われる。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

●土坑2

この遺構は、 $X = -142.610$ ・ $Y = -27.780$ 地区において検出した。平面形態は、不整形な橢円形を呈する。検出面の標高は、約T.P.+152.400mを測った。規模は、長さ約1.8m（長軸）約0.8m（短軸）・深さ約30cmである。

遺物は、土師器皿片などが出土している。

以上、9地区の主な遺構について述べた。これら以外にも溝4本・土坑2基などを検出

している。溝13~18については、中世の耕作に伴う溝であると考える。特に溝15~18については、等間隔で同じ方向に掘られていることからこの可能性が高い。溝19については、10地区で述べる土坑3につながるものである。

◎10地区（第10図-(3)・第19図・第24図・第25図・第26図・図版28・29・図版47・48）

この地区は安全のために残した南北断面を挟んで9地区の南西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一級河川天野川の右岸に位置する。延長は約33mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約80cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のもののほか遺物包含層出土のものである。（第19図-112~123、第24図-183~192、第25図-211・212、第26図-213・220、図版47~48）

●溝 22

この遺構は、 $X = -142.620 \sim -142.630$ ・ $Y = -27.810$ 地区において検出した。平面形態は北西から南東へ延びるほぼ直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、北西側肩部でT.P.+152.900m、南東側肩部でT.P.+153.000mを測った。規模は、長さ約5m・幅約1.3m・深さ約30cmである。

遺物は、須恵器壺（第19図-117・図版47-117）などが出土している。

●土坑 3

この遺構は、 $X = -142.610$ ・ $Y = -27.790$ 地区において検出した。平面形態はほぼ橿円形を呈するが、9地区の溝19につながるものである。検出面の標高は、約T.P.+152.700mを測った。規模は、長さ約2m・幅約3m・深さ約10cmである。

遺物は、瓦器碗片が出土している。

●土坑 4

この遺構は、 $X = -142.610$ ・ $Y = -27.800$ 地区において検出した。平面形態は、長楕円形を呈する。検出面の標高は、約T.P.+152.800mを測った。規模は、長さ約5m・幅約1m・深さ約30cmである。

遺物は、瓦器碗片・土師器皿片などが出土している。

●土坑 5

この遺構は、 $X = -142.620 \cdot Y = -27.800 \sim -27.810$ 地区において検出した。平面形態はほぼ円形を呈する。検出面の標高は、約 T.P.+152.900m を測った。規模は、直径約 3 m・深さ約 20cm である。

遺物は、土師器皿片が出土している。

以上、10地区の主な遺構について述べた。これら以外にも溝 2 本・土坑 1 基などを検出している。今回検出した遺構は、中世に属するものである。

◎11地区 (第11図-1・第20図・第24図・図版30・31・33・図版48・49)

この地区は10地区の南西約18mの地点にあり、一級河川天野川の左岸に位置する。延長は約42mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約40cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものはすべて遺物包含層出土のものである。(第20図-124~134、第24図-193~196、図版48・49)

この地区では、 $X = -142.650 \sim -142.670 \cdot Y = -27.820 \sim -27.830$ 地区において溝を11本検出した。平面形態は北東から南西へ延びる直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、T.P.+154.400m ~ T.P.+154.500m を測った。規模は、長さ約 1 ~ 4.5m・幅約 35 cm・深さ約 10cm である。これら11本の溝は、1.5m 間隔で平行に掘られている。このことから耕作に伴う溝であると考える。遺物は出土していないが、溝の覆土から近世の遺構であると考えられる。

また地区内のほぼ中央において検出した北西から南東方向に延びるラインは、天野川とほぼ平行しており、そこから南西に向かって落ち込んでいる。これは、天野川の氾濫によって生じたものであり、後に護岸のため埋め戻されている。その時期については、前述の溝を削平していることから近世以降であると考える。

◎12地区（第11図-1・第20図・第26図・図版2・30・33・図版49）

この地区は11地区の北西側に続くものであるが、現況の水田が1段高くなっていることから、調査の便宜上新たな地区として分けた。一級河川天野川の左岸に位置する。延長は約21mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約20~30cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものは後述のもののほか遺物包含層出土のものである。（第20図-135~137、第26図-216、図版49）

●溝 1

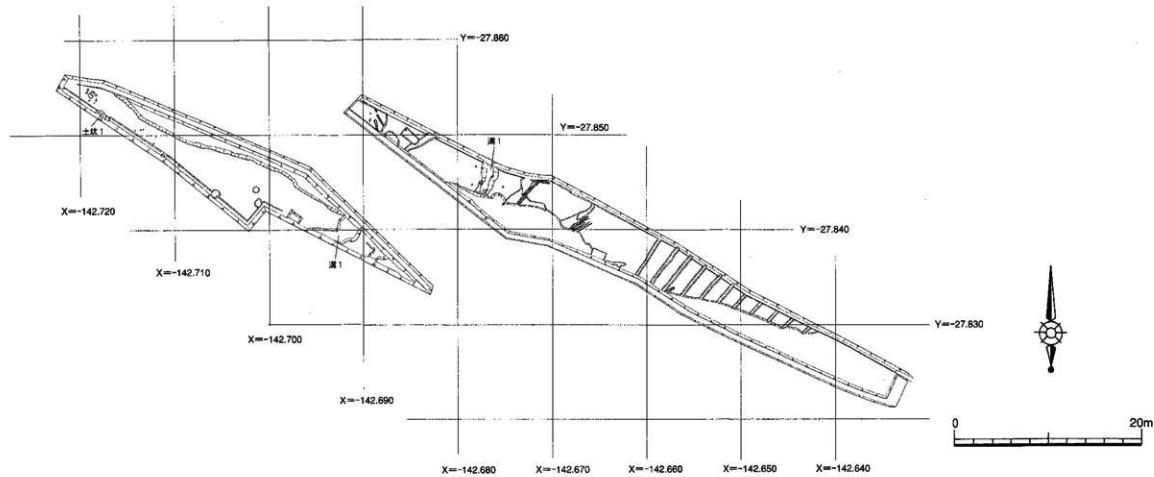
この遺構は、X = -142.680・Y = -27.840地区において検出した。平面形態は北から南へ延びるほぼ直線状、断面形態はU字状を呈している。検出面の標高は、北側肩部でT.P.+154.900m、南側肩部でT.P.+155.000mを測った。規模は、長さ約3.4m・幅約1.8m（最大）・深さ約60cmである。

遺物は、土師器皿（第20図-135・図版49-135）・瓦器碗片などが出土している。

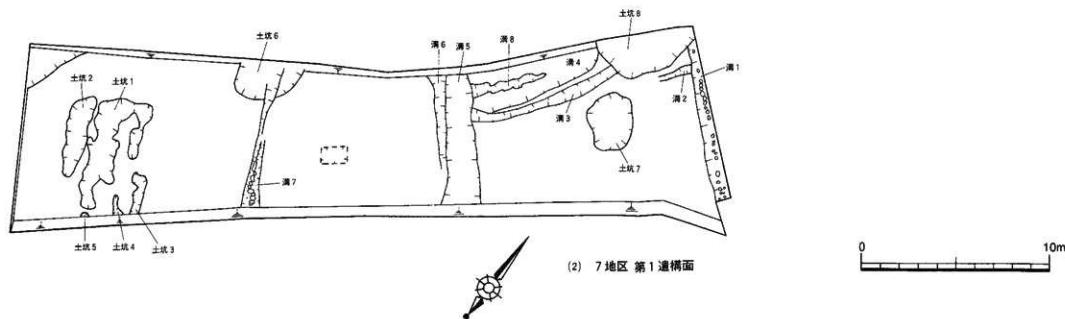
以上、12地区の主な遺構について述べた。これら以外にも溝5本・土坑2基などを検出している。11地区と同様に地区内の南東側において検出した西から東方向に延びるラインは、11地区からの継ぎであり、そこから南西に向かって落ち込んでいる。これは、天野川の氾濫によって生じたものであり、後に護岸のため埋め戻されている。その時期については、前述のとおり近世以降であると考える。

◎13地区（第11図-1・第21図・第25図・図版30・35・図版49・50）

この地区は、天野川を挟んで12地区的南西側、一級河川天野川の左岸に位置する。延長は約45mである。基本層序の項でも述べたとおり、調査前は水田であった。機械掘削の後、約20~40cmの遺物包含層を人力で掘り下げたところで遺構面を検出した。主な遺構は後述のとおりである。またほとんどの出土遺物は小片で、図示できたものはすべて遺物包含層出土のものである。（第21図-138~152、第25図-197~204、図版49・50）



(1) 11・12・13地区



第11图 造構平面图

●溝 1

この遺構は、 $X = -142.700 \cdot Y = -27.830 \sim -27.840$ 地区において検出した。平面形態は、南西から北東へ延びる不整形な直線状、断面形態はU状を呈している。検出面の標高は、南西側肩部でT.P.+154.500m、南側肩部でT.P.+154.400mを測った。規模は、長さ約2.8m・幅約2.6m（最大）・深さ約50cmである。

●土坑1

この遺構は、 $X = -142.720 \cdot Y = -27.850$ 地区において検出した。平面形態は、ほぼ円形を呈すると思われる。検出面の標高は、約T.P.+155.000mを測った。規模は、直径約1.3m・深さ約40cmである。遺構の大半は調査区外に存在すると思われる。

以上、13地区の主な遺構について述べた。これら以外にも土坑2基などを検出している。11・12地区と同様に地区内の北東側において検出した北西から南東方向に延びるラインは、天野川とほぼ平行しており、そこから北東に向かって落ち込んでいる。これは、天野川の氾濫によって生じたものであり、後に護岸のため埋め戻されている。その時期については、前述のとおり近世以降であると考える。

今回の発掘調査で各地区において検出した遺構は、以上述べてきたとおりである。それぞれの地区においては、最終遺構面において航空写真撮影・測量を行なった後、さらに遺物包含層を掘り下げ地山面（花崗岩）を確認した。ただし1～4地区においては、調査地区の幅が狭いため安全勾配を確保していくと、4地区の一部を除き地山面を検出することは不可能であった。各地区での出土遺物については後述するが、大半の縄文土器と石器類はこの包含層から出土している。

第3節 出土遺物

文中において出土遺構名がないものは、すべて遺物包含層からの出土である。

◎1地区出土遺物（第12図・図版36）

1～2は土師器小皿である。1は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は底部から口縁部付近まで顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第12図-1・図版36-1・図版4-1）。

2は丸底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面はユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。口縁部に灯心の跡がみられることから灯明皿として使用していたものである（第12図-2・図版36-2）。

3は陶器碗である。体部外面の上半部と内面に濃緑色の灰釉が施釉されている。16世紀末～17世紀前半の時期に該当する肥前陶器碗と思われる。（第12図-3・図版36-3）

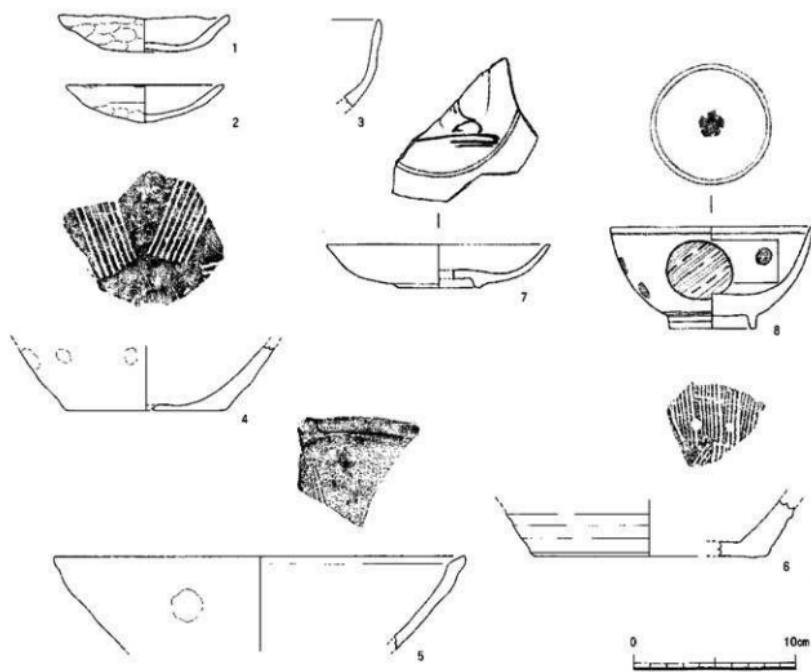
4は陶器摺り鉢である。底部の一部のみが残存する。体部外面にはユビオサエの痕跡がみられる。摺り目は7条／2.5cmで、摺り目の1単位の間隔は広く、底部には施されていない。（第12図-4・図版36-4）

5は瓦質土器摺り鉢である。体部は内湾気味に外上方へ伸び、さらに若干膨らみながら口縁部に至る。口縁端部は外上方へわずかに折れ、口縁部内面の稜線は明瞭である。体部外面にはユビオサエの痕跡がみられ、口縁部にはヨコハケ調整を施している。内面はナデ調整を施して、3本以上の摺り目を入れている。15世紀末ごろの時期に該当するものと考える。（第12図-5・図版36-5）

6は陶器摺り鉢である。底部の一部のみが残存する。摺り目は6条／1.4cmで、摺り目の1単位の間隔は狭く、底部にも施されている。16世紀末ごろの時期に該当する信楽焼摺り鉢と思われる。（第12図-6・図版36-6）

7は磁器染付皿である。高台置付部以外全面に釉薬が施されている。17世紀中ごろの時期に該当する肥前磁器染付皿と思われる。（第12図-7・図版36-7）

8は磁器染付碗である。体部外面の文様は丸文で、見込みにはコンニャク印判による五



第12図 1地区 出土遺物

弁花文が施されている。底部内面には蛇の目釉剥ぎがみられ、高台置付部とともに砂が付着している。18世紀後半の時期に該当する肥前磁器染付碗である。いわゆる「くらわんか碗」と呼ばれているものである。(第12図-8・図版36-8・図版6-2)

◎ 2地区出土遺物 (第13図・図版36~38)

9~14は土師器小皿である。9は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は底部から口縁部付近までユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第13図-9・図版36-9)。10は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顯著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第13図-

10・図版36-10)。11は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。口縁部に灯心の跡がみられることから灯明皿として使用していたものである(第13図-11・図版36-11)。12は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面はユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。溝8から出土したものである(第13図-12・図版36-12)。13は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面はユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。溝9から出土したものである(第13図-13・図版37-13)。14は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面はユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。溝23から出土したものである。(第13図-14・図版37-14)。

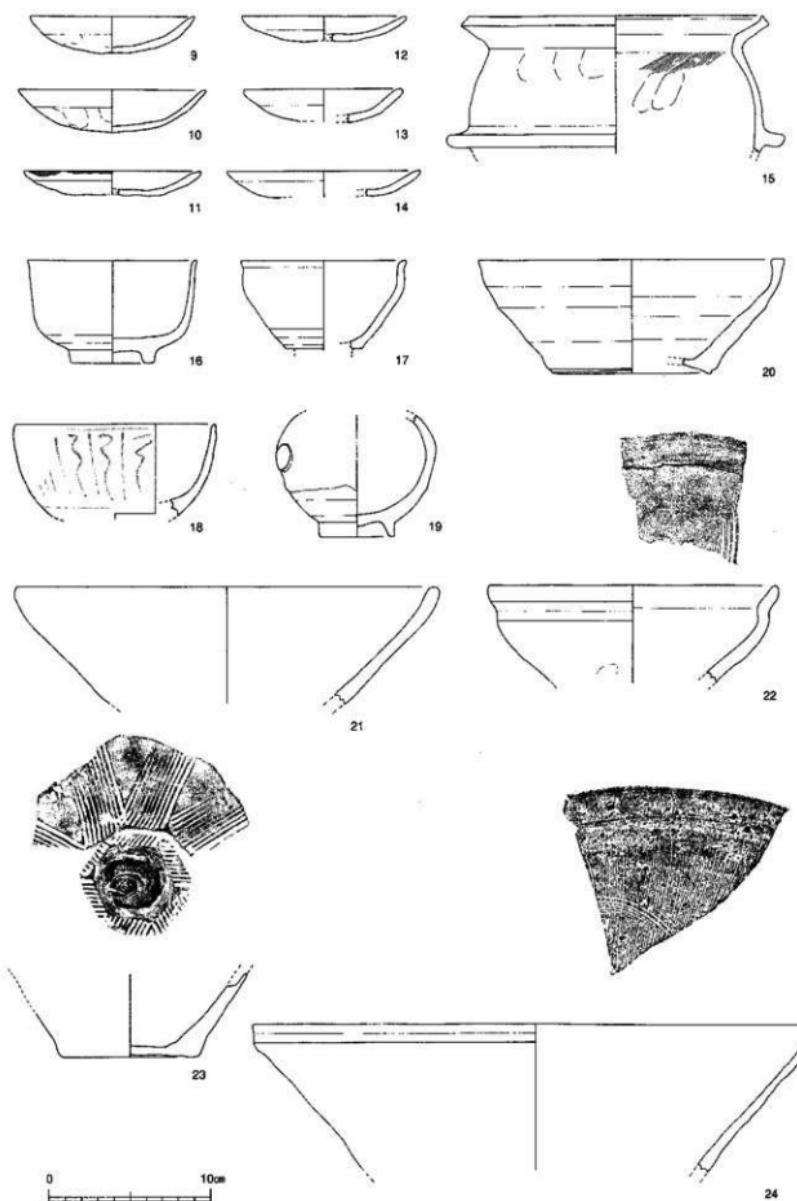
15は土師質土器釜である。丸みをもった体部から口縁部は「く」字状にやや上外方へ外反し、口縁端部の内側をつまみ上げている。体部の中程よりやや下には短い鈎を付けている。体部の内外面ともナデ調整が施されているが、外面の口縁部下には指頭痕が、内面の口縁部下に斜めハケ調整痕がわずかにみられる。体部外面の口縁部と鈎から下部に煤の付着がみられる。胎土は緻密で、焼成は堅緻である。16世紀末~17世紀初頭の時期に該当するものと思われる。(第13図-15・図版37-15)

16は陶器碗である。体部は丸みをもった腰部から垂直に立ち上がり口縁部に至る。高台は削り出し高台である。高台内と畳付部以外に淡緑色の灰釉が施釉されている。17世紀代の時期に該当する瀬戸・美濃系灰釉陶器碗と思われる。(第13図-16・図版37-16)

17は陶器碗である。高台部分は欠損するものの、体部は高台脇を水平に削り、そこから外上方へ逆「八」字状に外反し口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁端部は外反しくびれ部を形成している。体部外面の腰部から口縁部と内面に鉄釉が施釉されている。16世紀前半の時期に該当する瀬戸・美濃系鉄釉天目碗と思われる。(第13図-17・図版37-17)

18は磁器染付碗である。染付碗の小片である。18世紀代の時期に該当する肥前磁器染付碗である。いわゆる「くらわんか碗」と呼ばれているものである。(第13図-18・図版37-18)

19は陶器水注である。体部の上半部を欠損する。削り出された高台から、丸みをもって体部の上半部に至る。体部の中央よりやや下の部分から上半部にかけて鉄釉が施釉されて



第13図 2地区 出土遺物

いる。体部の中央には把手が外れたと思われる痕跡がみられることから水注ではないかと考える。(第13図-19・図版37-19)

20は陶器鉢である。上げ底気味の底部から外上方へ逆「八」字状に外反し、口縁部付近で垂直に立ち上がる。口縁端部は平らに成形されている。16世紀末の時期に該当する信楽焼陶器平鉢と思われる。(第13図-20・図版37-20)

21は瓦質土器鉢である。体部は内湾気味に外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は若干厚みをもっている。体部外面にはユビオサエの痕跡がわずかにみられ、内面はナデ調整を施している。残存している小片には摺り目がみられないが、15世紀末ごろの時期に該当する摺り鉢であると思われる。(第13図-21・図版37-21)

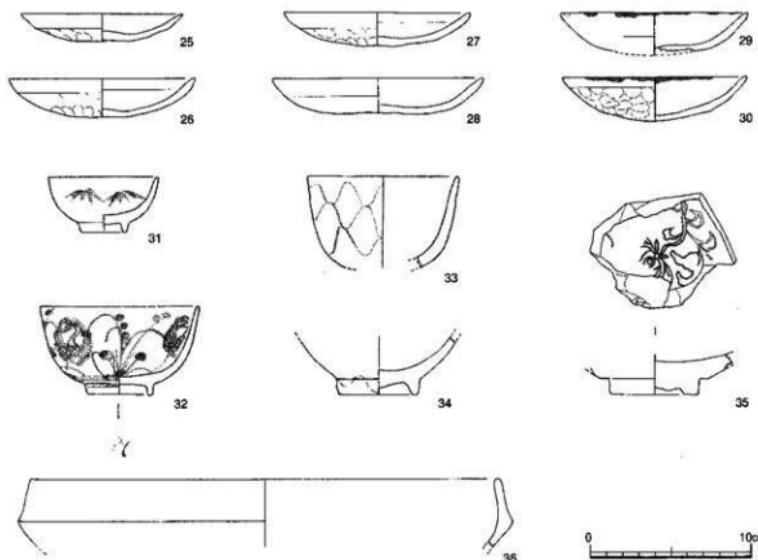
22は瓦質土器摺り鉢である。体部は内湾気味に外上方へ伸び、口縁部は大きく外上方へ折れる。口縁部内外面の稜線は明瞭である。体部外面にはユビオサエの痕跡がわずかにみられる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整を施している。内面はナデ調整を施して、5本以上の摺り目を入れている。16世紀初頭ごろの時期に該当するものと考える。(第13図-22・図版38-22)

23は土師質土器摺り鉢である。底部のみが残存する。体部外面にはユビオサエの痕跡がわずかにみられるが、底部付近は丁寧にナデ調整が施されている。底部外面には粘土紐の痕跡がみられる。摺り目は10条／2.8cmで、摺り目の1単位の間隔は広く全体で6単位あり、底部には施されていない。(第13図-23・図版38-23)

24は陶器摺り鉢である。体部は外上方へ逆「八」字状に伸び、口縁部付近で若干内湾する。口縁の下部は外側へ若干肥厚する。体部外面には指頭痕がみられるが、口縁部付近と内面は丁寧にナデ調整が施されている。摺り目は7条／2.2cmで、摺り目の1単位の間隔は狭い。17世紀前半の時期に該当する丹波焼陶器摺り鉢と思われる。(第13図-24・図版38-24)

◎ 3 地区出土遺物 (第14図・図版38・39)

25～27・29・30は土師器小皿である。25は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は底部から口縁部付近までユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。口縁部に灯心の跡がみられるこ



第14図 3地区 出土遺物

とから灯明皿として使用していたものである（第14図-25・図版38-25）。26は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面はユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第14図-26・図版38-26）。27は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第14図-27・図版38-27）。29は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。口縁部に灯心の跡がみられることから灯明皿として使用していたものである（第14図-29・図版38-29）。30は丸底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。口縁部に灯心の跡がみられることから灯明皿として使用していたものである（第14図-30・図版38-30）。

28は土器器中皿である。平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第14図-28・図版38-28）。

31は磁器染付盃である。体部外面の文様は笹文である。高台疊付部は無釉で、底部内面と高台疊付部には砂が付着している。18世紀代の時期に該当する肥前磁器染付盃である。溝23から出土したものである。(第14図-31・図版38-31)

32は磁器染付碗である。体部外面の文様はコンニャク印判による团鶴文の上に草花文が描かれている。底裏銘あり。高台疊付部は無釉で、砂が付着している。18世紀前半～中頃の時期に該当する肥前磁器染付碗である。いわゆる「くらわんか碗」と呼ばれているものである。(第14図-32・図版38-32)

33は磁器染付碗である。体部外面の文様は一重網目文である。17世紀後半の時期に該当する肥前磁器染付碗である。(第14図-33・図版38-33)

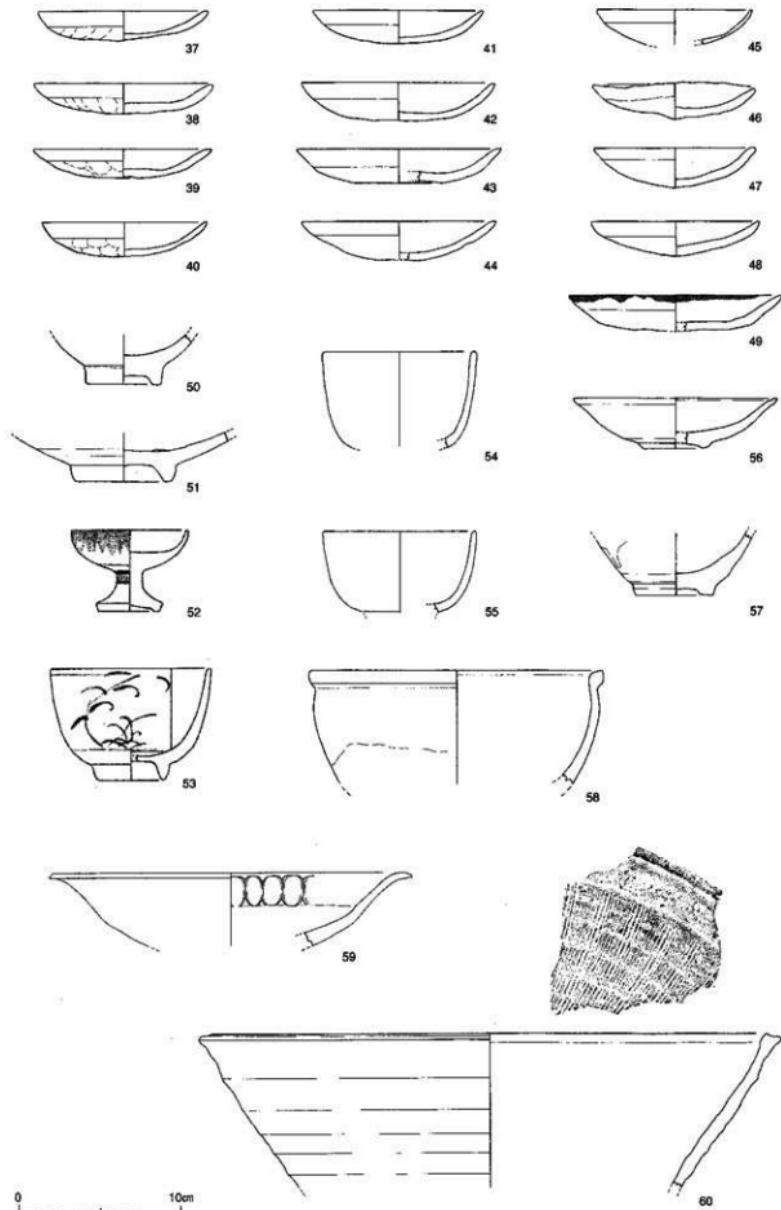
34は陶器碗である。高台部は無釉で、体部外面に銅緑釉・内面に透明釉を施釉している。内野山窯(佐賀県嬉野町)の製品である。17世紀末～18世紀前半の時期に該当する肥前青緑釉陶器碗である。(第14図-34・図版38-34)

35は輸入磁器白磁碗である。底部のみの残存である。高台は削り出して、体部外面の残存部分は無釉である。見込みには凹印文が施されている。15世紀代の時期に該当するものと思われる。(第14図-35・図版39-35)

36は土師質土器炮烙である。口縁部のみの小片である。体部と口縁部の境で内側に向かって「く」字状に屈曲し、口縁部は短い。体部外面には煤の付着がみられる。18世紀後半の時期に該当するものと思われる。(第14図-36・図版39-36)

◎4地区出土遺物(第15図・図版39～41)

37～42・44～48は土師器小皿である。37は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は底部から口縁部付近まで顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第15図-37・図版39-37)。38は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第15図-38・図版39-38)。39は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。焼成は不良である(第15図-39・図版39-39)。40は平



第15図 4地区 出土遺物

底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顯著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-40・図版39-40）。41は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-41・図版39-41）。42は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-42・図版39-42）。44は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-44・図版39-44）。45は底部から口縁部が若干内湾しながら外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。溝23から出土したものである（第15図-45・図版39-45）。46は尖り気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部外面は顯著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-46・図版39-46）。47は丸底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-47・図版39-47）。48は丸底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-48・図版39-48）。

43・49は土師器中皿である。43は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第15図-43・図版39-43）。49は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、若干丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。口縁部に灯心の跡がみられることから灯明皿として使用していたものである（第15図-49・図版39-49）。

50は陶器碗である。高台部は無釉で、体部外面に銅緑釉・内面に透明釉を施釉している。内野山窯（佐賀県嬉野町）の製品である。17世紀末～18世紀前半の時期に該当する肥前青緑釉陶器碗である。溝23から出土したものである。（第15図-50・図版40-50）

51は陶器皿である。高台部は無釉で、体部内面に銅緑釉・外面に透明釉を施釉している。見込みには、蛇の目状に釉剥ぎしたところに砂目の跡がみられる。内野山窯（佐賀県嬉野町）の製品である。17世紀末～18世紀前半の時期に該当する肥前青緑釉陶器皿である。

(第15図-51・図版40-51)

52は磁器染付仏飯器である。体部外面の文様は雨降り文である。脚の底部は無釉で、体部内面に砂が付着している。18世紀前半の時期に該当する肥前磁器染付仏飯器である。溝23から出土したものである。(第15図-52・図版40-52)

53は磁器染付碗である。体部外面の文様は草花文である。高台豊付部以外は全面施釉で、見込みに砂が付着している。17世紀後半の時期に該当する肥前磁器染付碗と思われる。

(第15図-53・図版40-53)

54は陶器碗である。筒形碗に近い形態で、釉色は明褐色(7.5YR 5/6)を呈する。表面には細かい貫入がみられる。(第15図-54・図版40-54)

55は陶器碗である。腰の部分に若干丸みをもった形態で、釉色は淡黄色(2.5Y 8/3)を呈する。高台部付近は無釉である。表面には細かい貫入がみられる。(第15図-55・図版40-55)

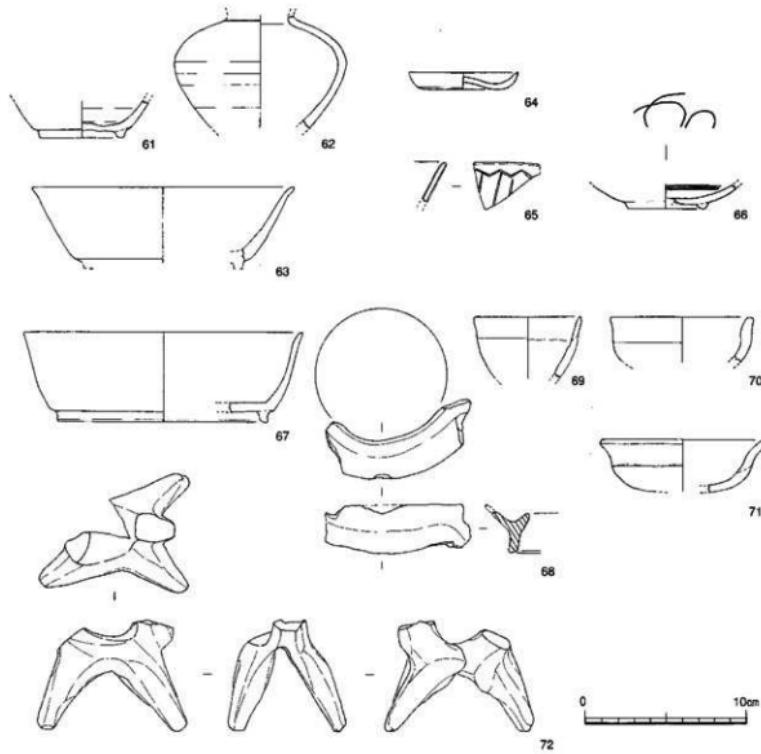
56は陶器皿である。口縁端部の上面に1条の溝が巡っている。高台は削り出し高台である。体部外面の上半部と内面に釉薬を施釉しているが、劣化が著しい。表面の劣化が著しいため砂目の跡は不明であるが、17世紀初頭の時期に該当する肥前陶器灰釉溝縁皿と思われる。(第15図-56・図版40-56)

57は陶器碗である。体部外面の上部2/3と内面に灰色(10Y 6/1)の釉薬を施釉している。高台は削り出し高台である。17世紀前半の時期に該当する肥前陶器碗であると思われる。(第15図-57・図版40-57)

58は陶器碗である。体部外面の上部1/3と内面に暗赤灰色(10R 3/1)の釉薬を施釉している。胎土は、にぶい褐色(7.5YR 5/3)を呈し緻密である。17世紀以降の時期に該当するものであると思われる。(第15図-58・図版40-58)

59は輸入磁器青磁盤である。口縁部内面に連続した梢円形のくぼみを巡らし、蓮弁文を表現している。14世紀後半の時期に該当する龍泉窯系青磁盤と思われる。(第15図-59・図版41-59)

60は陶器摺り鉢である。口縁端部外面に凸帯を巡らせ、体部との境には明瞭な凸部がみられる。体部内外面に暗赤灰色(5R 3/1)の泥漿が掛けられている。摺り目は7条/1.6cmで、摺り目の1単位の間隔は狭い。17世紀前半の時期に該当する信楽焼陶器摺り鉢と思われる。(第15図-60・図版41-60)



第16図 5・6地区 出土遺物

◎ 5・6地区出土遺物（第16図・図版41・42）

61は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。高台は貼り付け高台で、作りが粗雑で楕円形を呈している。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。（第16図-61・図版41-61）

62は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈する。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。（第16図-62・図版41-62）

63は須恵器壺である。体部は高台部から外上方に逆「八」字状に伸び、口縁部が若干外反する。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Bであると思われる。（第16図-63・図版41-63）

64は土師器小皿である。平底の底部から口縁部が外上方へ短く伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。底部に突出がある、いわゆる「へそ皿」である。(第16図-64・図版41-64)

65は輸入磁器青磁碗である。文様は線刻による蓮弁文である。16世紀前半の時期に該当する青磁蓮弁文碗であると思われる。(第16図-65・図版41-65)

66は瓦器碗である。底部のみの小片である。体部内面はヘラミガキ調整を密に施している。見込み部には、連結輪状文の暗文が施されている。高台は断面台形を呈する。12世紀中頃の時期に該当するものと思われる。(第16図-66・図版41-66)

67は須恵器坏である。体部は高台部から外上方に伸び、口縁部が若干外反する。8世紀中頃の時期に該当する須恵器坏Bであると思われる。旧河川1から出土したものである。(第16図-67・図版42-67)

68は土師器ミニチュアの竈である。上部の掛け口と庇の一部である。旧河川1から出土したものである。(第16図-68・図版42-68)

69~71は土師器ミニチュアの碗である。69は器高が高いコップ形を呈し、70・71は器高が低い碗形を呈している。69・71は表面に粘土紐の痕跡がみられる。旧河川1から出土したものである。(第16図-69~71・図版42-69~71)

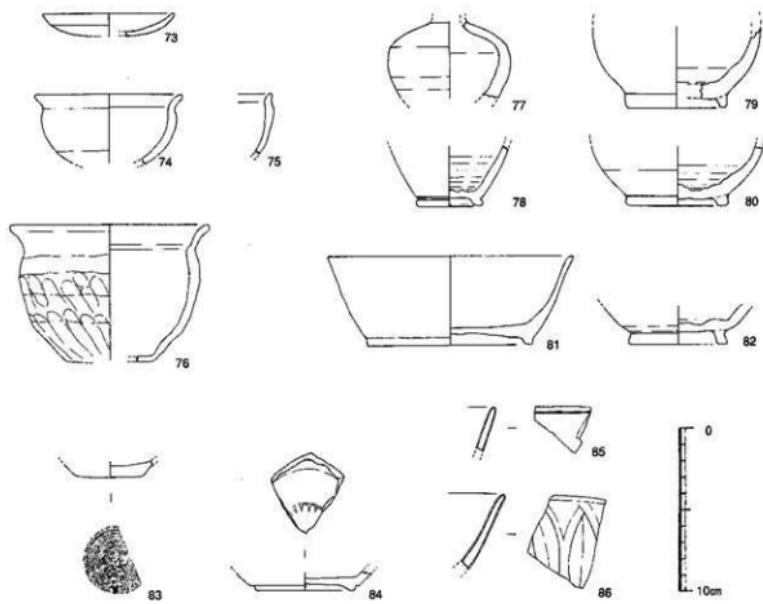
72は土製馬形である。頭部と左の後脚・尻尾が欠損している。全体にナデにより成形・調整されており、丁寧な作りである。旧河川1から出土したものである。(第16図-72・図版42-72)

67~72は旧河川1からの共伴出土遺物である。これらは水辺祭祀に用いた遺物であると考える。また土製馬形に関しては、四條畷市内において16例目のものであり、田原地区においては今回が初めての事例である。

◎ 7 地区出土遺物 (第17図・図版43~44)

73は土師器小皿である。平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。(第17図-73・図版43-73)

74・75は土師器ミニチュアの碗である。74は球形の体部から口縁部が外上方へ外反する形態を呈する。表面に粘土紐の痕跡がみられる。75は垂直気味に立ち上がった体部から口



第17図 7地区 出土遺物

縁部が短く若干外反する形態を呈する。(第17図-74・75・図版43-74・75)

76は土師器壺である。平底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部は外上方へ外反する。体部外面には、斜め方向に施されたユビナデの痕跡が顕著にみられる。内面は丁寧にナデ調整しており、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。8世紀末～9世紀の時期に該当する壺Bであると思われる。(第17図-76・図版43-76)

77は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈する。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。(第17図-77・図版43-77)

78は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。高台は貼り付け高台で、作りが粗雑で梢円形を呈している。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。第2遺構面旧河川1から出土したものである。(第17図-78・図版43-78)

79は須恵器壺である。体部は最大径が中央に位置する球形を呈すると思われる。8世紀

末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。第2遺構面旧河川1から出土したものである。(第17図-79・図版43-79)

80は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。第2遺構面旧河川2から出土したものである。(第17図-80・図版43-80)

81は須恵器壺である。体部は高台部から外上方に伸び、口縁部が若干外反する。8世紀中頃の時期に該当する須恵器壺Bであると思われる。第2遺構面旧河川1から出土したものである。(第17図-81・図版43-81)

82は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。第2遺構面旧河川5から出土したものである。(第17図-82・図版44-82)

83は陶器皿である。底部外面は回転糸切りである。内面に灰釉が施釉されている。16世紀代の時期に該当する瀬戸焼灰釉陶器皿であると思われる。(第17図-83・図版44-83)

84は陶器皿である。高台は削り出しの低い高台である。高台脇には切り込んで段を成形している。見込みには、印花による菊花の文様が施されている。高台内を除く内外面に灰釉が施釉されている。16世紀代の時期に該当する瀬戸焼灰釉陶器皿であると思われる。(第17図-84・図版44-84)

85は輸入磁器青磁である。文様は体部外面の口縁端部に1本の沈線がみられる。(第17図-85・図版44-85)

86は輸入磁器青磁碗である。文様は籠蓮弁文である。13世紀代の時期に該当する龍泉窯系青磁碗であると思われる。(第17図-86・図版44-86)

◎ 8地区出土遺物 (第18図・図版44～46)

87・88は須恵器壺である。2点とも高台部のみ残存している。87は高台の高さが3mmと低く、内側に向かって若干低い段を成形している。体部は薄く、外上方へ伸びる形態を呈するものと思われる(第18図-87・図版44-87)。88は内側に若干肥厚した高台部から体部が外上方に伸びる形態を呈するものと思われる(第18図-88・図版44-88)。2点とも須恵器壺Bである。

89は須恵器蓋である。天井部に宝珠形のつまみがつく須恵器坏Bまたは皿Bの蓋であると思われる。(第18図-89・図版44-89)

90は須恵器平瓶である。口縁部と体部の一部のみ残存している。口縁部の内側と体部外面に降灰がみられる。(第18図-90・図版44-90)

91は須恵器壺である。平底の底部から体部は内湾しながら立ち上がる。須恵器壺の底部と思われる。(第18図-91・図版44-91)

92・93は土師器小皿である。92は平底の底部から口縁部が外上方へ短く伸び、丸みをもつ口縁端部に至る(第18図-92・図版45-92)。93は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸みをもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第18図-93・図版45-93)。

94は瓦質ミニチュアの羽釜である。復元口径5.2cmのミニチュア土器であるが、丁寧な成形である。(第18図-94・図版45-94)

95は施釉陶器である。高台部内と疊付以外には緑色の灰釉が施釉されている。(第18図-95・図版45-95)

96は陶器摺り鉢である。体部外面には4条の沈線がみられる。高台内以外の体部内外面に暗赤灰色(5R 3/1)の泥漿が掛けられている。摺り目は7条/2.4cmで、摺り目の1単位の間隔は狭い。見込みにも摺り目を施している。18世紀の時期に該当する信楽焼陶器摺り鉢と思われる。10地区の溝22から出土した破片と接合できたものである。(第18図-96・図版45-96)

97は輸入磁器青磁碗である。文様は鎬蓮弁文である。13世紀代の時期に該当する龍泉窯系青磁碗であると思われる。(第18図-97・図版45-97)

98は輸入磁器青磁碗である。文様は内面に劃花文がみられる。13世紀前半の時期に該当する龍泉窯系青磁碗であると思われる。(第18図-98・図版45-98)

99は輸入磁器青磁碗である。無文で、口縁部は玉縁状を呈する。14世紀前半の時期に該当する青磁碗であると思われる。(第18図-99・図版45-99)

100は輸入磁器白磁碗である。白磁碗の小片である。口縁は玉縁状を呈する。12世紀代の時期に該当する白磁碗であると思われる。(第18図-100・図版45-100)

101は磁器染付碗である。体部外面の文様は丸文で、見込みにはコンニャク印判による五弁花文が施されている。底部内面には蛇の目釉剥ぎがみられ、高台疊付部とともに砂が付着している。18世紀後半の時期に該当する肥前磁器染付碗である。いわゆる「くらわん

か碗」と呼ばれているものである。旧河川 6 から出土したものである。(第18図-101・図版45-101)

102は磁器染付碗である。体部外面の文様はコンニャク印判による松の木の文様が施されている。高台疊付部には砂が付着している。18世紀前半～中頃の時期に該当する肥前磁器染付碗である。旧河川 6 から出土したものである。(第18図-102・図版46-102)

103は磁器染付碗である。体部外面に丸文の文様をもつ小片である。18世紀後半の時期に該当する肥前磁器染付碗である。いわゆる「くらわんか碗」と呼ばれているものである。(第18図-103・図版46-103)

104は輸入磁器青花片である。高台内と疊付部は無釉である。見込みに花と思われる文様が描かれている。16世紀末～17世紀初頭の時期に該当する景德鎮系青花磁器片であると思われる。(第18図-104・図版46-104)

◎ 9 地区出土遺物 (第18図・図版46)

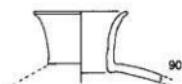
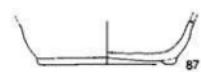
105は土師器小皿である。平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、口縁端部が大きく外反する。いわゆる「て」の字状口縁を呈する。体部外面はユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。11世紀末～12世紀前半の時期に該当するものと思われる。溝21から出土したものである。(第18図-105・図版46-105)

106は瓦器皿である。体部は外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。(第18図-106・図版46-106)

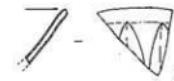
107は瓦器碗である。底部のみの小片である。体部内面はヘラミガキ調整を密に施している。見込み部の暗文は不明である。高台は断面三角形を呈する。13世紀中頃の時期に該当するものと思われる。(第18図-107・図版46-107)

108は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。高台は貼り付け高台で、若干楕円形を呈している。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。(第18図-108・図版46-108)

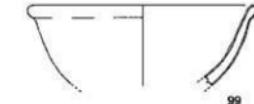
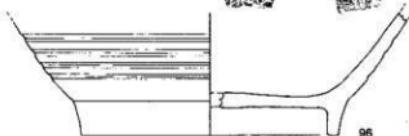
109は須恵器壺である。体部は最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。(第18図-109・図版46-109)



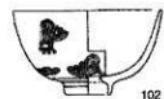
91



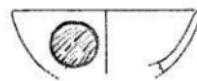
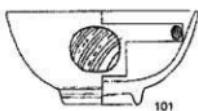
98



99



100



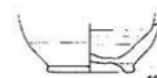
103



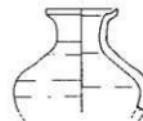
104



105



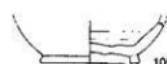
106



111



108



109



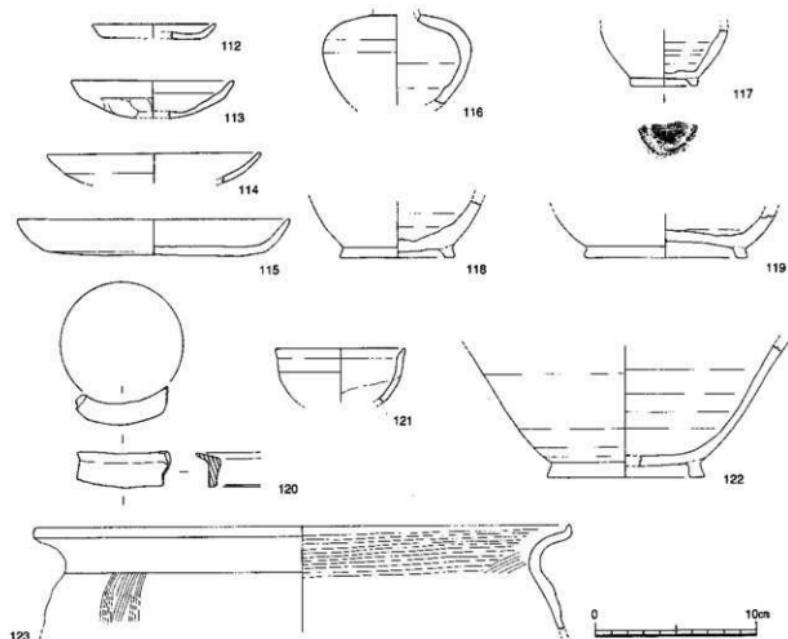
107



110



第18図 8・9地区出土遺物



第19図 10地区 出土遺物

110は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀中頃～9世紀代の時期に該当する須恵器壺であると思われる。(第18図-110・図版46-110)

111は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置し、口縁端部は短く垂直に立ち上がっている形態を呈する。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。(第18図-111・図版46-111)

◎10地区出土遺物 (第19図・図版47・48)

112・113は土師器小皿である。112は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。色調は赤橙色 (10R 6/6) を呈する (第19図-112・図版47-112)。113は丸底

気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部外面は顕著なユビオサエ・内面はナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第19図-113・図版47-113）。

114は瓦器皿である。体部は外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。（第19図-114・図版47-114）

115は土師器大皿である。平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。（第19図-115・図版47-115）

116は須恵器壺である。体部の最大径が肩部に位置する形態を呈する。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。（第19図-116・図版47-116）

117は須恵器壺である。体部は最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。高台内に「×」のヘラ記号が施されている。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。溝22から出土したものである。（第19図-117・図版47-117）

118は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀中頃～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Lであると思われる。（第19図-118・図版47-118）

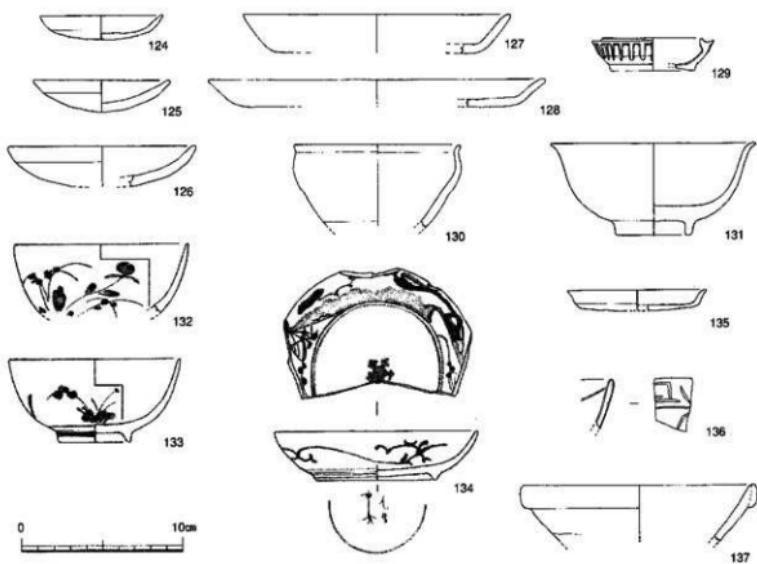
119は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀中頃～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Lであると思われる。（第19図-119・図版47-119）

120は土師器ミニチュアの竈である。上部の掛け口と底の一部である。（第19図-120・図版47-120）

121は土師器ミニチュアの碗である。体部は底部から内湾しながら口縁部に至り、口縁端部は若干外反する形態を呈する。（第19図-121・図版47-121）

122は須恵器壺である。体部は高台部から外上方へ伸びる。8世紀末～9世紀前半の時期に該当する須恵器壺BまたはQであると思われる。（第19図-122・図版48-122）

123は土師器壺である。体部から口縁部は「く」字状にやや上外方へ外反し、口縁端部をつまみ上げている。体部外面はタテハケメ調整のあと口縁部をヨコナデ調整、体部内面はナデ調整・口縁部内面はヨコハケメ調整を施している。8世紀後半～9世紀前半の時期に該当する土師器壺Aであると思われる。（第19図-123・図版48-123）



第20図 11・12地区 出土遺物

◎11地区出土遺物（第20図・図版48・49）

124～126は土師器小皿である。124は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第20図-124・図版48-124）。125は丸底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第20図-125・図版48-125）。126は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている（第20図-126・図版48-126）。

127・128は須恵器皿である。127は平底の底部から外上方へ伸び、丸味をもつ口縁部に至る。8世紀末～9世紀前半の時期に該当する須恵器皿Aであると思われる（第20図-127・図版48-127）。128は平底の底部から外反するように外上方へ伸び、丸味をもつ口縁部に至る。8世紀末～9世紀前半の時期に該当する須恵器皿Cであると思われる（第20図-128・図版48-128）。

129は輸入磁器青磁合子の身である。底部と受け部以外は施釉されている。13世紀後半～14世紀前半の時期に該当する龍泉窯系の青磁合子の身であると思われる。(第20図-129・図版48-129)。

130は陶器碗である。高台部分は欠損するものの、体部は外上方へ逆「八」字状に外反し口縁部は短く垂直に立ち上がる。口縁端部は外反しくびれ部を成形している。体部外面の腰部から口縁部と内面に鉄釉が施釉されている。16世紀前半の時期に該当する瀬戸・美濃系鉄釉天目碗と思われる。(第20図-130・図版48-130)

131は磁器端反り碗である。底部内面には蛇の目釉剥ぎがみられ、高台疊付部とともに砂が付着している。19世紀の時期に該当する肥前磁器蓋付端反り碗である。(第20図-132・図版48-132)

132は磁器染付碗である。体部外面の文様は草花文で、18世紀前半～中頃の時期に該当する肥前磁器染付碗である。(第20図-132・図版48-132)

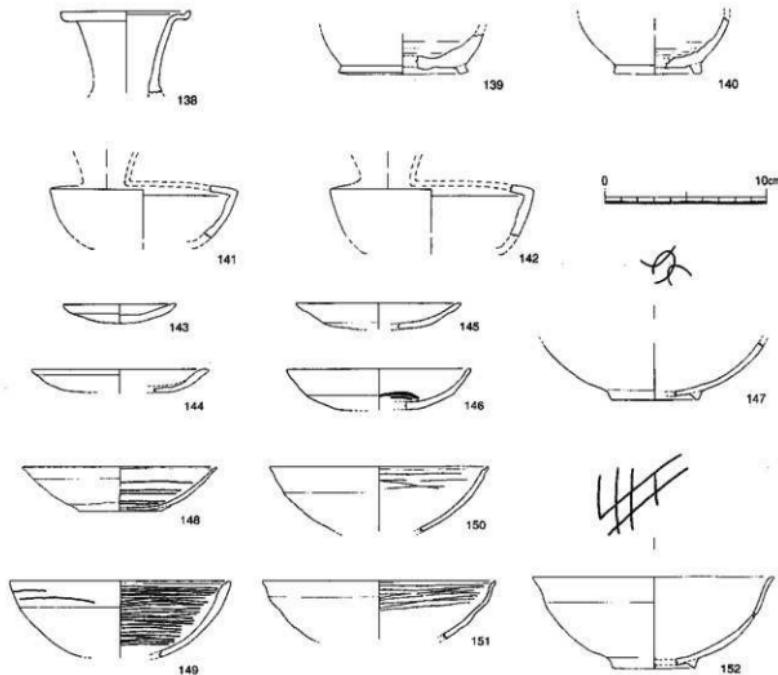
133は磁器染付碗である。体部外面の文様は草花文で、底部内面には蛇の目釉剥ぎがみられ、高台疊付部とともに砂が付着している。18世紀中頃～末の時期に該当する肥前磁器染付碗である。(第20図-133・図版49-133)

134は磁器染付小皿である。体部内面の文様は草木文で、外面は唐草文が描かれている。見込みにはコンニャク印判による五弁花文が施され、高台内には「大明年製」の底裏銘がみられる。高台疊付部には砂が付着している。18世紀中頃～末の時期に該当する肥前磁器染付小皿である。(第20図-134・図版49-134)

◎12地区出土遺物 (第20図・図版49)

135は瓦器小皿である。平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、口縁端部が若干外反する。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている。見込み部にはジグザグ状暗文が施されている。13世紀代の時期に該当するものであると思われる。溝1から出土したものである。(第20図-135・図版49-135)。

136は輸入磁器青磁碗である。文様は外面に雷文、内面に劃花文がみられる。14世紀後半～15世紀後半の時期に該当する雷文帶青磁碗であると思われる。(第20図-136・図版49-136)



第21図 13地区 出土遺物

137は輸入磁器白磁碗である。白磁碗の小片である。口縁は玉縁状を呈する。12世紀代の時期に該当する白磁碗であると思われる。(第20図-137・図版49-137)

◎13地区出土遺物（第21図・図版49・50）

138は須恵器壺である。頸部は外上方へ伸び、口縁部で水平な面を作り口縁端部をつまみ上げている。8世紀中頃～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Iであると思われる。

(第21図-138・図版49-138)

139は須恵器壺である。体部の最大径が中央より若干上部に位置する形態を呈すると思われる。8世紀中頃～9世紀代の時期に該当する須恵器壺IIであると思われる。(第21図-139・図版49-139)

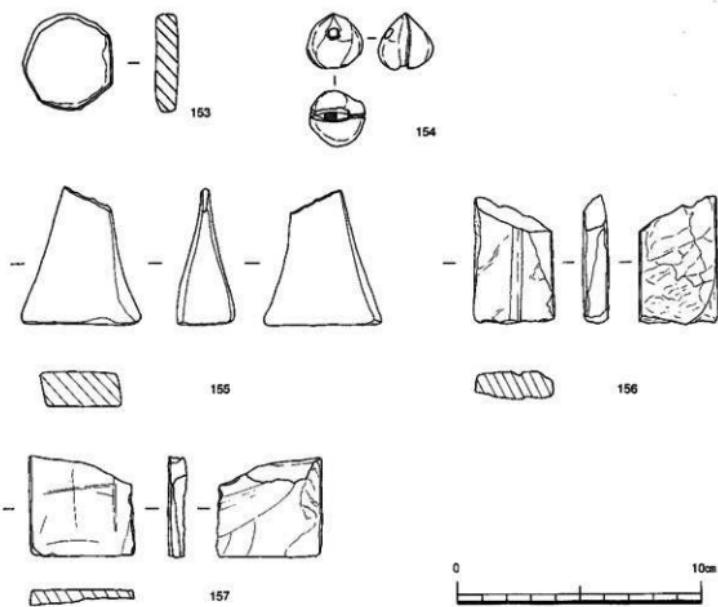
140は須恵器壺である。体部の最大径が中央付近に位置する形態を呈すると思われる。8世紀末～9世紀代の時期に該当する須恵器壺Mであると思われる。(第21図-140・図版49-140)

141・142は須恵器平瓶である。141・142の2点とも体部の小片である。(第21図-141・図版49・50-141・142)

143・145は土師器小皿である。143は平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第21図-143・図版50-143)。145は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。口縁端部はヨコナデ調整により若干外反する。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第21図-145・図版50-145)。

144は瓦器皿である。平底気味の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面ともヨコナデ調整が施されている(第21図-144・図版50-144)。

146～152は瓦器碗である。146は平底の底部から口縁部が外上方へ伸び、丸味をもつ口縁端部に至る。高台はない。体部は内外面ともナデ調整、口縁部は内外面とも幅広くヨコナデ調整が施されている。内面のヘラミガキはみられず、見込み部に渦巻き状の暗文が施されている。14世紀前半の時期に該当する和泉型瓦器碗であると思われる(第21図-146・図版50-146)。147は体部内面のヘラミガキは不明である。見込み部には連結輪状文の暗文が施されている。高台は断面三角形を呈する。12世紀後半の時期に該当するものと思われる(第21図-147・図版50-147)。148は高台部から体部が外上方へ伸び口縁端部に至る。高台は断面三角形のかなり低いものである。体部内面のヘラミガキは、見込み部から一連の粗いものである。13世紀末の時期に該当する大和型瓦器碗であると思われる(第21図-148・図版50-148)。149は口縁部がヨコナデ調整により若干外反している。口縁部外面にはわずかに、内面には密にヘラミガキがみられる。12世紀末～13世紀初頭の時期に該当する大和型瓦器碗であると思われる(第21図-149・図版50-149)。150は口縁部がヨコナデ調整により若干外反している。口縁部内面には粗いヘラミガキがみられる。13世紀前半の時期に該当する大和型瓦器碗であると思われる(第21図-150・図版50-150)。151は口縁部がヨコナデ調整により若干外反している。口縁部内面には粗いヘラミガキがみられる。13世紀前半の時期に該当する大和型瓦器碗であると思われる(第21図-151・図版50-151)。



第22図 土製品・石製品

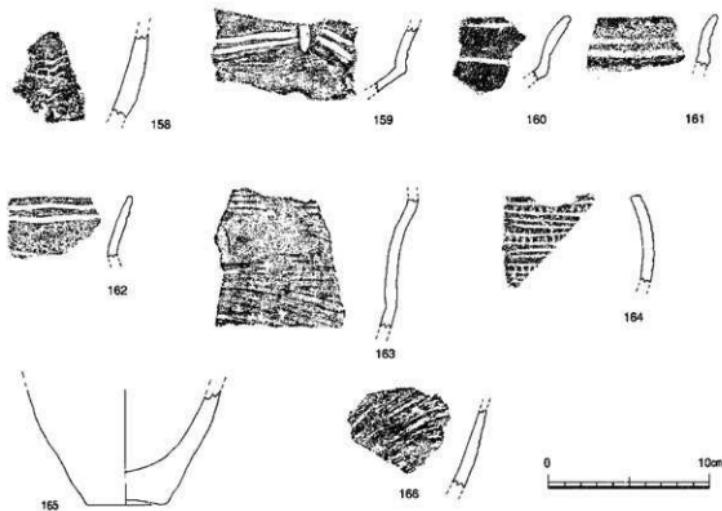
50-151)。152は高台部から内湾しながら体部が外上方へ伸び、口縁端部に至る。高台は断面三角形である。体部外面には成形時のユビオサエの痕跡が顕著にみられる。体部内面のヘラミガキは不明である。見込み部には斜格子状の暗文が体部の中央付近まで施されている。12世紀後半の時期に該当する和泉型瓦器碗であると思われる(第21図-152・図版50-152)。

◎土製品・石製品(第22図・図版51)

153は瓦質土器を再利用した遊戯具である。おはじきと思われる。7地区から出土したものである。(第22図-153・図版51-153)

154は土鉢である。8地区から出土したものである。(第22図-154・図版51-154)

155~157は砥石である。155は5面とも使用した痕跡がみられる。1地区から出土した



第23図 縄文土器・弥生土器

ものである（第22図-155・図版51-155）。156は表面に片彫りの溝がみられる。7地区から出土したものである（第22図-156・図版51-156）。157は表面に使用痕がみられる。8地区から出土したものである（第22図-157・図版51-157）。

◎縄文土器・弥生土器（第23図・図版52・53）

158～165は縄文土器である。158は押型文土器の小片である。横位置に山形文が施文されている。色調は褐色（10YR 4/6）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。表面の磨耗が著しい。縄文時代早期のものと思われる。2地区から出土したものである（第23図-158・図版52-158）。159は浅鉢の口縁部付近の小片である。横方向に2条の凹線文の間に縦方向の1条の凹線文を施文している。色調は暗褐色（10YR 3/3）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。縄文時代晩期に属するものと思われる。5地区から出土したものである（第23図-159・図版52-159）。160は浅鉢の口縁部の小片である。口縁端部と若干下に横方向の凹線文を施文している。色調は黒色（10YR 2/1）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。縄文時代晩期に属するものと思われる。5地区

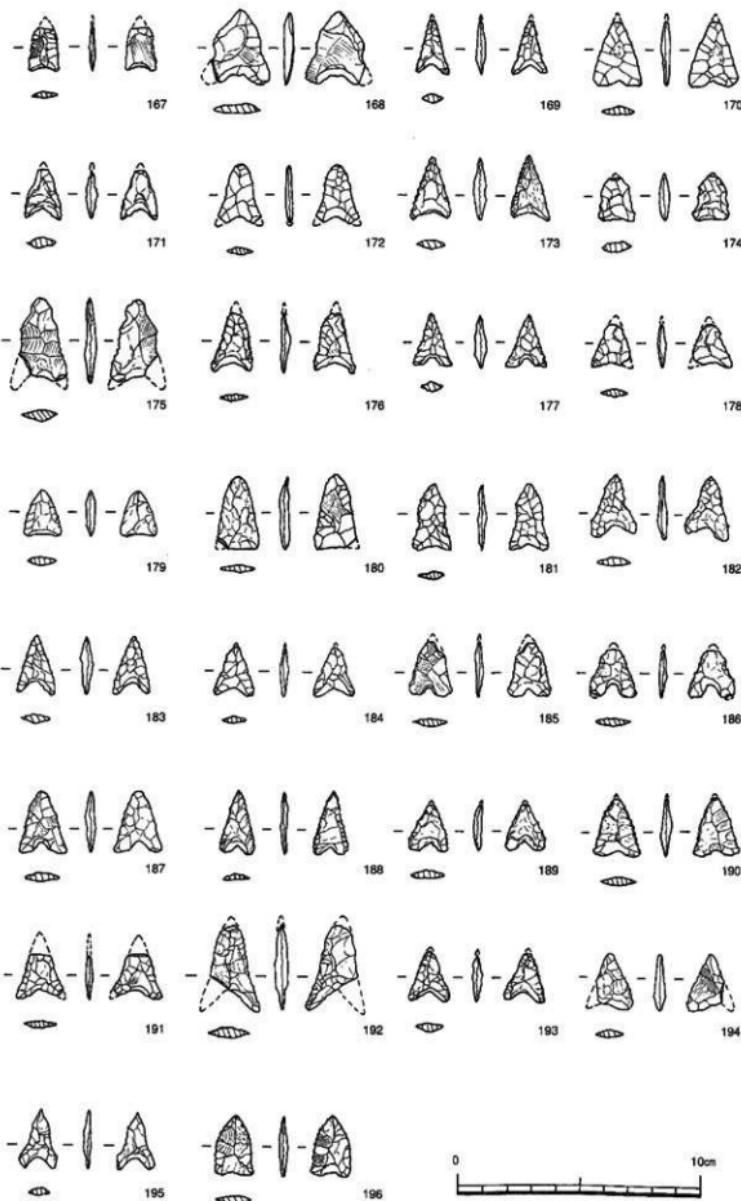
から出土したものである（第23図-160・図版52-160）。161は浅鉢の口縁部の小片である。口縁部に横方向の2条の凹線文を施している。色調は褐色（10YR 4/4）を呈する。胎土は粗く、砂粒・金雲母などが多く含まれている。表面の磨耗が著しい。縄文時代晩期に属するものと思われる。9地区から出土したものである（第23図-161・図版52-161）。162は深鉢の口縁部の小片である。口縁部に横方向の2条の凹線文を施している。色調はにぶい黄橙色（10YR 6/4）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。縄文時代晩期に属するものと思われる。7地区から出土したものである（第23図-162・図版52-162）。163は深鉢の胸部である。器表面には貝殻条痕を施している。色調は暗褐色（10YR 3/3）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。縄文時代晩期に属するものと思われる。7地区から出土したものである（第23図-163・図版52-163）。164は浅鉢の胸部である。口縁部直下から横方向の12条の凹線文があり、口縁部側から1・4・5・6・9・10・11本目の凸部上には縱方向に細かい刻み目が施されている。色調は黒褐色（10YR 3/1）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。縄文時代晩期に属するものと思われる。5地区から出土したものである（第23図-164・図版53-164）。165は深鉢の底部である。色調はにぶい黄橙色（10YR 5/3）を呈する。胎土は粗く、金雲母などが含まれている。7地区から出土したものである（第23図-165・図版53-165）。

166は弥生土器の壺である。底部付近の小片である。器表面には叩き調整痕が顕著にみられ、煤が付着している。色調は灰白色（10YR 8/2）を呈する。胎土は砂粒を多く含んでいる。弥生時代後期に属するものと思われる。8地区から出土したものである。（第23図-166・図版53-166）

◎石器（第24～26図・図版53～56）

今回出土した打製石鎌に関しては、菅 葉太郎 「石鎌資料の型式および製作技法の編年的検討」（財）大阪市文化財協会 『長原・瓜破遺跡発掘調査報告 VII』1995の分類に準拠した。以下、167～207の打製石鎌を分類した結果である。なお、石材はすべてサヌカイト製である。（第24・25図、図版53・54）

A～D類は凹基無茎式石鎌、E・F類は平基無茎式石鎌、G類は凸基無茎式石鎌、I類は有茎式石鎌である。



第24図 石器 (1)

- A - 1 類 197
A - 2 類 198
B - 1 類 169・175・176・178・183・184・193・199・200・201
B - 2 類 170・177・185・186・187・188・189・190・194
D - 1 類 192・195
D - 2 類 168・171・172・182・191
E - 1 類 179・180・202・203
E - 2 類 167・173・196
F 類 174・181
G - 2 類 205・206・207
I 類 204

上記の文献によるとそれぞれの時期に関しては以下のとおりである。

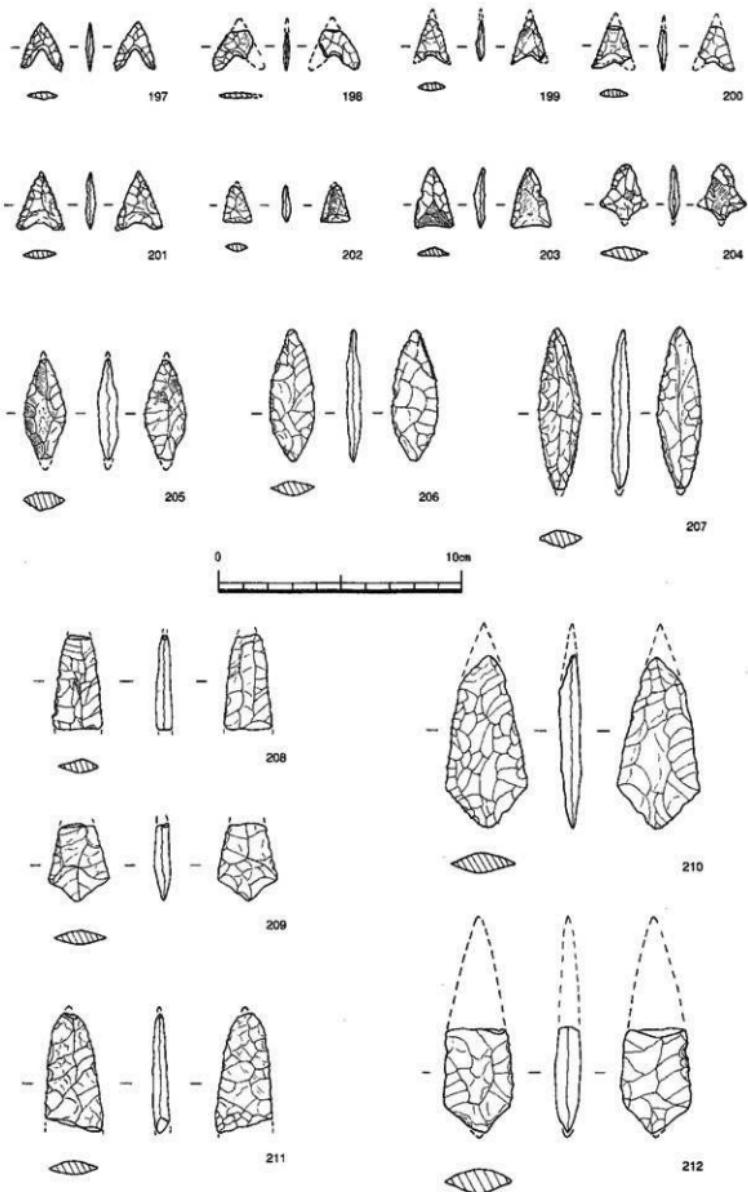
A 類は縄文時代早期～中期にかけてみられる型式、B 類は縄文時代全般にわたってみられる型式、D - 1 類は縄文時代早期～前期・D - 2 類は縄文時代中期後半にみられる型式、E 類は縄文時代晩期～弥生時代中期にかけてみられる型式、F 類は縄文時代晩期前半の滋賀里式期に特有の型式、G - 2 類・I 類は弥生時代中期・畿内第Ⅲ様式期以降にみられる型式である。

208～212は有茎尖頭器である。208は体部の上半部分で先端部は欠損している。5地区から出土したものである。209は茎部で上半部は欠損している。7地区から出土したものである。210は先端部を欠損しているが、推定すると全長8.5cmになると思われる。7地区から出土したものである。211は体部の上半部分で先端部は欠損している。10地区から出土したものである。212は体部の下半部分である。10地区から出土したものである。

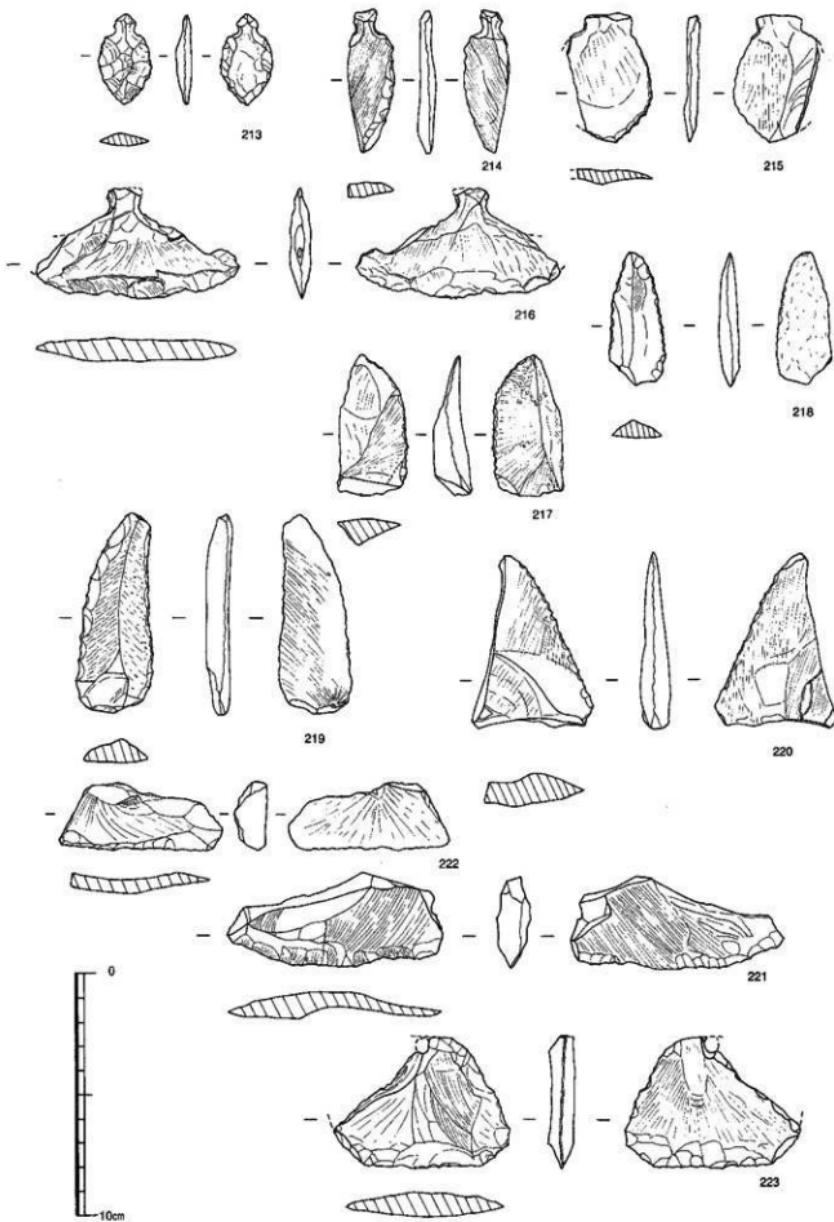
以上、石材はすべてサヌカイト製である。(第25図・図版55)

213～216は打製石匙である。213～215は刃部が外湾する形態で、214・215は半分が欠損しているものの、3点とも両刃に成形したものと思われる。216は刃部が直線的な形態である。石材は213がチャート製、他はサヌカイト製である。(第26図・図版55)

217～223は打製削器である。217・218・219・221は刃部が若干外湾する形態で、220・222・223は直線的な刃部である。223の上部には孔が開けられている。石材はすべてサヌカイト製である。(第26図・図版56)



第25図 石器 (2)



第26図 石器 (3)

第4章 まとめ

今回の発掘調査では、平安時代から近世にかけての遺構を各地区において数多く検出した。また、遺物包含層からは縄文時代早期・晚期の土器・石器、弥生時代の土器・石器をはじめ数多くの土器・陶磁器・石器類が出土した。しかし本文中でも述べたとおり、多くの遺構において出土した遺物が、詳細な時期を判断するには困難な小片であったり、また遺物が出土しない遺構が多くみられた。また層位毎に遺構面の検出に努めたのであるが、確認したそれぞれの時代で生活面の整地を繰り返したためか、同じ遺構面に様々な時期の遺構が混在するという状況がみられた。

以下、簡単に整理しまとめとする。

奈良時代以前

今回の調査では遺構面の調査を完了した後、地山面を検出するために遺物包含層を掘り下げていくなかで多くの縄文土器や石器および弥生土器や石器が出土した。これらは、天野川の流路が変化し、また埋まっている段階で堆積した土層から出土している。今回はそれらの時代の遺構は検出できなかったが、遺物に磨耗痕があまりみられなかったことから、周辺地域においてこの時代の集落が存在していた可能性は大きいと考えられる。縄文時代の遺跡に関しては、今回の調査地区の約1.5km北側に位置する田原遺跡において昭和54年度の調査で縄文時代早期の遺構や遺物が検出されている。またこの調査で弥生時代前期の壺も出土している。

平安時代

この時期の遺構については、5・6地区において検出している。旧河川1と呼んでいる遺構は、旧天野川の一部であったものと思われる。この河川の肩部付近から土製馬形とともにミニチュアの土器3点・甕1点と須恵器坏が出土している。これらは雨ごい若しくは疫病退散のために行なわれた水辺の祭祀に使用されたものと思われる。この旧河川1は、7地区の第2遺構面で検出した旧河川1ともつながっている。また同じく検出した旧河川2・3についても旧天野川の流路と思われる。これらは平安時代頃まで河川としての機能をはたしていたが中世の段階で、旧天野川が流路を変えたことにより埋没したものと思われる。今回の調査においては、平安時代の時期に該当する遺構は旧河川だけであった。旧河川より西側は丘陵の斜面となっているため、この旧河川の東側（生駒市側）に広がる平地に集落が営まれていたと思われる。

中世

この時期の遺構については、5・6・9・10・12地区において検出している。ほとんどが耕作に伴う溝であったが、5・6地区においては、居住空間と耕作地と思われる遺構を検出した。これらは旧天野川の西側、つまり田原城内の地域に位置する。「四條畷市史第1巻」で述べられているように田原城の堀の内側（土居の内）に位置することから家臣団の居住地や城の施設であった可能性が考えられる。

近世

今回の調査で最も多く出土しているのがこの時期に該当する遺物である。特に1～4地区において検出した溝から、この地が18世紀代に耕作地であったことが判明した。また今回の調査地区沿いに流れている天野川は、調査結果から近世までの間に数回流路を変更しており、当時はもっと蛇行していたもの思われる。それが現在のような流路になったのは、18世紀後半頃であり、その後耕作地として利用してきたと思われる。

近世以降

11・12・13地区で確認した天野川沿いの埋め戻しは、本文中でも述べているように天野川の氾濫により崩壊した岸を埋め戻したものであり、近世以降の護岸作業であったことが判明した。

以上、調査成果を簡単に述べてきた。今回の調査は田原城の堀としての機能を担っていた天野川の改修工事に伴うものであった。そのため田原城が機能していた当時の天野川の流路の変遷が判明したことや田原城の丘陵下（堀に沿った地域）にも城に関連する遺構が存在することが判明した。このことは、今後田原城を考えていく上で重要な成果の一つであると思われる。

今回の調査地区のほとんどが田原城に関連する地域にあたると考えられることから、第1章「遺跡の位置と歴史的環境」の項でも簡単にふれたが、田原城に関して、「四條畷市史第1巻」に詳しく紹介されているので参考にしてまとめておきたい。

上田原字八ノ坪に「城下・門口・井戸谷・矢の石・土居の内」などの城郭に関すると思われる地名が残っている。この八ノ坪の地域は、生駒山系から東側へ派生した丘陵の突端部に位置しており、丘陵下の周辺の標高は約145mで丘陵上の標高は約175mを測ることから、田原城は高さ約30m程の丘陵上に築かれていることとなる。田原城に関しては文献史料がほとんど残っておらず、かろうじて田原城主田原対馬守に関する文献が2点残っている。1点目は、文祿年間の岡山領主高橋家の系図に「妻は田原城主何某の娘」とあり同一

地域の豪族同志での縁組を示すものであり、2点目は、天保年間の上田原村差出明細帳に「古城跡、字城山、壱ヶ所、但し凡式百年以前永祿之比、当地守護田原対馬守様御城跡と申伝候」とあり、永祿年間（1560年頃）に田原対馬守が田原城において当地を支配していたことを示すものである。この田原城主に関しては、田原城から北へ約450mの寺口遺跡において城主一族の墓とその菩提寺である千光寺跡を平成四年度の発掘調査で確認している。また千光寺の後身である月泉寺には延元丙子（1336年）のものを最古とする位牌が現存している。ただしこれらは、明治20年代に寺伝などにより作り直したものである。

田原城の構造については、丘陵上に本丸・二の丸・東廓・西廓・水廊・西砦などに比定できる場所が現存している。この丘陵の北・南・東側の裾部には、幅3m程の北谷川と天野川が巡っており天然の堀と成っている。また西側は生駒山系からつながっているが、その一部を削って堀を形成していることが、昭和59年度第7次発掘調査と昭和60年度第8次発掘調査によって確認されている。このようにして周囲を堀で巡らし城を防御していた。

西砦の西側はいったん谷間となっており、さらにその西側には別の丘陵が存在する。その丘陵の突端に「殿様屋敷」と口伝されている場所があり、昭和57年度の第5次発掘調査において屋敷跡と石組みの井戸を検出されている。この井戸の規模は、直径約80cm・深さ7.2mを測るものであった。

以上のようにこの田原城は、東西約250m・南北約300mの範囲を自然の河川や谷・堀を成形することによって防御網とし、本丸を中心とした城と城主の居住域を作り出していた。

次にこの田原城の城としての機能については以下のとおりである。

この城の西側、生駒山系の一部である飯盛山上には飯盛山城が存在していた。この飯盛山城の歴史は、享祿4年（1531年）の畠山氏の家臣木沢長政による飯盛城合戦から始まる。永祿3年（1560年）11月13日に三好長慶が城主となり、畿内や周辺地域を支配するようになって全盛期を迎える。この城の支城として、奈良県生駒市に存在する北田原城とともに大和との接点を抑えていたのが田原城である。それは前述したとおり、田原城の北側眼下の古堤街道と北側約1.6kmの地点に通じている清滝街道のふたつの大和と畿内を結ぶ重要な交通路を抑える要衝の地に存在していた。また飯盛山城の西側は急峻な地形を成しているが、東側は舌状に丘陵が伸びやや緩やかな地形を成しており、城にとっての東側からの攻撃に対する弱点を抑える機能をはたしていたと考えられる。その後、永祿7年（1564年）に三好長慶が亡くなり、永祿11年（1568年）に織田信長が入京したことにより飯盛山城は落城し、田原城も消滅することとなる。

遺物観察表 (小石はφ1~5mm以内、砂粒はそれ以下とする)

遺構名	種類	挿番 図号 版号	器形	法量(cm) 口径 器底 〔推定〕(残存)	色調	胎素 砂	土質 粒	残存度	備考
土師器	12-1		皿	[9.9] 2.3 -	浅黄橙色 (10YR 8/3)	密		1/4	灯明皿 外面に煤付着
	36-1								
	12-2		皿	10.6 3.3 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		完形	
	36-2								
陶器	12-3		碗	- (4.8)	オリーブ褐色 (2.5Y 4/3)			小片	肥前
	36-3			-					
	12-4		壺	- (4)	(内・外・断)明褐色 (7.5YR 5/6)	砂粒を多量に含む		1/4	
	36-4		鉢	[9.6]					
瓦質	12-5		壺	[25.4] (5.8)	(内・外)灰色 (N 5/) (断)灰白色 (GY 7/1)	砂粒を多量に含む		小片	
	36-5		鉢	-					
陶器	12-6		壺	- (3.4)	(脚外)浅黄橙色 (7.5YR 8/4) (底外・内・断)赤橙色 (10R 6/6)	小石を多量に含む		小片	信楽
	36-6		鉢	[12.2]					
磁器	12-7		皿	[13.2] 2.5 [4.8]				1/4	肥前染付
	36-7								
	12-8		碗	12 5.9 5				4/5	肥前染付
	36-8								
土師器	13-9		皿	[10.2] 2.3 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/4	
	36-9								
	13-10		皿	[11.6] 2.7 -	(外)浅黄橙色 (7.5YR 8/4) (内)浅黄橙色 (10YR 8/4)	密 赤色粒子を多く含む		1/2	
	36-10								
	13-11		皿	[11] (1.5) -	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	密		1/4	灯明皿 外面に煤付着
	36-11								

遺構名	種類	番号 図版番号	器形	法量(cm) 口徑×器底 〔推定〕(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
溝 8	包含層 土篩器	13-12	皿	[10.2] (1.6) -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/6	
		36-12							
		13-13	皿	[9.8] (2) -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/4	
		37-13							
		13-14	皿	[12] (1.6) -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/4	
		37-14							
		13-15	釜	[19] (8.5) -	橙色 (7.5YR 7/6)	砂粒を含むも密		1/4	外面に煤付着
		37-15							
		13-16	碗	[10.4] 6.3 [5.2]	(内・外) オリーブ灰色釉 (10YR 6/2)			1/2	瀬戸・美濃
		37-16							
包 含 層	陶器	13-17	碗	[10.2] (5.4) -	(削) 暗赤褐色 (5YR 3/4) (内)縁端部 深暗褐色 (7.5YR 2/3)			1/4	瀬戸・美濃
		37-17							
		13-18	碗	[12.4] (5.7) -	オリーブ灰色 (2.5GY 6/1)			小片	肥前染付
		37-18							
		13-19	水注	- (7.5) [4.6]	黑色 (7.5YR 1.7/1)			1/3	
		37-19							
		13-20	鉢	[18.8] 7 [9.8]	(外) 灰褐色(5YR 5/2) (内) 赤褐色(5YR 4/6) (削) 灰色(N 5/)	小石を多く含む		1/6	
		37-20							
		13-21	鉢	[26.2] (7.2) -	灰白色 (7.5Y 7/1)	φ 8 mmの小石を含む 砂粒を多く含む		小片	
		37-21							
質	瓦質	13-22	摺鉢	[18] (6) -	(外) 灰色(N 6/) (内) 灰色(N 5/) (削) 灰色(N 6/)	砂粒を多く含む		小片	
		38-22	鉢						

遺構名	種類	番号 国版番号	器形	法量(cm) 口器底径高 〔推定〕(残存)	色調	胎素砂	土質粒	残存度	備考
包 含 層	土 師 質	13-23	摺鉢	- (5.1)	(内・断) 浅黄橙色 (10YR 8/3) にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	砂粒を多く含む			
		38-23	鉢	8.4			底部のみ完形		
	陶 器	13-24	摺鉢	[35.2] (9.1)	(外) にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 褐灰色(10YR 4/1) (内) 灰色(N 6/)	小石を多く含む		小片	丹波
		38-24	鉢	-					
	土 師 器	14-25	皿	[10.0] 1.7	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/2	
		38-25		-					
	土 師 器	14-26	皿	[11.6] 2.4	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/2	
		38-26		-					
	土 師 器	14-27	皿	[11.6] 2.1	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/4	
		38-27		-					
	土 師 器	14-28	皿	[13.0] 2.2	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/2	
		38-28		-					
溝 23	磁 器	14-29	皿	[11.6] (2.4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	密		2/3	灯明皿 外面に煤付着
		38-29		-					
	包 含 層	14-30	皿	[11.4] 2.7	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	密		1/2	灯明皿 外面に煤付着
		38-30		-					
		14-31	盃	6.8 3.4 2.6				完形	肥前染付
包 含 層	磁 器	38-31							
		14-32	碗	9.8 5.5 3.6				2/3	肥前染付
		38-32							
包 含 層	磁 器	14-33	碗	[9.4] (5.6)				小片	肥前染付
		38-33		-					

遺構名	種類	押番 図版 番号	器形	法量(cm) 口徑 器底 [推定] (残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 土 師 層 器	陶器	14-34 38-34	碗	- (3.6) [4.8]	(外) 青緑釉 (内) 透明釉 (高台) 無釉			底部のみ	肥前 嬉野町内野山窯
	白磁	14-35 39-35	碗	- (2.5) 5.4	灰白色釉 (5Y 8/2)			底部のみ	
	土師質	14-36 39-36	俎 烙	[29] (4.2) -	橙色 (5YR 6/6)	砂粒を多く含むも密 赤色粒子を多く含む	小片		
		15-37 39-37	皿	10.6 1.9 -	橙色 (7.5YR 7/6)	砂粒を含むも密 金雲母少量含む	完形		
		15-38 39-38	皿	11 2 -	橙色 (7.5YR 7/6)	密 金雲母少量含む	完形		
		15-39 39-39	皿	[11] 1.8 -	浅黄橙色 (10YR 8/3) (外) 鐵不銹により、黒	密	1/2		
		15-40 39-40	皿	10.2 2.1 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密	完形		
		15-41 39-41	皿	[10.4] 2.1 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密	1/4		
		15-42 39-42	皿	[12] 2.3 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密	1/4		
		15-43 39-43	皿	[12.6] 2.1 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密	1/4		
		15-44 39-44	皿	[12.0] (2.4) -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密	2/3		

遺構名	種類	番号 国番号 版番	器形	法量(cm) 〔口器底 径高径 推定〕(残存)	色調	胎素 砂	土質 粒	残存度	備考
溝 23	土 師 器	15-45	皿	[9.6] (2.2) -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		1/3	
		39-45	皿	-					
		15-46	皿	10.1 2.3 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	砂粒を多く含むも密		完形	
		39-46	皿	-					
		15-47	皿	[10.4] 2.1 -	浅黄橙色 (10YR 8/4)	密		2/3	
		39-47	皿	-					
		15-48	皿	[10.0] 2.5 -	黄橙色 (10YR 8/6)	密 金雲母少量含む		1/2	
		39-48	皿	-					
		15-49	皿	[13.2] (2.2) -	浅黄橙 (10YR 8/3)	密		1/2	灯明皿 外面に煤付着
		39-49	皿	-					
溝 23	陶	15-50	碗	- (3.1)	(外) 青緑釉 (内) 透明釉 (高台) 無釉			底部のみ	肥前 嬉野町内野山窯
		40-50	碗	4.6					
包含層	器	15-51	皿	- (3.1)	(外) 透明釉 (内) 青緑釉 (高台) 無釉			底部のみ	肥前 嬉野町内野山窯
		40-51	皿	5.8					
溝 23	磁	15-52	仏 飯 器	[7.2] 5.0 3.8				坏部 2/3欠損	肥前染付
		40-52	器						
包含層	器	15-53	碗	[9.8] 6.9 4				1/3	肥前染付
		40-53	器						
包含層	陶	15-54	碗	[9.6] (5.9) -	明褐色 (7.5YR 5/6)			1/6	細かい貫入あり
		40-54	陶						
	器	15-55	碗	[9.4] (5.0) -	淡黄色 (2.5Y 8/3)			1/4	細かい貫入あり
		40-55	器						

造構名	種類	捲番 國番 版号	器形	法量(cm) 口 器 底 〔推定〕(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 須 惠 層	陶 器	15-56	皿	[12.6] (3.1) [3.8]	(胎土) 黄橙色 (7.5YR 8/8)			1/3	肥前
		40-56		-					
		15-57	碗	- (3.8) [4.6]	(体外一部及び 内・施釉) 灰色 (10Y 6/1)			底部のみ	肥前
		40-57		-					
	青 磁	15-58	碗	[18.2] (7.0)	(施釉) 暗赤灰色 (10R 3/1) (無釉) にぶい褐色 (7.5YR)	砂粒を少量含む		小片	
		40-58		-					
	陶 器	15-59	盤	[22.4] (4.5)	(釉色) 明緑灰色 (10GY 7/1)			小片	
		41-59		-					
	須 惠 器	15-60	搗 鉢	[36.0] (9.5)	(内・外) 暗赤灰色 (5R 3/1) (断) 浅黄橙色 (10YR 8/4)	小石を多量に含む		小片	信楽
		41-60		-					
	須 惠 器	16-61	壺	- (2.3) [5.2]	灰色 (N 6/)	小石を含むも密		底部のみ	
		41-61		-				2/3	
		16-62	壺	- (7.0) -	灰色 (N 6/)	密		1/6	
	土 師 器	16-63	坏	[16.2] (4.6)	灰色 (N 5/)	砂粒を多く含む		小片	
		41-63		-					
	青 磁	16-64	皿	[6.8] 1.1 -	浅黄橙色 (10YR 8/3)	密		1/4	
		41-64		-					
	瓦 器	16-65	碗	- (2.9) -	(釉色) オリーブ灰色 (5GY 6/1)			小片	
		41-65		-					
	瓦 器	16-66	碗	- (1.5) [4.8]		密		1/2	
		41-66		-					

遺構名	種類	捕番図版号	器形	法量(cm) 口径高径 (推定)(残存)	色調	胎素砂	土質粒	残存度	備考
旧河川1	須恵器	16-67	壺	[17.2] 5.5 [12.8]	灰色 (N5/)	密		1/4	土馬伴出
		42-67							
	土師器	16-68	ミニチュア碗	[8.2] — —	浅黄橙色 (10YR 8/3)	砂粒を少量含む		小片	土馬伴出
		42-68							
	土師器	16-69	ミニチュア碗	[6.6] (3.7) —	浅黄橙色 (10YR 8/3)	砂粒を少量含む		小片	土馬伴出
		42-69							
	土製品	16-70	ミニチュア碗	[8.8] (2.8) —	浅黄橙色 (10YR 8/3)	砂粒を少量含む		小片	土馬伴出
		42-70							
	土製品	16-71	ミニチュア碗	[10.2] (3.2) —	(内) 褐色 (7.5YR 7/6) (外) 赤橙色 (10R 6/6)	砂粒・金雲母を少量含む		小片	土馬伴出
		42-71							
包合層	土師器	16-72	土製馬形	— (6.8) —					
		42-72							
	土師器	17-73	皿	[8.2] (1.4) —	灰白色 (10YR 8/2)	密		1/4	
		43-73							
	土師器	17-74	ミニチュア碗	[9.2] (4.3) —	浅黄橙色 (10YR 8/3)	小石・砂粒を少量含む		小片	
		43-74							
	須恵器	17-75	ミニチュア碗	— (3.7) —	浅黄橙色 (10YR 8/3)	砂粒少量含む		小片	
		43-75							
	須恵器	17-76	壺	[12.4] (8.4) —	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	砂粒を含むも密		1/4	
		43-76							
	須恵器	17-77	壺	— (4.7) —	灰色 (N 6/)	砂粒を多く含む		1/4	
		43-77							

遺構名	種類	捕番図版番号	器形	法量(cm) 口徑 器高 底径 〔推定〕(残存)	色調	胎素砂	上質粒	残存度	備考
旧河川1	須恵器	17-78 43-78	壺	- (3.7) 4.0	灰色 (N6/)	砂粒を多く含む		底部のみ 完形	内面中央に 降灰
		17-79 43-79	壺	- (5.0) [6.0]	灰色 (N6/)	小石を含むも密		底部のみ 1/3	
	須恵器	17-80 43-80	壺	- (3.7) 6.0	灰色 (N6/)	砂粒を多く含むも密		底部のみ 完形	
		17-81 43-81	坏	15.2 5.5 10.2	灰色 (N4/)	密		完形	
旧河川5		17-82 44-82	壺	- (2.4) [6.0]	灰色 (N4/)	砂粒を多く含むも密		底部のみ 2/3	
包合層	陶器	17-83 44-83	皿	- (1.0) [4.0]	(釉色) 浅黄色 (5Y 7/3)			小片	瀬戸
		17-84 44-84	皿	- (1.2) [6.0]	(釉色) 浅黄色 (5Y 7/4)			小片	瀬戸
	青磁	17-85 44-85	碗	- (2.9) -	(釉色) オリーブ灰色 (25GY 5/1)			小片	
		17-86 44-86	碗	- (5.7) -	(釉色) 明緑灰色 (10GY 7/1)			小片	
	須恵器	18-87 44-87	坏	- (2.7) [8.2]	青灰色 (10BG 6/1)	密		底部3/4	
		18-88 44-88	坏	- (2.3) [12.2]	灰色 (N5/)	砂粒を多く含む		小片	

遺構名	種類	捕番 図号 版番	器形	法量(cm) 口 径 高 度 [推定](残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 層	須 恵 器	18-89	蓋	- (2.3)	灰白色 (N 7/)	砂粒・黒色粒子を 多く含む		小片	
		44-89	-	-					
		18-90	平	5.8 (4.4)	灰色 (N 5/)	砂粒・小石を含む		口縁部のみ	
		44-90	瓶	-					
	土 師 器	18-91	壺	- (3.6)	灰色 (N 5/)	砂粒を多く含む		底部のみ	
		44-91	- [5.6]					1/4	
	瓦 質	18-92	皿	[6.0] (0.8)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	密		小片	
		45-92	-	-					
	陶 器	18-93	皿	7.0 1.4 -	浅黄橙色 (10YR 8/3)	密		完形	
		45-93	-						
	青 磁	18-94	羽	[5.2] (1.4)	暗灰色 (N 3/)	密		小片	
		45-94	釜	-					
	肩	18-95	/	- (0.9)	(釉色) オリーブ色 (5Y 6/6)			小片	
		45-95	/	[6.0]					
	青 磁	18-96	搗	- (7.6)	(施釉) 暗赤灰色 (10R 3/1) (無釉・断 淡黄橙色 (7.5YR 8/4)	小石を多く含む		1/8	
		45-96	鉢	[15.8]					
	青 磁	18-97	碗	- (4.1)	(釉色) オリーブ灰色 (10Y 5/2)			小片	
		45-97	-	-					
	青 磁	18-98	碗	- (3.4)	(釉色) オリーブ灰色 (5GY 6/1)			小片	
		45-98	-	-					
	青 磁	18-99	碗	[14.2] (4.9)	(釉色) オリーブ灰色 (5GY 6/1)			1/4	
		45-99	-	-					

遺構名	種類	捕番 圖号 番号	器形	法量(cm) 口徑 器底 推定(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包含層	白磁	18-100 45-100	碗	[20.4] (3.5) -	(釉色) 灰白色 (5Y 7/1)			小片	
旧河川6	磁器	18-101 45-101	碗	[11.8] 5.7 [4.6]				1/2	肥前染付
		18-102 46-102	碗	[9.2] 5.2 [2.8]				小片	肥前染付
	包含層	18-103 46-103	碗	[11.6] (3.8) -				小片	肥前染付
		18-104 46-104	碗	- (1.2) [5.6]				小片	景德鎮系 青花
溝21	土師器	18-105 46-105	皿	[8.2] 1.4 -	にぶい橙色 (7.5YR 7/3)	密		1/3	
包含層	瓦器	18-106 46-106	皿	[11.4] (2.0) -		金雲母少量含む		小片	
		18-107 46-107	碗	- (1.2) [5.4]		密		1/2	
	須恵器	18-108 46-108	壺	- (3.0) 5.2	灰色 (N 6/)	砂粒を多く含むも密	底部のみ 完形		内面中心に 降灰
		18-109 46-109	壺	- (2.6) 6.0	灰色 (N 6/)	密	底部のみ 2/3		内面中心に 降灰
		18-110 46-110	壺	- (2.6) 7.2	青灰色 (5PB 6/1)	密	底部のみ 完形		内面中心に 降灰

遺構名	種類	播磨図番 国号版号	器形	法量(cm) 口器底 (推定)(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 層	須 恵 器	18-111 46-111	壺	4.4 (6.4) -	灰白色 (7.5Y 7/1)	密		胴部1/3 欠損	
	土 師 器	19-112 47-112	皿	[7.6] (0.9) -	赤橙色 (10R 6/6)	密		小片	
		19-113 47-113	皿	[10.0] (3.3) -	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	やや粗い 砂粒・赤色粒子 多く含む	1/4		
	瓦 器	19-114 47-114	皿	[13.2] (1.8) -		密		小片	
	土 師 器	19-115 47-115	皿	16.8 2.3 -	にぶい黄橙色 (10YR 6/3)	砂粒を含むも密		ほぼ完形	
	須 恵 器	19-116 47-116	壺	- (5.5) -	灰色 (N 6/)	密		1/4	
		19-117 47-117	壺	- (3.5) [4.0]	灰色 (N 4/)	砂粒を多く含む	底部のみ	1/2	外面に降灰 底部外面に 「×」のヘラ記号
	包 含 層	19-118 47-118	壺	- (3.5) [7.0]	灰色 (N 5/)	砂粒を多く含むも密	底部のみ	1/3	内面中央に 降灰
		19-119 47-119	壺	- (2.7) [10.0]	灰色 (N 6/)	砂粒を多く含むも密	底部のみ	2/3	内面中央に 降灰
	土 師 器	19-120 47-120	ミニチュア 瓶	[7.4] - -	橙色 (7.5YR 7/6)	砂粒を少量含む	小片		
	19-121 47-121	ミニチュア 瓶	[8.0] (3.3) -	(内)暗灰色 (N 3/) (外)浅黄橙色 (10YR 8/3)	砂粒を少量含む	小片			

遺構名	種類	捕番 図版番号	器形	法量(cm) 口徑 器底 高径 〔審定〕(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 層	須 恵 器	19-122	壺	- (8.1) [9.6]	灰 色 (N 6/)	砂粒を多く含むも密	底部のみ		
		48-122		-			2/3		
	土 師 器	19-123	甕	[33.0] (6.5)	灰白色	砂粒を含むも密	小片		
		48-123		-	(10YR 8/2)				
		20-124	皿	[7.6] 1.5	灰黄色	密	1/2		
		48-124		-	(2.5Y 7/2)				
	須 恵 器	20-125	皿	[8.4] 2.0	浅黄橙色	密	1/4		
		48-125		-	(10YR 8/3)				
	青 磁	20-126	皿	[11.6] (2.5)	浅黄色	密	1/4		
		48-126		-	(2.5Y 7/3)				
	陶 器	20-127	坏	[16.6] (2.4)	灰色	密	小片		
		48-127		-	(N 6/)				
	白 磁	20-128	皿	[20.8] (1.7)	灰色	密	小片		
		48-128	C	-	(N 6/)				
	磁 器	20-129	合子	[6.0] 2.0	(釉色) 明オリーブ灰色		1/4		
		48-129	身	[5.0]	(5GY 7/1)				
	白 磁	20-130	碗	[10.0] (5.1)	(釉色) (体) 黒色 (7.5YR 1.7/1) (口縁端) 暗褐色 (7.5YR 3/4)		小片	瀬戸・美濃	
		48-130		-					
	磁 器	20-131	端反碗	[12.6] 5.7 [4.4]			1/3	肥前	
		48-131		-					
	磁 器	20-132	碗	[10.8] (4.3)			1/2	肥前染付	
		48-132		-					

遺構名	種類	捕番図版号	器形	法量(cm) 口径 器底 [推定](残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包含層	磁器	20-133	碗	[10.6] 5.1 [4.4]				1/3	肥前染付
		49-133							
	器	20-134	皿	[12.6] 3.0 [7.4]				2/3	肥前染付
		49-134							
溝1	瓦器	20-135	皿	[8.6] (1.3) -		密		1/4	
		49-135							
包 含 層	青磁	20-136	碗	- (3.3) -	(釉色) オリーブ灰色 (5GY 6/1)			小片	
		49-136							
	白磁	20-137	碗	[14.4] (3.4) -	(釉色) 灰白色 (7.5Y 7/1)			1/8	
		49-137							
	須恵器	21-138	壺	[8.0] (5.0) -	灰 色 (N 5/)	密		小片	
		49-138							
		21-139	壺	- (2.5) [8.0]	灰 色 (N 4/)	小石を含むも密	底部のみ	1/3	
		49-139							
		21-140	壺	- (3.5) [4.8]	灰 色 (N 5/)	密	底部のみ	1/4	
		49-140							
		21-141	平瓶	- (3.2) -	灰 色 (N 6/)	密		小片	
		49-141	瓶						
		21-142	平瓶	- (3.2) -	灰 色 (N 6/)	砂粒を多く含む		小片	
		50-142	瓶						
	土師器	21-143	皿	[7.0] 1.2 -	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	密		1/3	
		50-143							

遺構名	種類	番号 番号 番号	器形	法量(cm) 口徑 器高 底径 (推定)(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 層	瓦 器	21-144	皿	[10.2] (1.6) -		密		小片	
		50-144							
	土 篩 器	21-145	皿	[11.0] (1.4) -	浅黄橙色 (10YR 8/3)	密		小片	
		50-145							
	瓦	21-146	碗	[11.4] (5.0) -		密		1/4	
		50-146							
	器	21-147	碗	- (3.5) [5.4]		密		1/3	
		50-147							
	土 製 品	21-148	碗	[12.0] 2.7 [5.0]		密		1/3	
		50-148							
	器	21-149	碗	[13.6] (4.7) -		密		1/4	
		50-149							
	土 製 品	21-150	碗	[13.6] (4.0) -		密		1/6	
		50-150							
	土 製 品	21-151	碗	[14.4] (3.6) -		密		1/4	
		50-151							
	土 製 品	21-152	碗	[15.0] (5.6) [5.0]		密		1/3	
		50-152							
	土 製 品	22-153	遊戲 具	長:4.0 巾:3.7 厚:0.9					おはじき
		51-153							
		22-154	鈴	高:2.3 巾:2.3				完形	
		51-154							

遺構名	種類	番号 図版番号	器形	法量(cm) 口徑×底径 (推定)(残存)	色調	胎素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 層 器	石 製 品	22-155	砥	長:5.5 巾:4.9 厚:1.5					5面とも使用
		51-155	石						
		22-156	砥	長:5.2 巾:3.3 厚:1.1					表面: 1条の溝 裏面: 刺離
		51-156	石						
		22-157	砥	長:4.2 巾:4.3 厚:0.6					表面: 使用痕 裏面: 刺離
		51-157	石						
	繩 文 土 器	23-158			褐色 (10YR 4/6)	小石・砂粒 金雲母を含む	小片		押型文
		52-158							
		23-159	浅		暗褐色 (10YR 3/3)	小石・砂粒 金雲母を含む	小片		
		52-159	鉢						
		23-160	浅		黒色 (10YR 2/1)	小石・砂粒 金雲母を含む	小片		
		52-160	鉢						
		23-161	浅		褐色 (10YR 4/4)	小石・砂粒 金雲母を多く含む	小片		
		52-161	鉢						
		23-162	深		にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	小石・砂粒 金雲母を含む	小片		
		52-162	鉢						
		23-163	深		暗褐色 (10YR 3/3)	小石・砂粒 金雲母を含む	小片		
		52-163	鉢						
		23-164	浅		黒褐色 (10YR 3/1)	小石・砂粒 金雲母を含む	小片		
		53-164	鉢						
		23-165	深		にぶい黄橙色 (10YR 5/3)	小石・砂粒 金雲母を含む	底部のみ		
		53-165	鉢				1/2		

遺物観察表 (小石はφ1~5mm以内、砂粒はそれ以下とする)

遺構名	種類	挿番 図版番号	器形	法量(cm) 口器底 径高径 推定(残存)	色調	胎素 砂	土質 粒	残存度	備考
旧河川1	Pit 2	24-167	打製石鏃	長:(18) 巾:1.3 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-167							
	石	24-168	打製石鏃	長:(3.0) 巾:(2.5) 厚:0.4				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-168							
	包	24-169	打製石鏃	長:(2.2) 巾:1.4 厚:0.4				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-169							
	器	24-170	打製石鏃	長:(2.7) 巾:2.0 厚:0.4				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-170							
	層	24-171	打製石鏃	長:(2.0) 巾:1.5 厚:0.5				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-171							
	含	24-172	打製石鏃	長:(2.4) 巾:(1.8) 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-172							
	層	24-173	打製石鏃	長:2.6 巾:1.6 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-173							
	層	24-174	打製石鏃	長:(1.8) 巾:1.5 厚:0.4				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-174							
	層	24-175	打製石鏃	長:(3.4) 巾:(1.9) 厚:0.5				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-175							
	層	24-176	打製石鏃	長:(2.4) 巾:1.7 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-176							
	層	24-177	打製石鏃	長:2.1 巾:1.7 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-177							

遺構名	種類	捕番図版号	器形	法量(cm) 口径 高径 推定(或存)	色調	胎 素 砂	上質 粒	残存度	備考
包 石 含 器 層		24-178	打製石鐵	長:(1.8) 巾:(1.6) 厚:0.4				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-178							
		24-179	打製石鐵	長:1.9 巾:1.5 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-179							
		24-180	打製石鐵	長:3.1 巾:(1.7) 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-180							
		24-181	打製石鐵	長:2.7 巾:1.6 厚:0.3				完形	サヌカイト製
		53-181							
		24-182	打製石鐵	長:2.6 巾:1.8 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-182							
		24-183	打製石鐵	長:2.4 巾:1.5 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-183							
		24-184	打製石鐵	長:(2.0) 巾:1.7 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-184							
		24-185	打製石鐵	長:(2.2) 巾:1.7 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-185							
		24-186	打製石鐵	長:(2.0) 巾:1.9 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		53-186							
		24-187	打製石鐵	長:2.5 巾:2.0 厚:0.4				完形	サヌカイト製
		53-187							
		24-188	打製石鐵	長:2.6 巾:1.4 厚:0.3				完形	サヌカイト製
		53-188							

遺構名	種類	捲番 図号 版号	器形	法量(cm) 口 器底 〔推定〕(残存)	色調	胎 素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 含 器 層	石 器	24-189	打製石鏃	長:(1.9) 巾:1.6 厚:0.3				ほぼ完形	サスカイト製
		53-189							
	石 器	24-190	打製石鏃	長:(2.4) 巾:1.9 厚:0.4				ほぼ完形	サスカイト製
		53-190							
	石 器	24-191	打製石鏃	長:(1.9) 巾:2.0 厚:0.3				ほぼ完形	サスカイト製
		53-191							
	石 器	24-192	打製石鏃	長:(3.5) 巾:(2.1) 厚:0.5				ほぼ完形	サスカイト製
		53-192							
	石 器	24-193	打製石鏃	長:(2.0) 巾:1.7 厚:0.4				ほぼ完形	サスカイト製
		53-193							
	石 器	24-194	打製石鏃	長:(2.3) 巾:(1.5) 厚:0.4				ほぼ完形	サスカイト製
		53-194							
	石 器	24-195	打製石鏃	長:2.4 巾:1.5 厚:0.3				完形	サスカイト製
		53-195							
	石 器	24-196	打製石鏃	長:2.5 巾:1.7 厚:0.3				完形	サスカイト製
		53-196							
	石 器	25-197	打製石鏃	長:2.0 巾:1.7 厚:0.3				完形	サスカイト製
		54-197							
	石 器	25-198	打製石鏃	長:(1.6) 巾:(1.7) 厚:0.2				1/2	サスカイト製
		54-198							
	石 器	25-199	打製石鏃	長:(1.8) 巾:(1.4) 厚:0.3				ほぼ完形	サスカイト製
		54-199							

造構名	種類	捲番 図号 版号	器形	法量(cm) 口徑 器底 [推定](残存)	色調	胎素 砂	土質 粒	残存度	備考
包石含器層	石	25-200	打製石鐵	長:(1.8) 巾:(1.6) 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		54-200							
		25-201	打製石鐵	長:(2.4) 巾:(1.9) 厚:0.4				ほぼ完形	サヌカイト製
		54-201							
	器	25-202	打製石鐵	長:(1.5) 巾:1.2 厚:0.3				ほぼ完形	サヌカイト製
		54-202							
		25-203	打製石鐵	長:2.5 巾:1.6 厚:0.3				完形	サヌカイト製
		54-203							
	層	25-204	打製石鐵	長:(2.3) 巾:(1.7) 厚:0.5				ほぼ完形	サヌカイト製
		54-204							
		25-205	打製石鐵	長:(4.1) 巾:1.7 厚:0.7				ほぼ完形	サヌカイト製
		54-205							
		25-206	打製石鐵	長:5.4 巾:1.8 厚:0.5				完形	サヌカイト製
		54-206							
		25-207	打製石鐵	長:6.6 巾:1.8 厚:0.7				完形	サヌカイト製
		54-207							
		25-208	有茎尖頭器	長:(3.9) 巾:2.0 厚:0.6				小片	サヌカイト製
		54-208							
		25-209	有茎尖頭器	長:(3.2) 巾:2.5 厚:0.6				小片	サヌカイト製
		54-209							
		25-210	有茎尖頭器	長:(7.0) 巾:3.4 厚:0.9				ほぼ完形	サヌカイト製
		54-210							

造構名	種類	播番図版号	器形	法量(cm) 口器底 径高径 [推定(残存)]	色調	胎素 砂	土質 粒	残存度	備考
包 石 含 器 層	有茎尖頭器	25-211	長:(4.9) 巾:2.3 厚:0.5					小片	サスカイト製
		54-211							
	有茎尖頭器	25-212	長:(4.4) 巾:2.9 厚:1.0					1/2	サスカイト製
		54-212							
	石匙	26-213	長:3.7 巾:2.1 厚:0.5					完形	チャート製
		54-213							
	石匙	26-214	長:5.9 巾:(1.8) 厚:0.6					ほぼ完形	サスカイト製
		54-214							
	石匙	26-215	長:5.2 巾:(3.5) 厚:0.6					ほぼ完形	サスカイト製
		54-215							
	石匙	26-216	長:(4.5) 巾:(8.3) 厚:1.0					ほぼ完形	サスカイト製
		54-216							
	削器	26-217	長:(5.8) 巾:2.8 厚:1.0					ほぼ完形	サスカイト製
		55-217							
	削器	26-218	長:(5.5) 巾:2.2 厚:0.7					ほぼ完形	サスカイト製
		55-218							
	削器	26-219	長:(8.2) 巾:3.0 厚:0.9					ほぼ完形	サスカイト製
		55-219							
	削器	26-220	長:(7.2) 巾:5.0 厚:1.4					ほぼ完形	サスカイト製
		55-220							
	削器	26-221	長:3.8 巾:(8.8) 厚:1.1					ほぼ完形	サスカイト製
		55-221							

図 版

八ノ坪遺跡・田原城跡



1. 1・2地区 現況
(南西から)



2. 3・4地区 現況
(北東から)



3. 5・6地区 現況
(南西から)



1. 7・8地区
機械掘削状況
(東から)



2. 7・8地区
機械掘削完了状況
(東から)



3. 12地区
機械掘削状況
(北西から)



1. 人力掘削状況



2. 造構検出状況



3. 造構掘り状況



1. 遺物①
出土状況



2. 遺物(207)
出土状況



3. 遺物(214)
出土状況



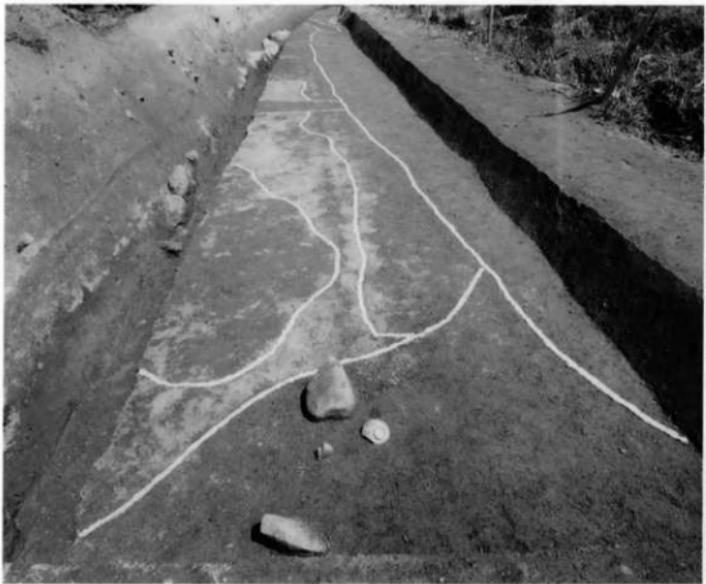
1. 1~4地区 遺構全景（北東から）



2. 1~4地区 遺構全景（南西から）



1. 1地区 遺構検出（北東から）



2. 1地区 遺物⑧ 出土状況（南西から）



1. 1地区 遺構全景（北東から）



2. 1・2地区 北壁断面（南西から）



1. 2地区 遺構検出（北東から）



2. 2地区 遺構全景（北東から）



1. 3地区 遺構検出（南西から）



2. 3地区 遺構全景（北東から）



1. 3地区 遺構全景（南西から）



2. 3・4地区 北壁断面（北東から）



1. 4地区 遺構検出（北東から）



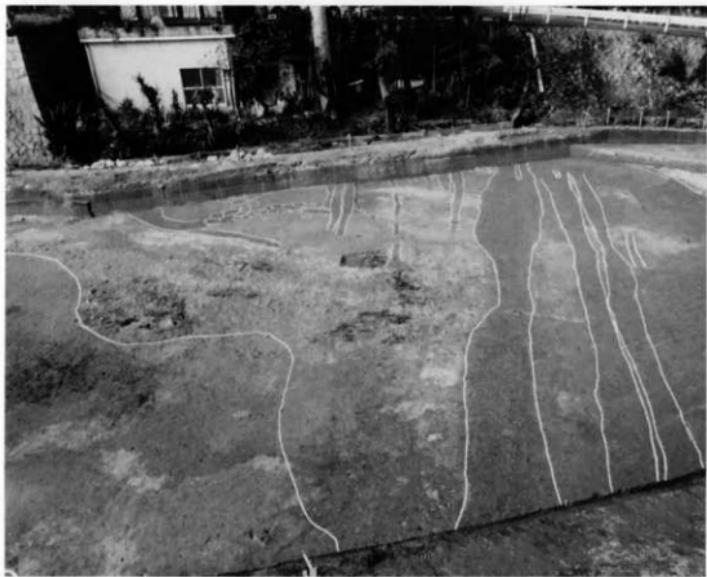
2. 4地区 遺構全景（南西から）



1. 5・6地区 遺構全景（北東から）



2. 5・6地区 遺構全景（西から）



1. 5・6地区 遺構検出（南東から）



2. 5・6地区 遺構検出（北から）



1. 5・6地区 遺構全景（南から）



2. 5・6地区 遺構全景（北から）



1. 5・6地区 遺構全景（南東から）



2. 5・6地区 遺構全景（東から）



1. 5・6地区 地山全景（南から） 北壁断面



2. 5・6地区 地山全景（北東から） 北壁断面



1. 7・8地区 全景（北東から）



2. 7・8地区 全景（南西から）



1. 7地区 第1造構面検出（北東から）



2. 7地区 第1造構面検出（南西から）



1. 7地区 第1遺構面全景（北東から）



2. 7地区 第1遺構面全景（南西から）



1. 7地区 第2遺構面検出（北東から）



1. 7地区 第2遺構面全景（北東から）



1. 7地区 第2遺構面全景（南西から）



2. 7地区 地山全景（北東から） 北・南壁断面



1. 7地区 東壁断面（南西から）



2. 8地区 遺構検出（南西から）



1. 8地区 遺構全景（西から）



2. 8地区 地山全景（南西から）



1. 8地区 南壁断面（西から）



2. 8地区 南壁断面（旧河川6）（北西から）



1. 9・10地区 全景（南西から）



2. 9・10地区 全景（北西から）



1. 9地区 遺構検出（北西から）



2. 9地区 遺構全景（北西から）



1. 9地区 遺構全景（西から）



2. 9地区
地山全景（西から）



3. 9地区
南壁断面（北西から）



1. 10地区 遺構検出（南西から）



2. 10地区 遺構検出（北東から）



1. 10地区 遺構全景（西から）



2. 10地区 地山全景（北東から） 南壁 断面



1. 11~13地区 全景（北東から）



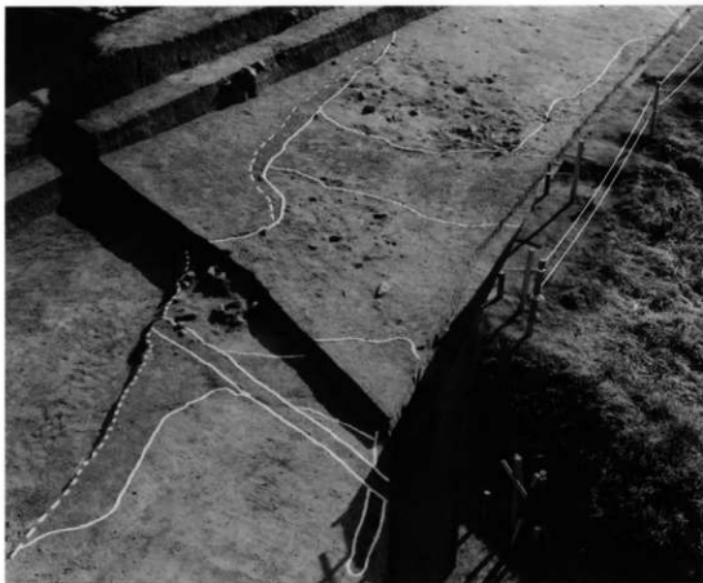
2. 11地区 遺構検出（北西から）



1. 11地区 遺構全景（北西から）



2. 11地区 遺構全景（南西から）



1. 12地区 遺構検出（北東から）



2. 12地区 遺構全景（北東から）



1. 11地区 地山全景（南東から） 北壁断面



2. 12地区 地山全景（北西から） 北壁断面



1. 13地区 遺構検出（北西から）



2. 13地区 遺構全景（北西から）



1. 13地区 地山全景（南東から） 南壁断面



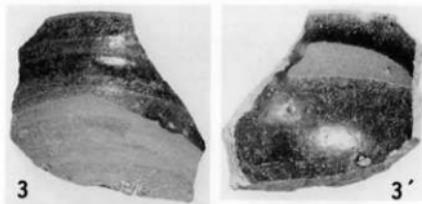
2. 13地区 地山全景（南東から） 南壁断面



1



2



3



3'



4



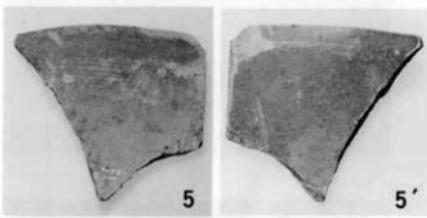
7



8



9



5

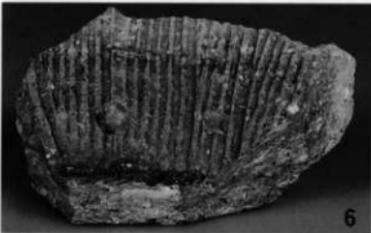
5'



10



11



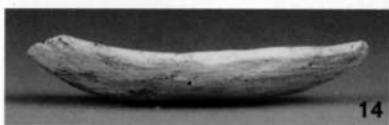
6



12



13



14



18



15



19



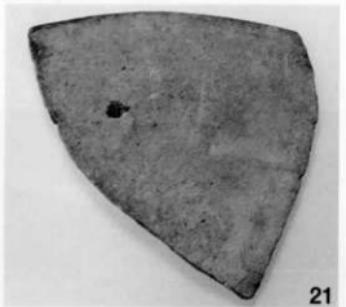
16



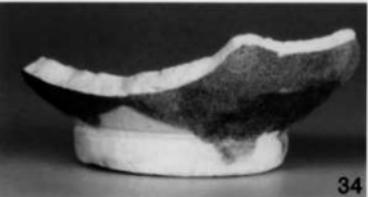
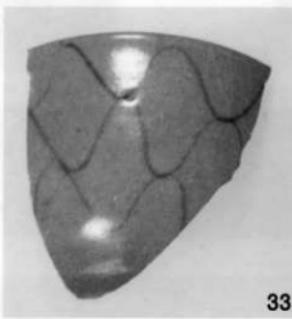
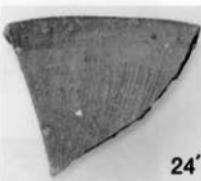
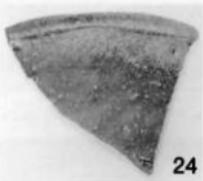
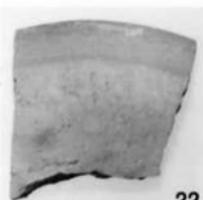
20

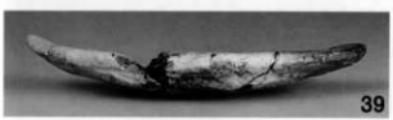


17



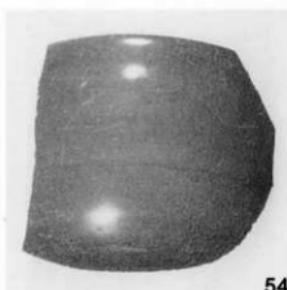
21







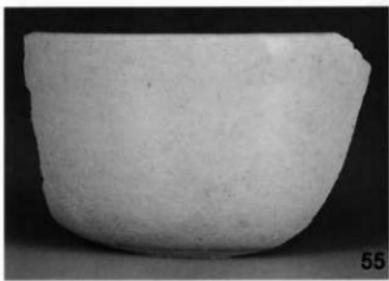
50



54



51



55



52



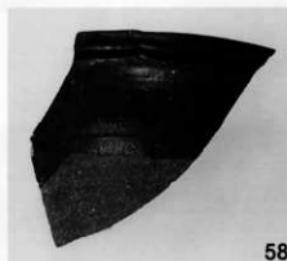
56



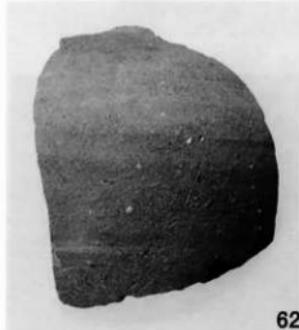
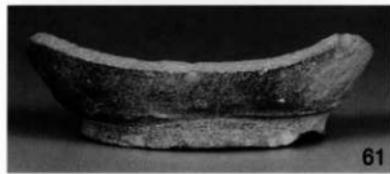
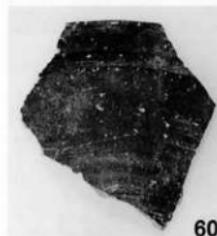
57



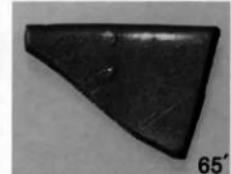
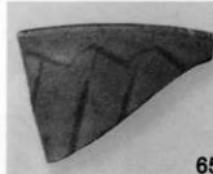
53



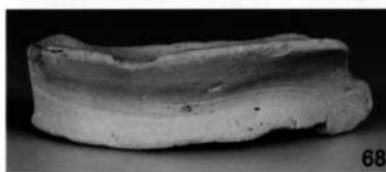
58

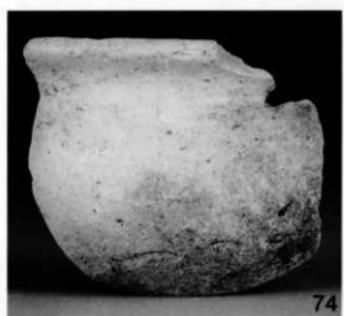
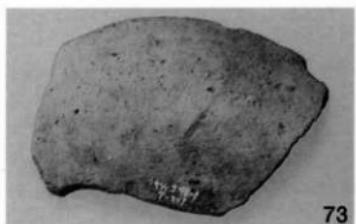


62



66







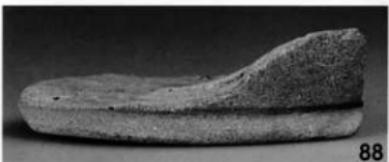
82



87



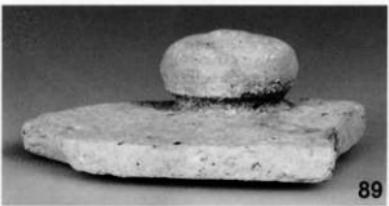
83



88



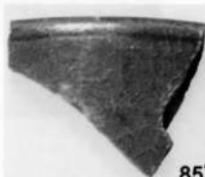
84



89



85



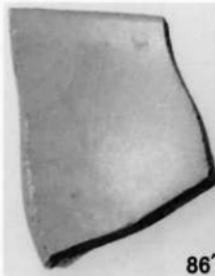
85'



90



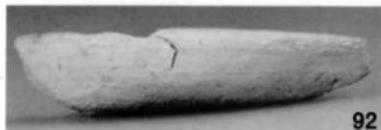
86



86'



91



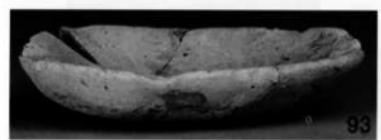
92



97



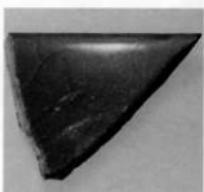
97'



93



98



98'



94



99



99'



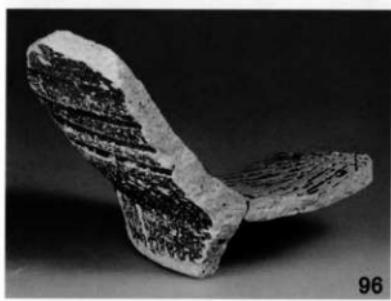
95



100



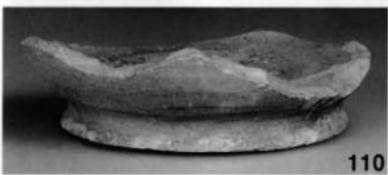
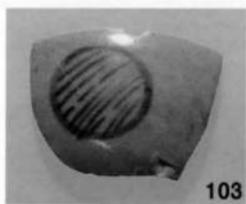
100'

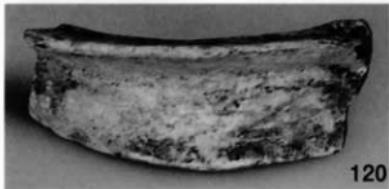
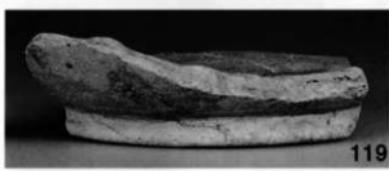
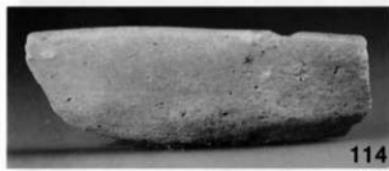


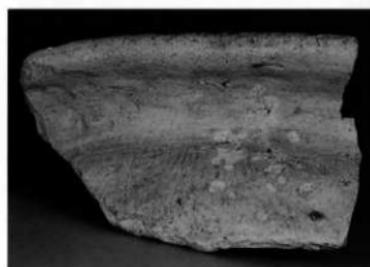
96

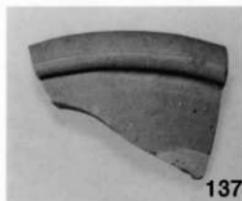
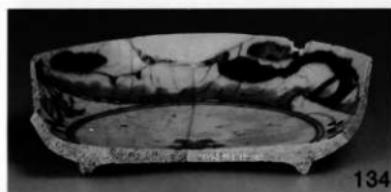


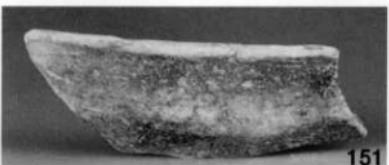
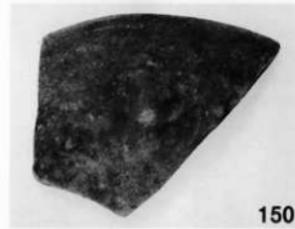
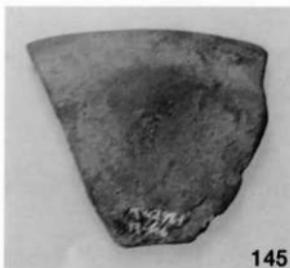
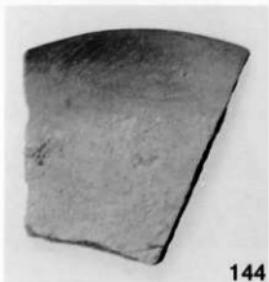
101













153



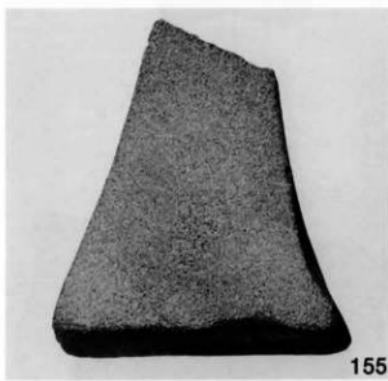
154



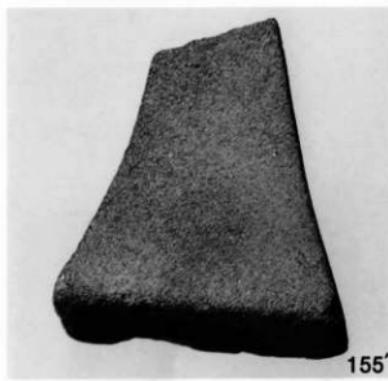
154'



154''



155



155'



156



157



158



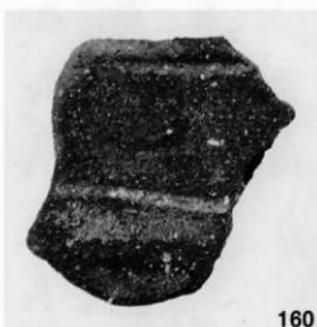
161



159



162



160



163



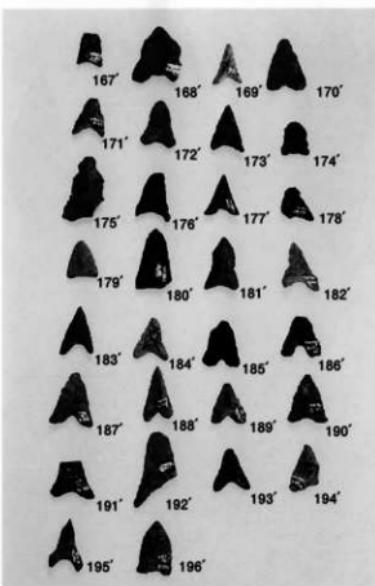
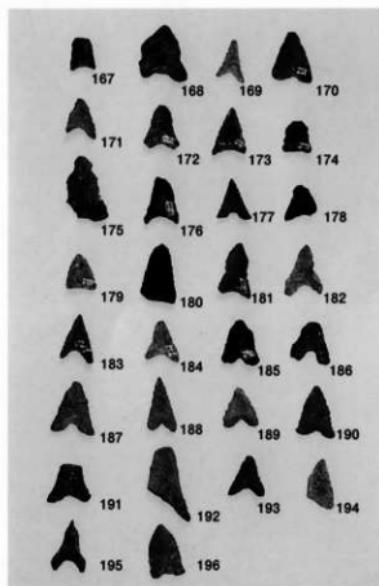
164

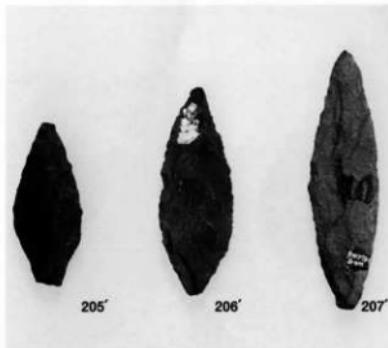
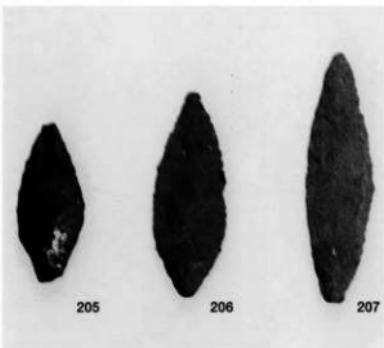
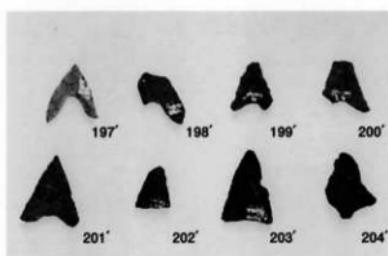
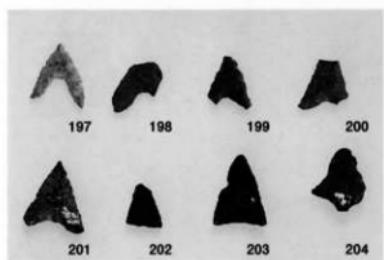


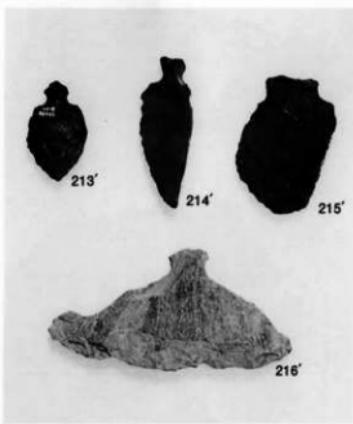
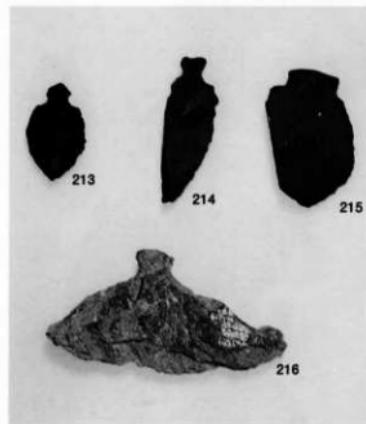
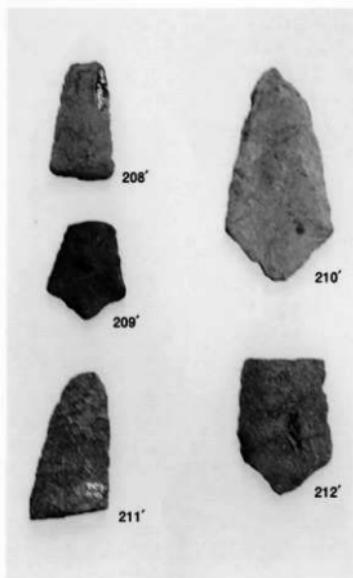
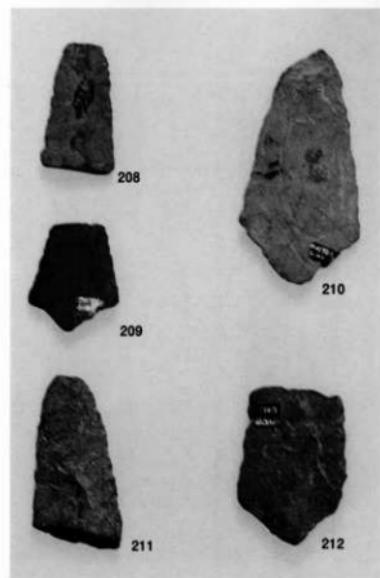
165

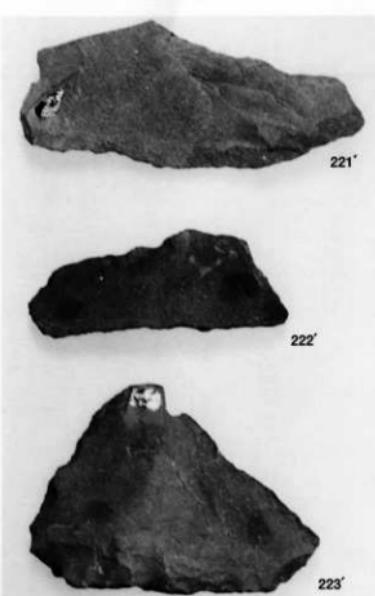
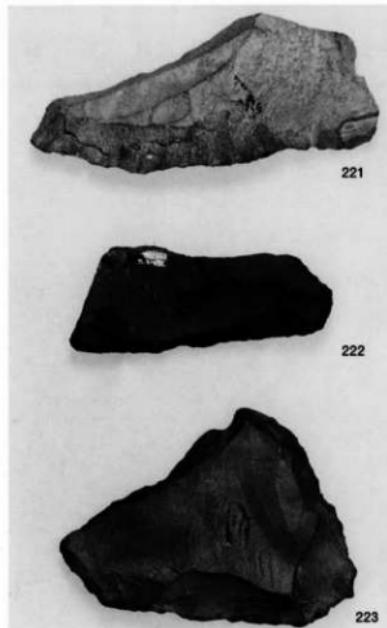
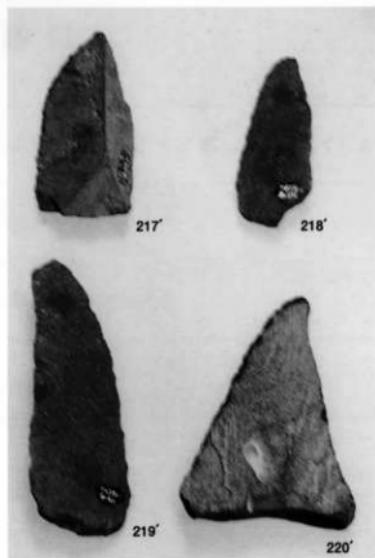
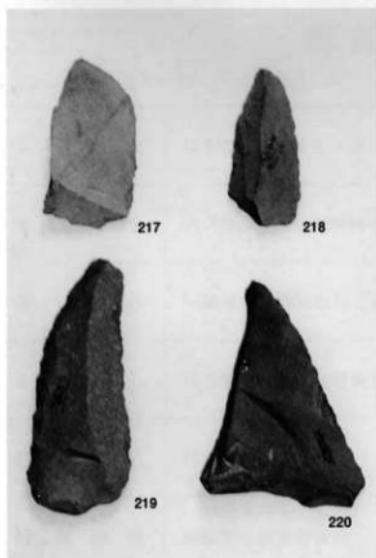


166









報告書抄録

ふりがな	はちのつぼいせき・たわらじょうあとはくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	八ノ坪遺跡・田原城跡発掘調査概要報告書
副書名	一級河川天野川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ名	四條畷市埋蔵文化財調査報告
編著者名	村上 始
編集機関	四條畷市教育委員会
所在地	〒575-8501 大阪府四條畷市中野本町1番1号 TEL 072-877-2121
発行日	2001年(平成13年)2月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在 地	コード 市町村	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
はちのつぼいせき・ たわらじょうあと	しじょうなわてし かみたわら	272299	34° 42'	135° 41' 52"	平成 10年8月27日 平成 11年3月10日	3,359m ²	河川改修 工 事

所 収 遺 跡	種 别	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特記事項
八ノ坪遺跡・ 田原城跡	集 落 城館跡	縄文・弥 生・平安 ～近世	Pit・土坑・ 落込み・旧 河川・溝	縄文土器・須恵器 ・土師器・土馬・ 輸入磁器・国産陶 磁器・石器	河川における 水辺祭祀・田 原城に関連す る遺構

一級河川天野川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

八ノ坪遺跡・田原城跡
発掘調査概要報告書

平成13年2月発行

編集 四條畷市教育委員会

発行 四條畷市教育委員会
四條畷市中野本町1-1

印刷 川西軽印刷株式会社

